

# マルチスキャン プロジェクター

## 特約店様用設置説明書

**重要**

この設置説明書はサービス担当の方用に書かれたものです。

# VPH-G70QJ

# 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることもあり、危険です。

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

## 安全のための注意事項を守る

5～8ページの注意事項をよくお読みください。

## 定期点検をする

5年に1度は内部の点検をお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。(有料)

## 故障したら使わない

すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

## 万一、異常が起きたら

- ・煙が出たら
- ・異常な音、においがしたら
- ・内部に水、異物が入ったら
- ・製品を落としたりキャビネットを破損したときは



- ① 電源を切る。
- ② 電源コードや接続コードを抜く。
- ③ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡する。

### 警告表示の意味

設置説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながる可能性があります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

### 注意を促す記号



注意



火災



感電

### 行為を禁止する記号



禁止

### 注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づく第一種情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波障害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を構ずるよう要求されることがあります。

# 目次

	⚠ 警告 .....	5
	⚠ 注意 .....	7
	電池についての安全上のご注意 .....	8
設置	設置の手順 .....	9
	設置例 .....	10
	<b>設置とメンテナンスに必要な空きスペースについて</b> .....	10
	<b>ハンドルを使用する - プロジェクタ - を運ぶとき</b> .....	13
	<b>床置き、フロント投影(平面スクリーン使用時)</b> .....	14
	<b>天井つり、フロント投影(平面スクリーン使用時)</b> .....	16
	<b>床置き、リア投影(平面スクリーン使用時)</b> .....	18
	<b>スクリーンについて</b> .....	20
	設置条件に合わせて本体内部を変更する .....	22
	<b>上部、前部、後部カバーの取り外しかた</b> .....	22
	<b>極性を変更する</b> .....	24
	<b>CRT コンバー角を調整する</b> .....	26
接続	コネクター部の名称と働き .....	28
	75 ターミネットコネクターを切り換える .....	30
	プロジェクター本体に直接映像機器を接続する .....	32
	シグナルインターフェーススイッチャーを使用する .....	33
	複数のプロジェクターを接続する .....	37
	<b>ABL リンクを使用する</b> .....	40
調整の前に	調整の手順 .....	42
	リモートコマンダーについて .....	43
	<b>リモートコマンダーの準備</b> .....	43
	<b>リモートコマンダーのキーの名称と働き</b> .....	46
	メニュー操作 .....	49
	<b>基本的なメニュー操作</b> .....	49
	<b>入力切替メニュー</b> .....	50
	<b>画質調整メニュー</b> .....	51
	<b>信号設定メニュー</b> .....	53
	<b>初期設定メニュー</b> .....	56
	<b>入力情報メニュー</b> .....	58
	<b>サービス設定メニュー</b> .....	60
	<b>セット情報メニュー</b> .....	61
	<b>ユニフォーミティ調整メニュー</b> .....	62
	<b>ABL リンク調整メニュー</b> .....	63
	<b>オプションメニュー</b> .....	63
	テストパターン .....	64
	<b>テストパターンの種類</b> .....	64
	<b>各調整モードで使うテストパターン</b> .....	66

(続く)

調整

フォーカスを調整する .....	67
フォーカス調整の手順 .....	67
緑のフォーカスを調整する .....	68
赤と青のフォーカスを調整する .....	74
レジストレーションを調整する .....	77
レジストレーション調整の手順 .....	77
レジストレーション調整の準備 .....	78
レジストレーション調整で使用するキーについて .....	79
緑のレジストレーションを調整する .....	80
赤のレジストレーションを調整する .....	89
青のレジストレーションを調整する .....	98
標準レジストレーションデータを記憶させる .....	99
入力信号ごとに微調整する .....	100
ビデオ信号を接続している場合 .....	100
RGB 信号を接続している場合 .....	104
ホワイトバランスを調整する .....	107
データの記憶 .....	109
データのリセット .....	111
データをリセットする .....	112
調整した設定を誤操作から保護する .....	113
画質を調整する .....	114

その他

ウォーミングアップ時間を変更する .....	115
エラーコード .....	116
打ち込み角に対する投射距離一覧表 .....	117
索引 .....	122



下記の注意を守らないと、**火災や感電により死亡や大けが**につながる可能性があります。



注意

### 開梱・運搬は二人以上で

開梱・運搬は、必ず二人以上で行ってください。一人で行うと腰を痛めたり、落として足を痛めたりすることがあります。



禁止

### 通風孔をふさぐような場所に設置しない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 壁などから通風口を 30 cm 以上離して設置する。
- 密閉された狭い場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- 布などで包まない。



注意

### 天井への取り付けには細心の注意を要する

- 天井に取り付ける際には、十分注意をしないと手をすべらせて落とし、死亡や大けがにつながる可能性があります。
- プロジェクターサスペンションサポートのブラケットへの取り付けが不完全だと、本機が落下して下にいる人に当たり、死亡や大けがにつながる可能性があります。
- 天井の強度が不十分だと、天井ごと落下し、死亡や大けがにつながる可能性があります。（詳しくは、プロジェクターサスペンションサポート PSS-70 の取付説明書をご覧ください。）
- 天井に吊った状態でキャビネットのカバーを開閉するときなど、キャビネットが回転するため、十分注意をしないと、落下してけがの原因となることがあります。



禁止

### 不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、地震などで倒れたり落ちたりしてけがの原因となります。また、設置・取り付け場所の強度を十分にお確かめください。



禁止

### 調整用工具を内部に入れない

調整中などに、工具を誤って内部に落とすと火災や感電の原因となることがあります。

万一、落とした場合は、すぐに電源を切り、電源コードを抜いてください。



下記の注意を守らないと、  
**火災**や**感電**により**死亡**や**大けが**につながる可能性があります。



禁止

### CRT レンズを直接のぞかない

投影中にCRT レンズをのぞき込むと、目に悪影響を与えるおそれがあります。



禁止

### 容量の小さい電源延長コードを使用しない

容量の小さい延長コードを使うと、ショートしたり火災や感電の原因となることがあります。



下記の注意を守らないと、  
**けが**をしたり周辺の物品に**損害**を与えることがあります。



注意

#### 運搬・移動時はハンドルを持って慎重に

- 運搬するときは、必ずハンドルを持ってください。他の部分を持つとプロジェクターが壊れたり、落としてけがをすることがあります。また、ハンドルと床や台の間に指を挟まないようにご注意ください。
- ドアに指を挟まないようにご注意ください。
- 運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。
- 床置きのプロジェクターを移動させるとき、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。
- キャビネットのカバーを開けたまま、電源を切らずに移動させないでください。感電の原因となることがあります。



注意

#### アジャスター調整時、手を挟まないよう注意する

アジャスターを回しすぎるとアジャスターがはずれ、手を挟むことがありますのでご注意ください。



禁止

#### ファンに指を入れない

通電中、誤ってファンに指を突っ込んでしまうと、けがをすることがあります。



禁止

#### コード類は正しく配置する

電源コードや接続コードを足に引っかけると転倒したり、プロジェクターの落下によりけがの原因となることがあります。十分注意して接続・配置してください。



注意

#### 低い天井に天吊りしない

頭などをぶつけてけがをすることがあります。



禁止

#### キャビネットのカバー類はしっかり固定する

天吊りの場合、カバー類が固定されていないと落下して、けがの原因となることがあります。

# 電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記のことを必ずお守りください。

## 警告

- ・ 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- ・ 充電しない。
- ・ 指定された種類の電池を使用する。

## 注意

- ・ リモートコマンダーに単3形乾電池を入れるときは、⊖極側から入れる。  
⊕極側から乱暴に入れようとすると、特にアルカリ乾電池の場合、絶縁被膜が破れてショートすることがあり、液漏れや発熱のおそれがあります。
- ・ 電池を使い切ったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく。
- ・ 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

もし電池の液が漏れたときは、電池入れの液をよくふきとってから、新しい電池を入れてください。万一、液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

本機は、床置きにして120インチのフロントスクリーンに投影した場合に正常な映像が映るように工場出荷時に設定されています。それ以外の設置方法でご使用になる場合には、本体内部の設定の一部を変更する必要があります。したがって、設置の手順は、ご使用になるスクリーンサイズやスクリーンタイプ、設置場所によって異なります。

- ① 打ち込み角と投射距離、プロジェクターとスクリーンの高さなどの設置の条件を確認する。  
↓
- ② 投影の種類に合わせて、極性を変更する。(24 ページ)  
↓
- ③ プロジェクターとスクリーンを設置する。(10 ページ)  
↓
- ④ レジストレーションデータを工場出荷時の設定にリセットする。(112 ページ)  
↓
- ⑤ CRT コンバー角を調整する。(28 ページ)  
↓
- ⑥ レンズフォーカスとあおり角を調整する。(68 ページ)  
↓
- ⑦ マグネフォーカス、2極/4極、AQP/DQPを調整する。(72 ページ)  
↓
- ⑧ レジストレーションを調整する。(77 ページ)  
↓
- ⑨ 外部映像機器と接続する。(32 ページ)  
↓
- ⑩ それぞれの入力信号について調整する。(100、104 ページ)
  - マグネフォーカスとレジストレーションを微調整する。(100、104 ページ)
  - 画像の大きさとシフトを調整する。(102、105 ページ)
  - ブランキングを調整する。(103、106 ページ)

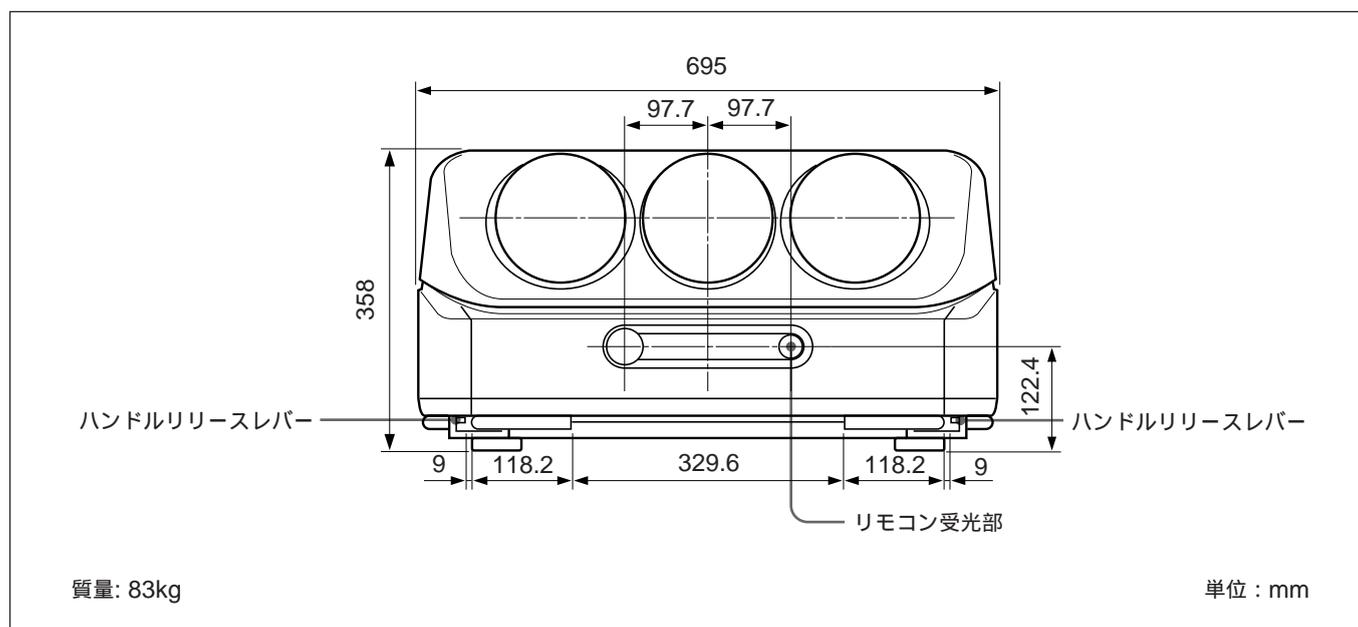
# 設置例

## 設置とメンテナンスに必要な空きスペースについて

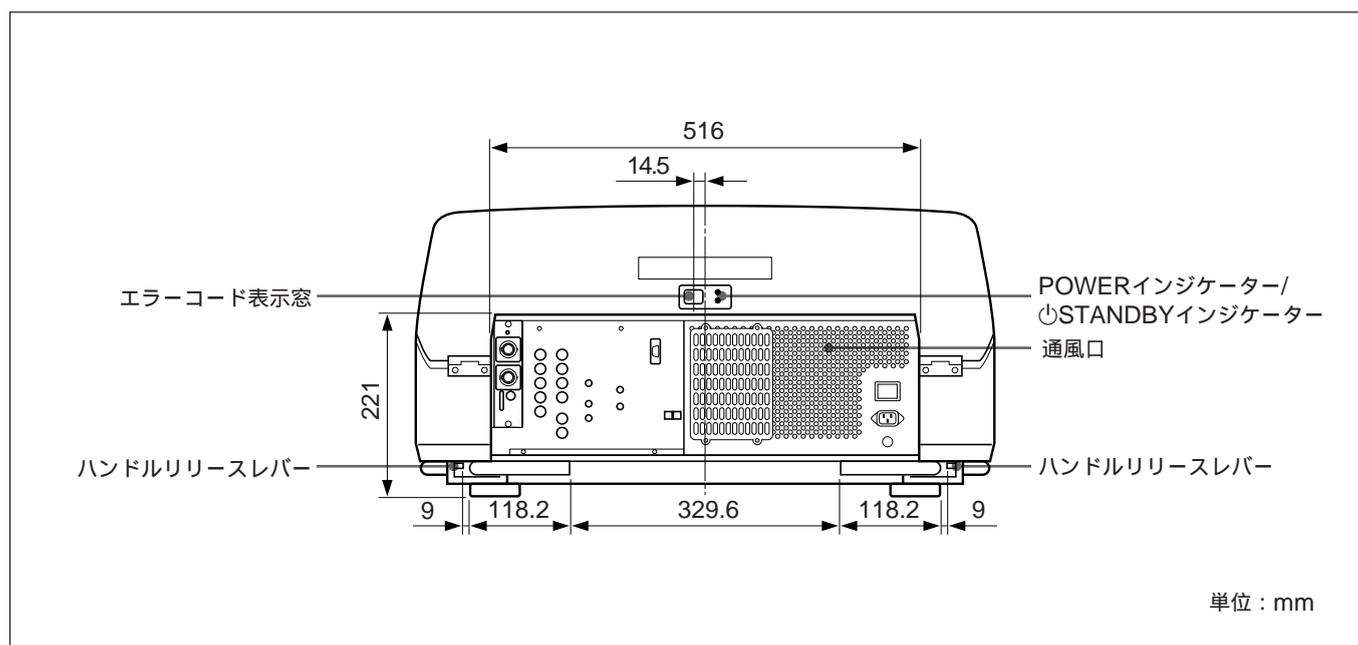
プロジェクターのアフターケアのためには、本体の周りにスペースが必要となります。以下の寸法図を参照のうえ、このスペースを確保して設置してください。  
また、通風口の周囲には、最低30cmの空間を確保し、通風口をふさがないようにしてください。

設置

### 前面



### 後面



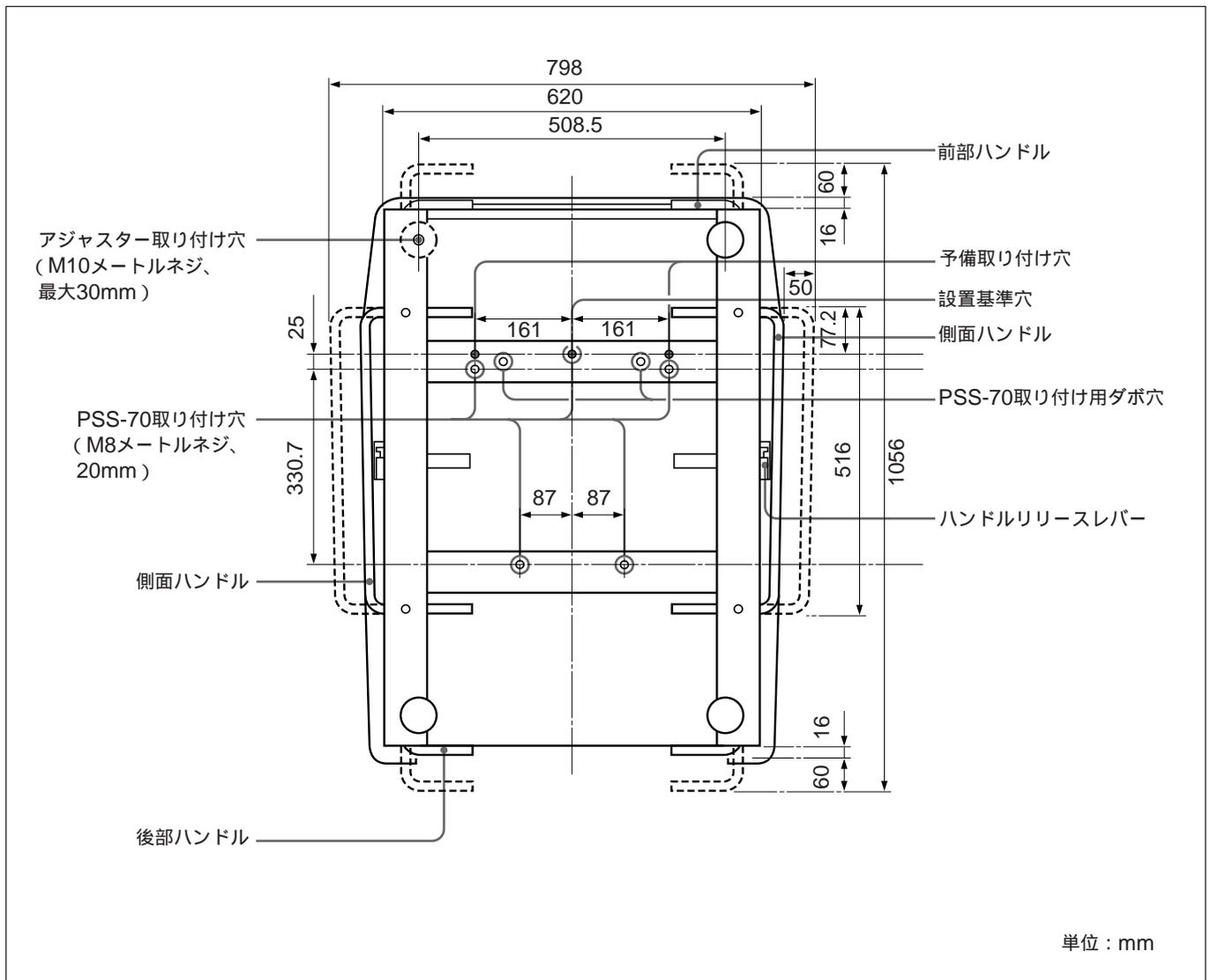
## 底面

底面の設置基準穴は、設置上の位置決めの基準になります。

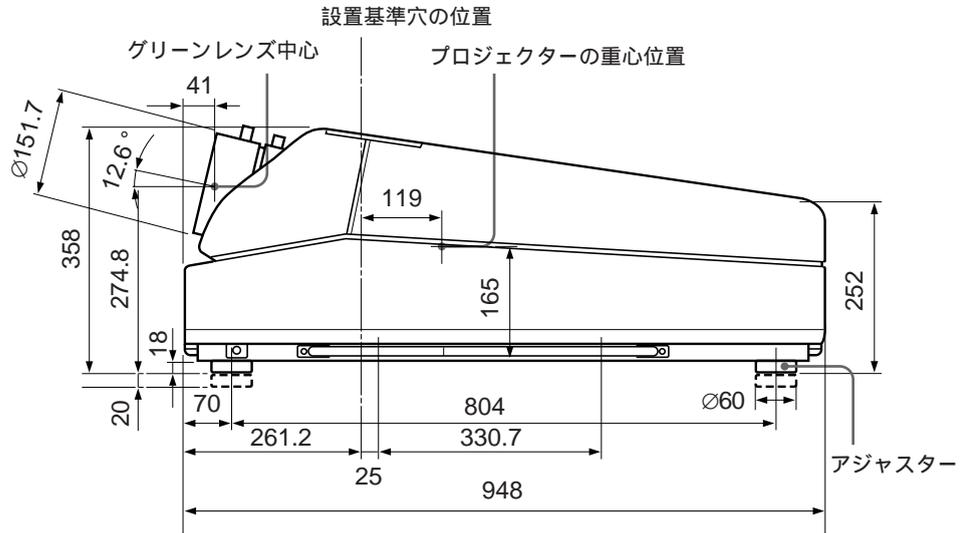
底面には7か所の取り付け穴があります。プロジェクターサスペンションサポートPSS-70を使用して天井吊りする場合は、5か所の取り付け穴を使用してプロジェクターを固定してください。残りの2つは予備穴です。

**ご注意**

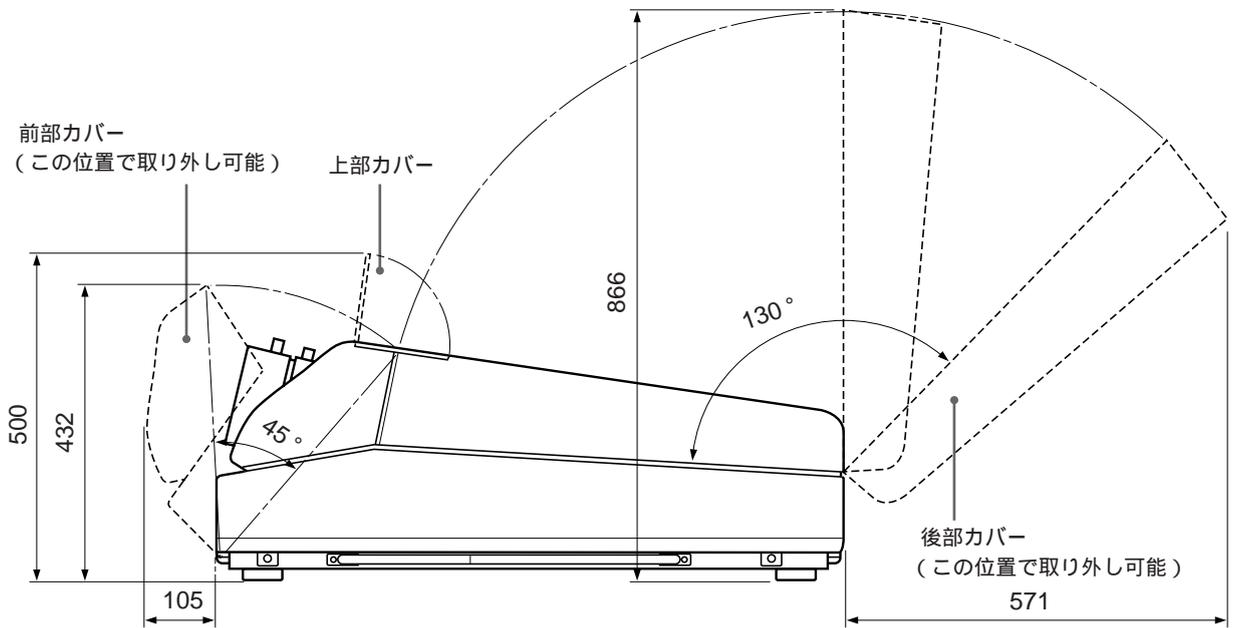
- PSS-70 取り付け穴には M8メートルネジ (10mm ~ 30mm) を使用してください。
- プロジェクターサスペンションサポートPSS-70を使用する場合には、PSS-70に付属の M8メートルネジ (20mm) を使用してください。



側面



カバーを開けた状態



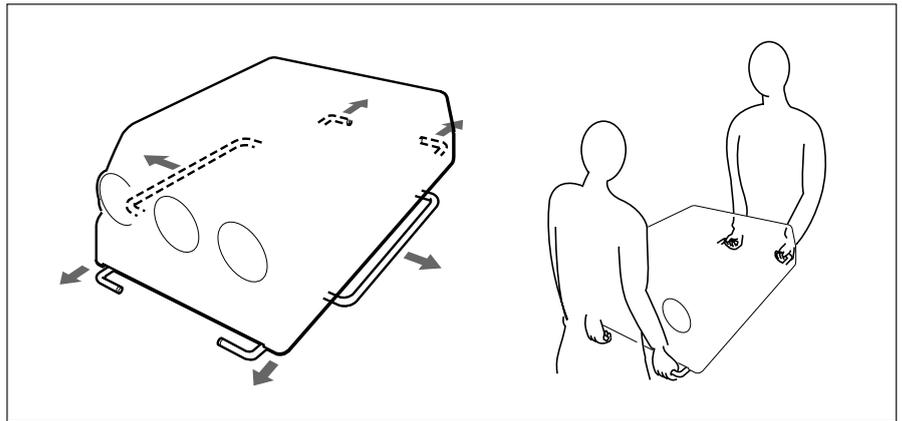
単位 : mm

## ハンドルを使用する - プロジェクターを運ぶとき

プロジェクター本体を運ぶときには、前後左右のハンドルを使用します。

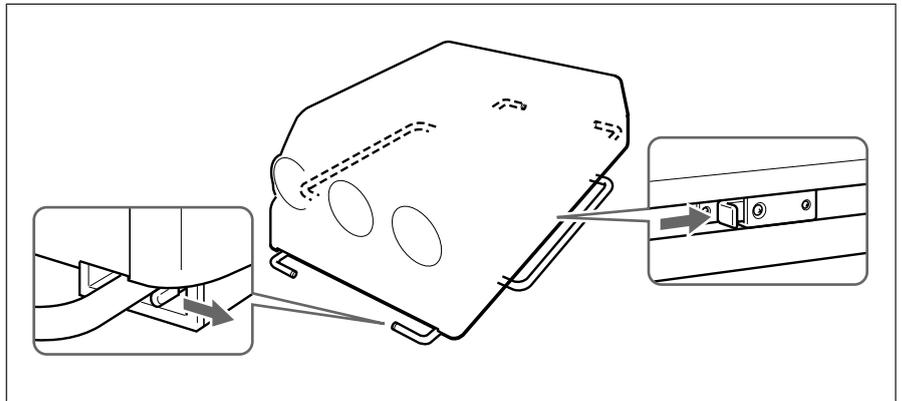
### ハンドルを使用する

前後または左右のハンドルを引き出します。



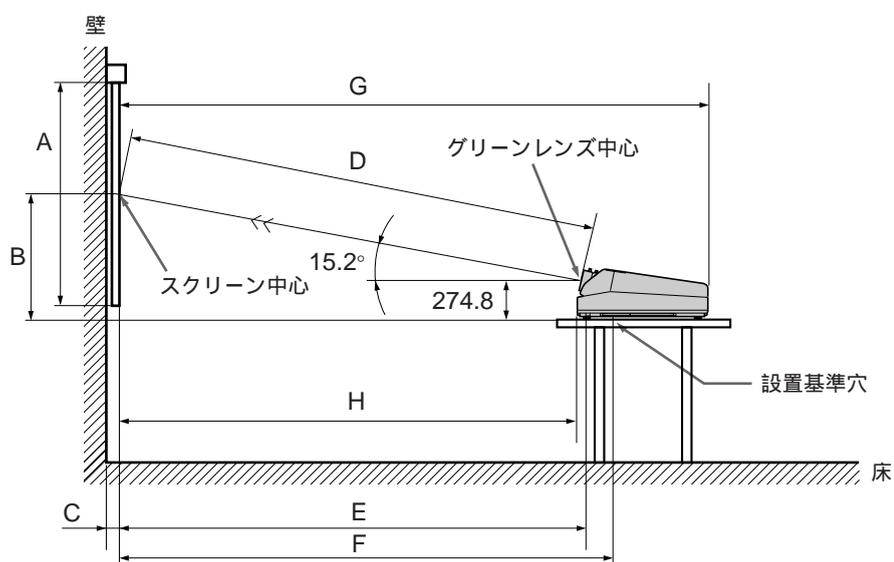
### ハンドルをしまう

各ハンドルの根元にあるリリースレバーを押すと、ハンドルが自動的に収納されます。



床置き、フロント投影(平面スクリーン使用時)

プロジェクターを床に平行に設置してください。



B : プロジェクター底面からスクリーン中心までの長さ  
 E : スクリーンからグリーンレンズ中心までの水平距離  
 F : スクリーンから設置基準穴までの水平距離

許容寸法 B : ±5 %  
 その他の寸法 : 0 % ~ +5 %

は出荷時の設定 単位 : mm

スクリーンサイズ (インチ)	60	70	80	90	100	120	150	180	200	250	300
A (Vsize)	914	1067	1219	1372	1524	1829	2286	2743	3048	3810	4572
B (Hcent)	725	794	865	935	1005	1145	1356	1566	1707	2058	2410
C (Width)					28 <sup>a)</sup> 、32 <sup>b)</sup>	32 <sup>c)</sup>					
D (TD)	1727	1990	2256	2522	2787	3316	4117	4916	5446	6778	8117
E (Xlens)	1668	1921	2177	2434	2689	3200	3972	4743	5254	6539	7831
F (Lhole)	1888	2141	2397	2654	2910	3420	4193	4964	5475	6760	8051
G (Lmax)	2575	2828	3084	3341	3596	4107	4879	5650	6161	7446	8738
H (Lfront)	1627	1880	2136	2393	2648	3159	3931	4702	5213	6498	7790

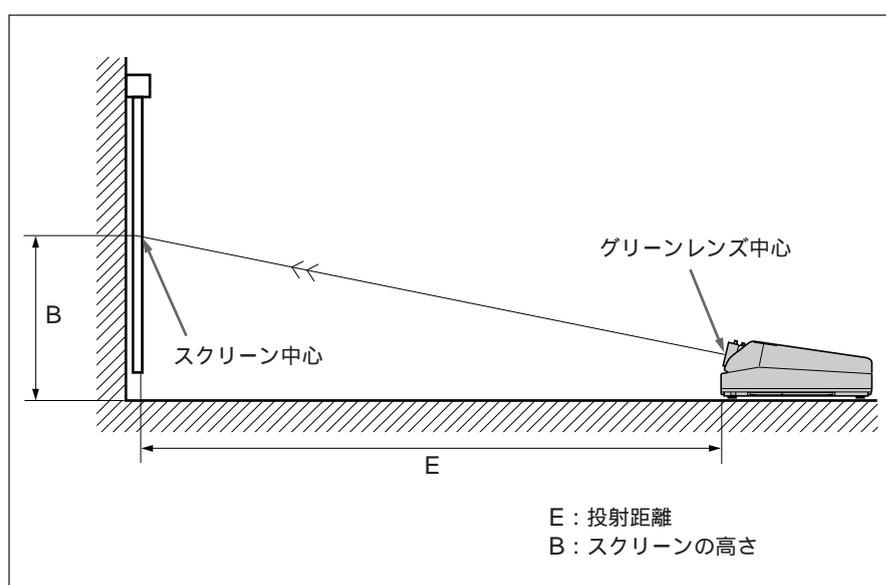
- a) ソニー製スクリーン VPS-80FH、VPS-100FH
- b) ソニー製スクリーン VPS-100FMJ
- c) ソニー製スクリーン VPS-120FH、VPS-120FMJ

## スクリーンサイズによる設置寸法の求めかた

フロント投影の場合、14、16ページの設置寸法表にないサイズのスクリーンをご使用になるときは、下記の方法でスクリーンサイズから設置寸法を求めることができます。

まず、次の数値を確認します。

- 使用するスクリーンサイズ(S)
- 巻末の表の中で、使用しているスクリーンサイズ(S)より1つ大きいサイズ用のEの値(EL)とBの値(BL)、1つ小さいサイズ用のEの値(ES)とBの値(BS)  
詳しくは117～121ページの表をご覧ください。



設置寸法は次のように計算します。

$$E(\text{mm}) = ES + ((S - 1 \text{つ小さいスクリーンサイズ}) \times (EL - ES) \times 0.1)$$

$$B(\text{mm}) = BS + ((S - 1 \text{つ小さいスクリーンサイズ}) \times (BL - BS) \times 0.1) + 275$$

例：124インチスクリーンを使用する場合

118ページの表を使ってEとBの値を求めると

ES = 3200, BS = 870 (1つ小さいスクリーンサイズである、120インチ用の値)

EL = 3457, BL = 940 (1つ大きいスクリーンサイズである、130インチ用の値)

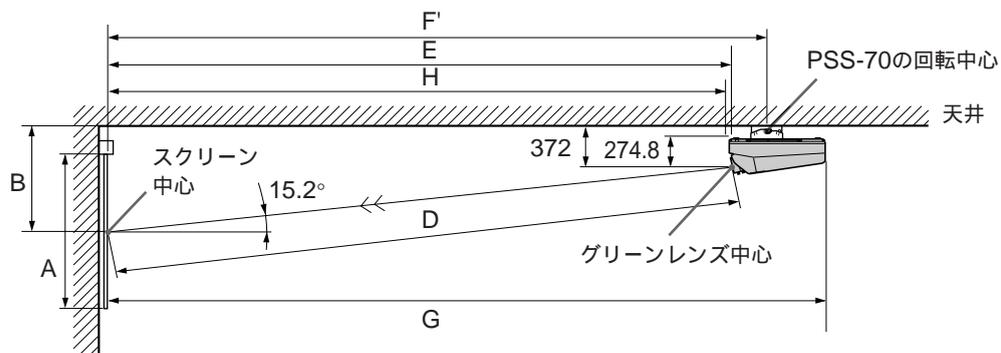
したがって、

$$E(\text{mm}) = 3200 + ((124 - 120) \times (3457 - 3200) \times 0.1) = 3303(\text{mm})$$

$$B(\text{mm}) = 870 + ((124 - 120) \times (940 - 870) \times 0.1) + 275 = 1173(\text{mm})$$

天井つり、フロント投影(平面スクリーン使用時)

別売りのプロジェクターサスペンションサポートPSS-70を使用して天井に吊り下げます。



E : スクリーンからグリーンレンズ中心までの水平距離

許容寸法 B : ±5 %  
その他の寸法 : 0 % ~ +5 %

単位 : mm

スクリーンサイズ (インチ)	60	70	80	90	100	120	150	180	200	250	300
A (Vsize)	914	1067	1219	1372	1524	1829	2286	2743	3048	3810	4572
B (Hcent)	822	891	961	1032	1102	1241	1452	1663	1804	2155	2507
D (TD)	1727	1990	2256	2522	2787	3316	4117	4916	5446	6778	8117
E (Xlens)	1668	1921	2177	2434	2689	3200	3972	4743	5254	6539	7831
F' (Lpss)	1990	2243	2500	2756	3012	3523	4295	5066	5577	6862	8154
G (Lmax)	2575	2828	3084	3341	3596	4107	4879	5650	6161	7446	8738
H (Lfront)	1627	1880	2136	2393	2648	3159	3931	4702	5213	6498	7790

必要な本体の変更

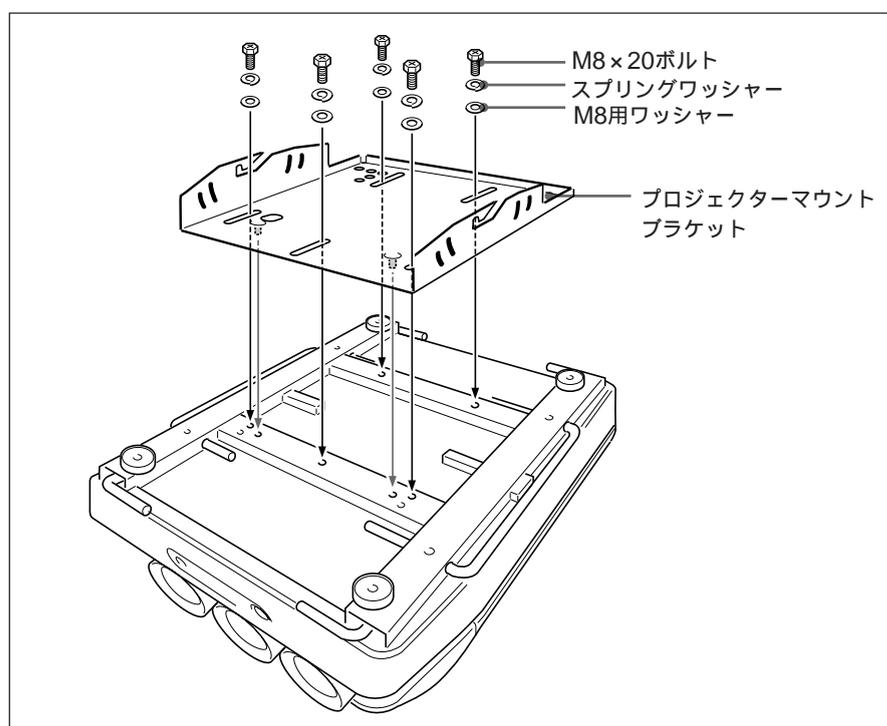
極性を「天井つり、フロント投影」用に変更する。

詳しくは「極性を変更する」(24ページ)をご覧ください。

## プロジェクターサスペンションサポートPSS-70の取り付けかた

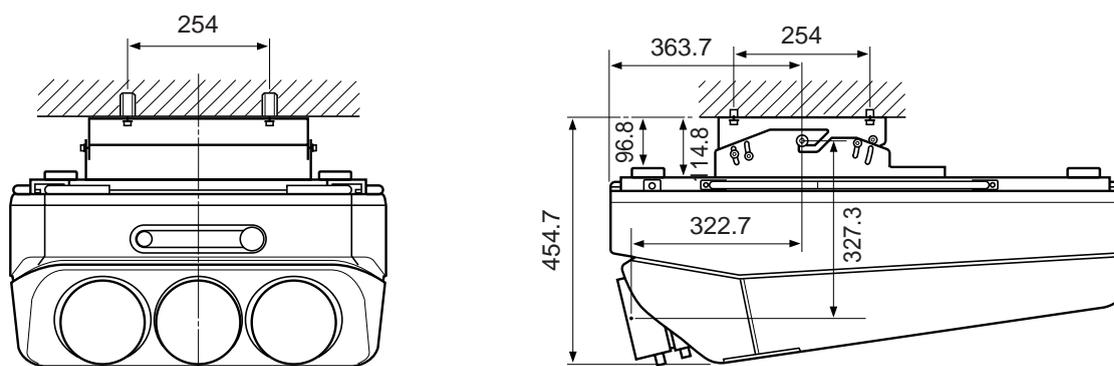
プロジェクターの底面に、PSS-70のプロジェクターマウントブラケットを取り付けます。取り付けには、PSS-70に付属のM8×20ボルト5本、M8用ワッシャー5枚、スプリングワッシャー5枚を使用します。

- 1 プロジェクターマウントブラケットの突起(2か所)をプロジェクター底面の穴に合わせる。
- 2 プロジェクターマウントブラケットをプロジェクター底面のPSS-70取り付け穴(5か所)にネジ留めする。



天井への取り付けかたは、プロジェクターサスペンションサポートPSS-70の取付説明書をご覧ください。

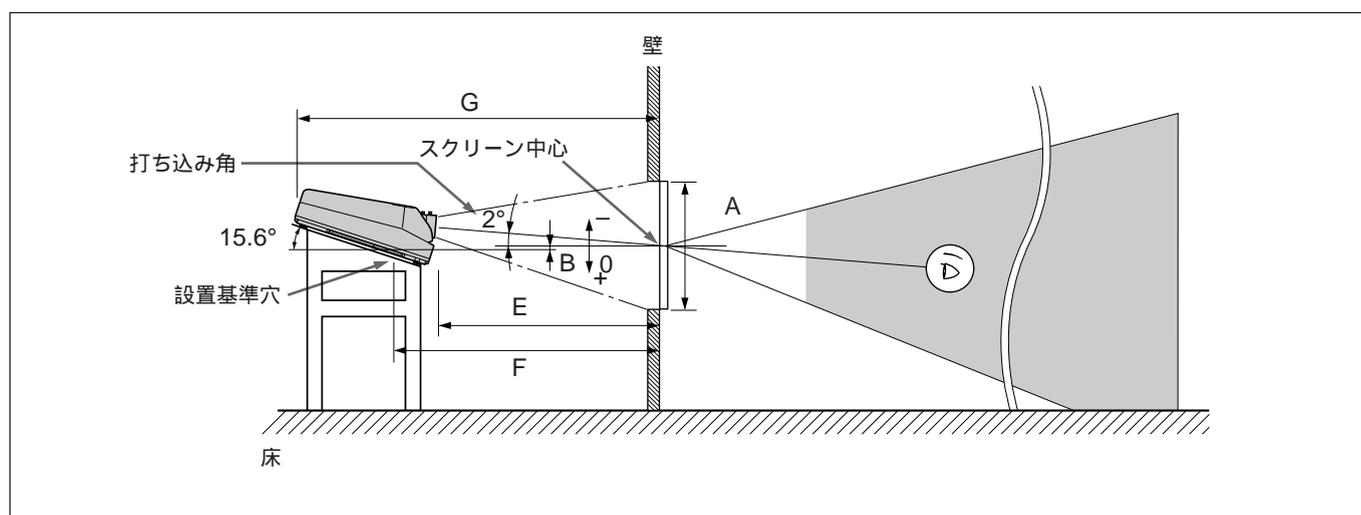
### 取り付け時の寸法



### 床置き、リア投影(平面スクリーン使用時)

打ち込み角とは  
 水平線に対するプロジェクターとスクリーン中心を結ぶ線の角度を打ち込み角と言いま  
 す。リア投影の場合は、プロジェクターとスクリーンの中心を結ぶ線の延長線上がもっと  
 も明るく見えます。  
 したがってスクリーンの高さや目の高さによって、最適な打ち込み角が異なります。

打ち込み角 = 2° のとき



単位：mm

スクリーンサイズ (インチ)	60	70	80	90	100	120	150	180	200	250	300
A (Vsize)	914	1067	1219	1372	1524	1829	2286	2743	3048	3810	4572
B (Hcent)	127	118	108	99	89	70	42	14	-5	-52	-100
E (Xlens)	1757	2024	2294	2564	2834	3371	4185	4997	5536	6889	8250
F (Lhole)	2038	2305	2575	2845	3115	3652	4466	5279	5817	7171	8531
G (Lmax)	2700	2966	3236	3507	3776	4314	5128	5940	6478	7832	9193

必要な本体の変更

極性を「床置き、リア投影」用に変更する。

詳しくは「極性を変更する」(24ページ)をご覧ください。

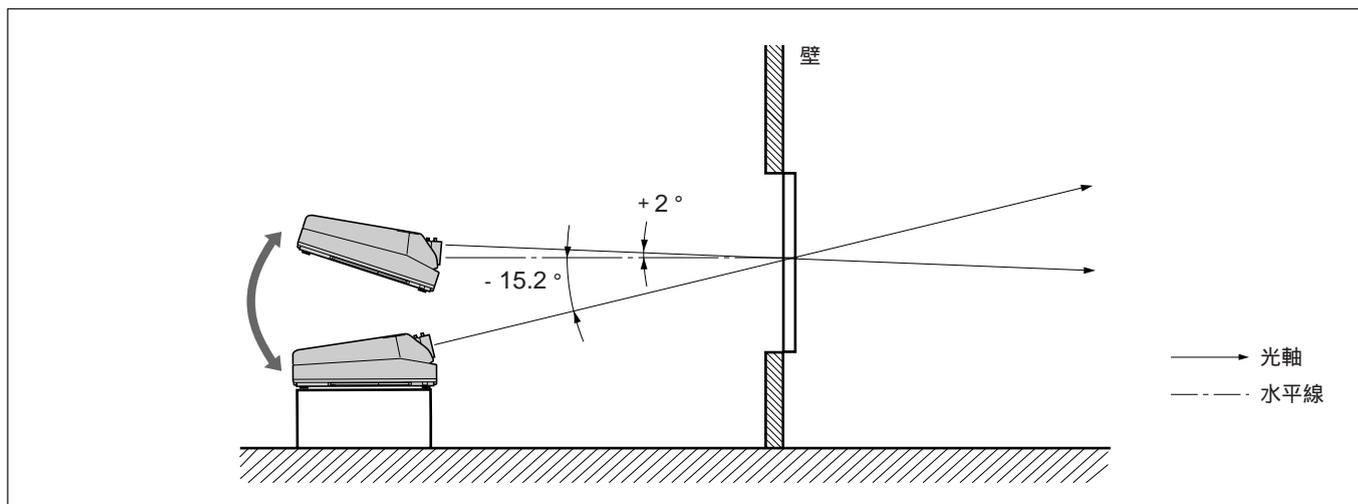
## 打ち込み角可変範囲

プロジェクターを設置するときにレンズのあおり角を調整することで打ち込み角をある範囲で自由に変えることができます。

あおり角の調整については「緑のあおり角を調整する」(70ページ)をご覧ください。

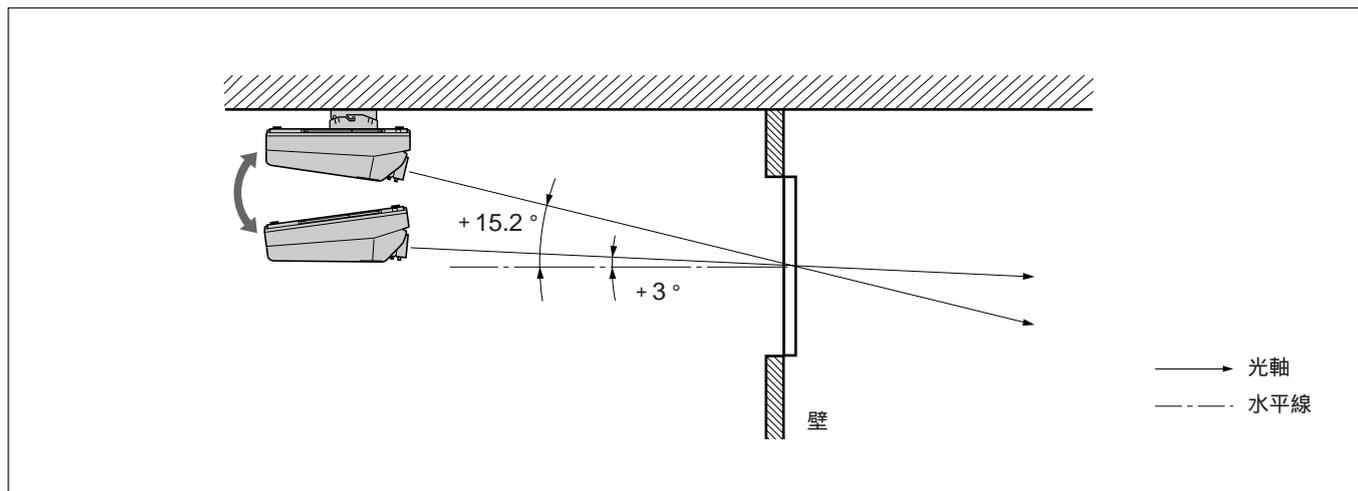
床置きの場合

打ち込み角が  $-15.2^{\circ} \sim +2^{\circ}$  の範囲で設置することができます。



天井つりの場合

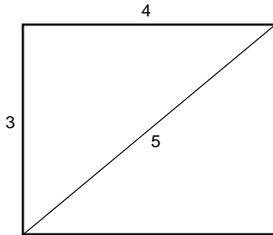
打ち込み角が  $+3^{\circ} \sim +15.2^{\circ}$  の範囲で設置することができます。



## スクリーンについて

### スクリーンサイズ

スクリーンサイズとは、縦横の比が3:4のスクリーンの対角線の長さをインチで表したものです。この場合、縦:横:対角線の比は3:4:5となります。



下の寸法表にないサイズの縦横比が3:4のスクリーンをご使用になる場合には、次の式でインチサイズから縦と横の長さを求めてください。

1インチ = 25.4 mm として計算します。

$$\text{縦 (mm)} = \text{スクリーンサイズ} \times 25.4 \times \frac{3}{5}$$

$$\text{横 (mm)} = \text{スクリーンサイズ} \times 25.4 \times \frac{4}{5}$$

スクリーンサイズと縦横の寸法表

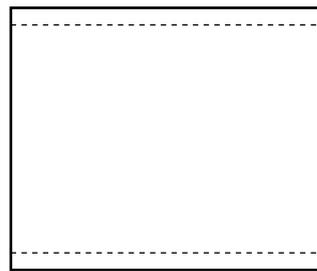
スクリーンサイズ(インチ)

(対角線長)	縦 (mm)	横 (mm)
60	914	1219
70	1067	1422
80	1219	1626
90	1372	1829
100	1524	2032
120	1829	2438
150	2286	3048
180	2743	3658
200	3048	4064
250	3810	5080
300	4572	6096

### 縦横比が3:4以外のスクリーンの場合

縦横比が3:4より縦長の場合

縦の長さから、次の式で縦横比3:4相当のスクリーンサイズを求め、そのサイズでプロジェクターの設置を行ってください。



---: 縦横比3:4のスクリーン

$$\text{スクリーンサイズ} = \text{縦の長さ (mm)} \times \frac{5}{3} \times \frac{1}{25.4}$$

例: 縦の長さが1500 mmの場合

$$1500 \times \frac{5}{3} \times \frac{1}{25.4} \quad 98 \text{ インチ}$$

縦横比が3:4より横長の場合

横の長さから、次の式で縦横比3:4相当のスクリーンサイズを求め、そのサイズでプロジェクターの設置を行ってください。



---: 縦横比3:4のスクリーン

$$\text{スクリーンサイズ} = \text{横の長さ (mm)} \times \frac{5}{4} \times \frac{1}{25.4}$$

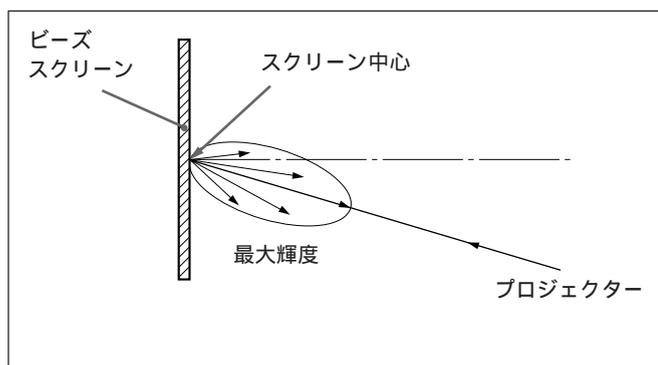
例: 横の長さが2000 mmの場合

$$2000 \times \frac{5}{4} \times \frac{1}{25.4} \quad 98 \text{ インチ}$$

## スクリーンの種類

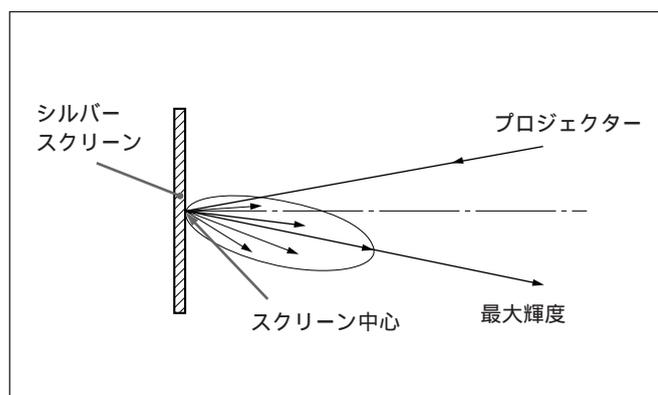
床置き、フロント投影用スクリーン

ビーズスクリーンが最適です。このタイプのスクリーンでは、入射したところに一番明るい光が戻ってきます。



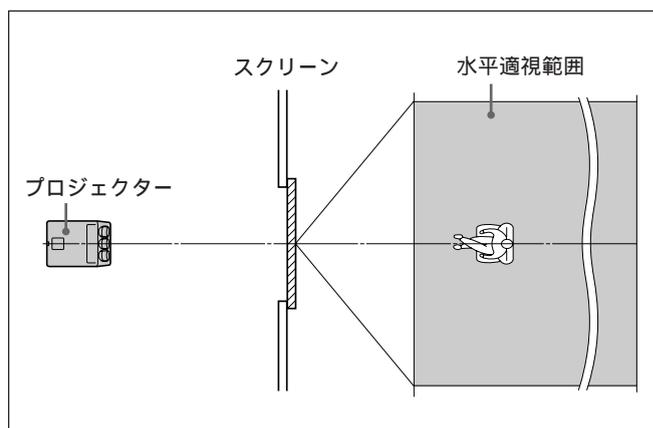
天井つり、フロント投影用スクリーン

シルバースクリーンが最適です。ホワイトスクリーンより2~4倍の明るい画像を見ることができます。



リア投影用スクリーン

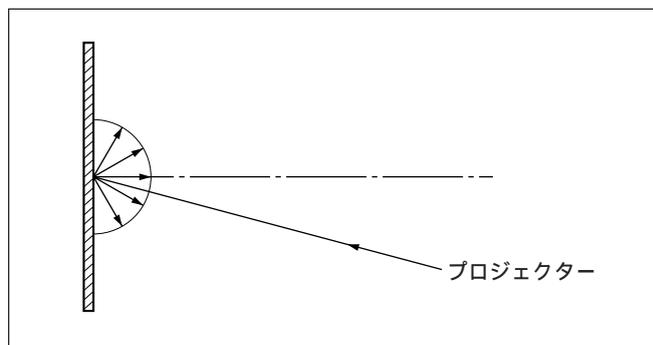
フレネル&レンチキュラーシートスクリーンの2枚構成のものが最適です。周辺部まで明るく鮮明な画像がご覧いただけます。



ホワイトスクリーン

広い範囲でご覧になるときは、床置き、天井つりいずれの場合でも、ホワイトスクリーンをご使用になると、どの位置からでも同じ明るさでご覧いただけます。

ただし、部屋を暗くしないと鮮明な画像が得られません。



# 設置条件に合わせて本体内部を変更する

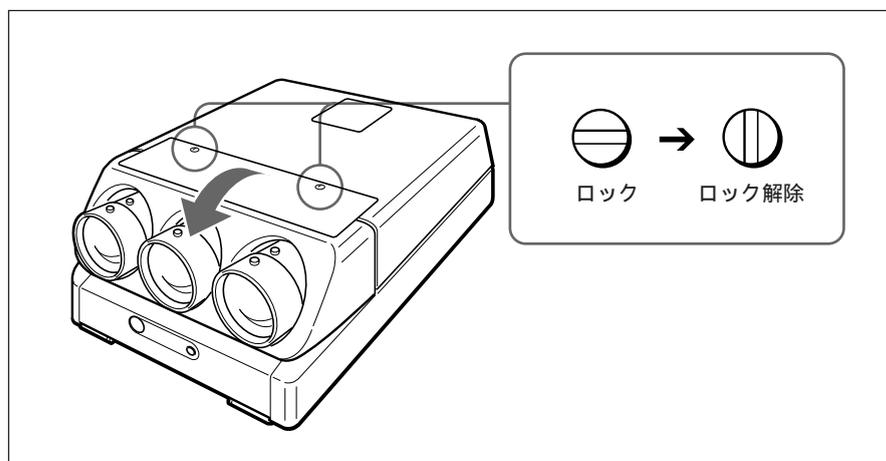
## 上部、前部、後部カバーの取り外しかた

ほとんどの調整が上部カバーをあけるだけでできます。

設置

### 上部カバーをあける

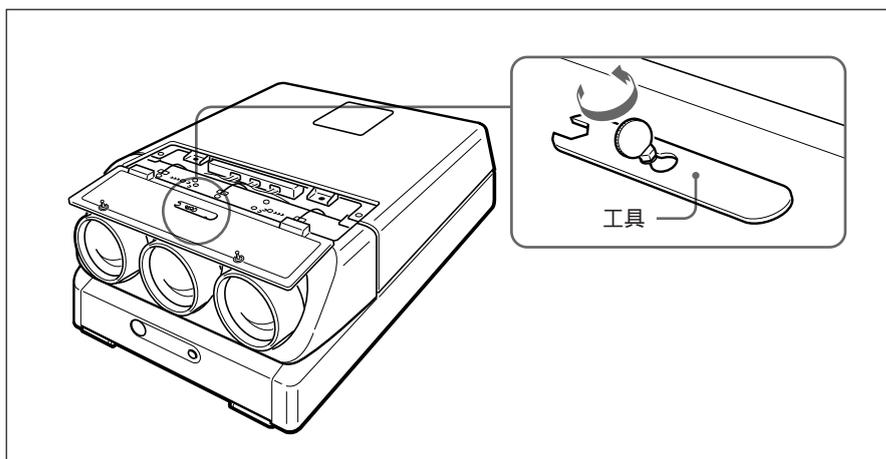
- 1 プロジェクター本体の電源を切る。
- 2 マイナスドライバーまたは硬貨を使用して2本のネジのロックを解除し、上部カバーをあける。



### 工具の取り外しかた

上部カバーの裏面に調整用の工具があります。

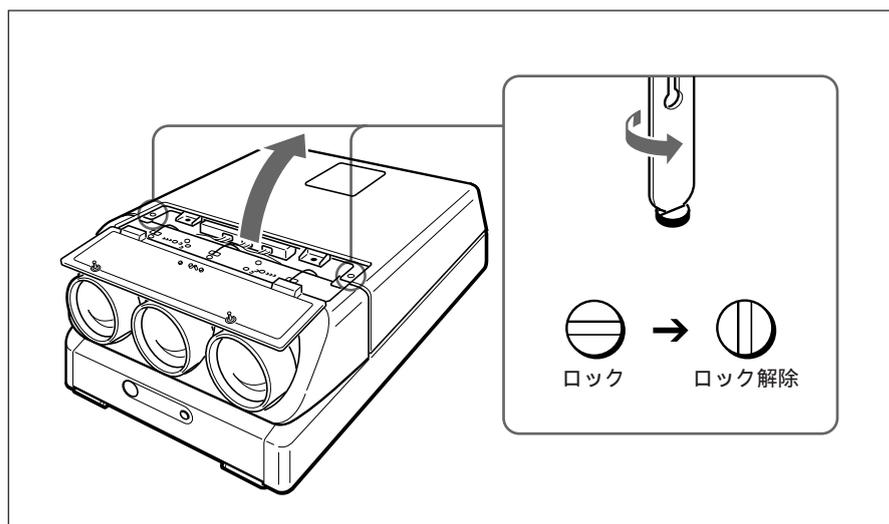
マイナスドライバーや硬貨などを使ってネジをゆるめ、取り外します。



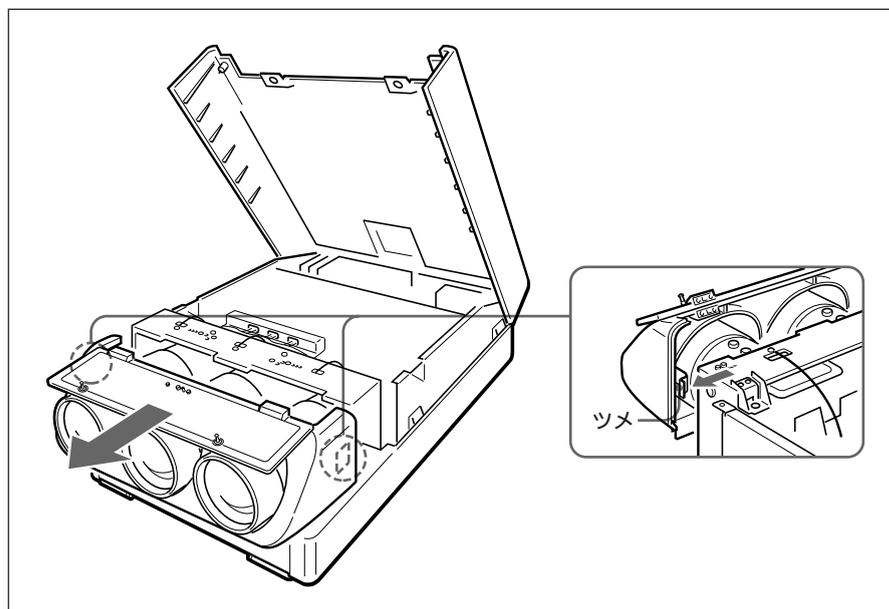
## 前部カバー、後部カバーを取り外す

上部カバーをあけた状態で取り外してください。

- 1 付属の工具を使って2本のネジのロックを解除し、後部カバーを取り外す。



- 2 左右の内側のツメを外側へ押しながら、前部カバーを取り外す。



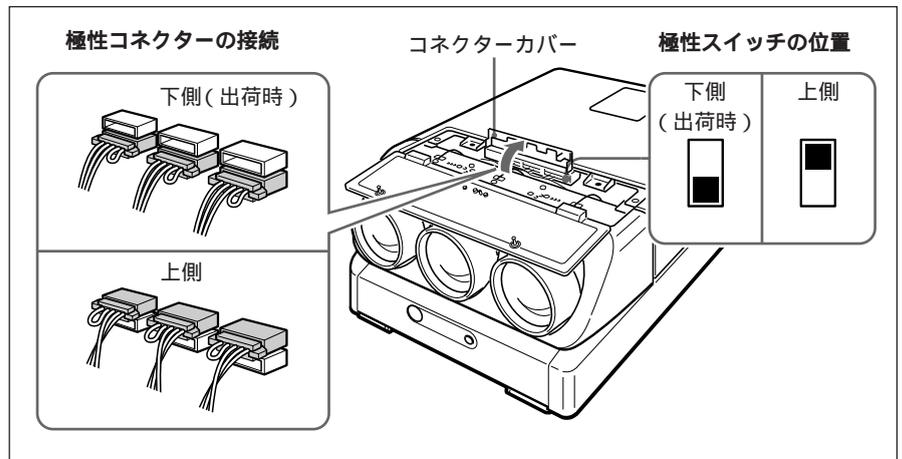
## 極性を変更する

このプロジェクターの極性は、工場出荷時には、「フロント投影、床置き」で使用するように調整してあります。

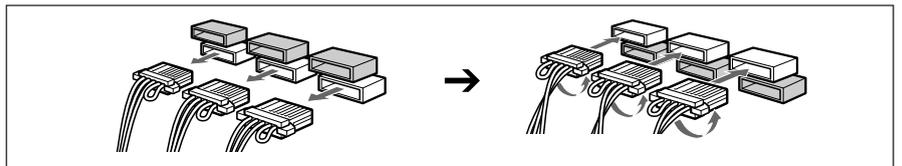
天井吊りやリア投影で使用するとき、極性スイッチと極性コネクタの設定を変えることにより、極性を変更してください。

### 極性を変更する

- 1 プロジェクターの電源を切る。
- 2 上部カバーをあげる。  
詳しくは、「上部カバーをあげる」(22ページ)をご覧ください。
- 3 コネクターカバーを上げる。
- 4 極性スイッチの位置と極性コネクタの接続を確認する。  
プロジェクターの設置方法と極性スイッチ、極性コネクタの設定については次ページの表をご覧ください。



- 5 必要があればコネクタまたはスイッチを変更する。  
極性スイッチ：上側または下側に切り換える。  
極性コネクタ：コネクタを3個とも一度抜いてから180°回転させて、上側または下側の端子に差し込む。



- 6 コネクタとスイッチの設定が正しいことを確認してから、コネクターカバーと上部カバーを元に戻す。

#### ご注意

コネクターカバーが完全に閉まっていないと、プロジェクターの電源が入りません。

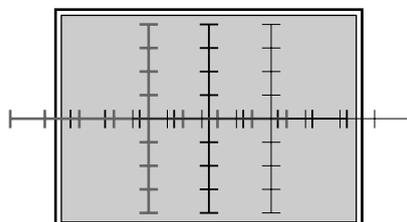


## CRTコンバー角を調整する

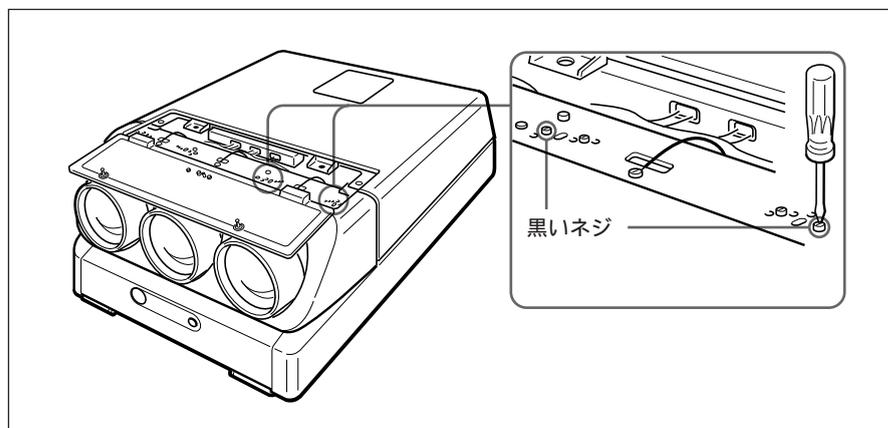
スクリーンサイズに合わせて、プロジェクターのCRTのコンバー角を調整します。

- 1 上部カバーをあける。  
詳しくは、「上部カバーをあける」(22ページ)をご覧ください。
- 2 プロジェクターの電源を入れる。
- 3 リモートコンマダーをサービス調整モードにする。  
詳しくは、「リモートコンマダーの準備」(43ページ)をご覧ください。
- 4 緑、赤、青のセンタリングをリセットする。  
詳しくは、「データのリセット」(111ページ)をご覧ください。
- 5 画面を見て次のことを確認する。
  - 緑のハッチパターンの中心が、スクリーンの左右方向の中心にある。
  - 緑を中心として、赤と青のハッチパターンの中心が均等にずれている。

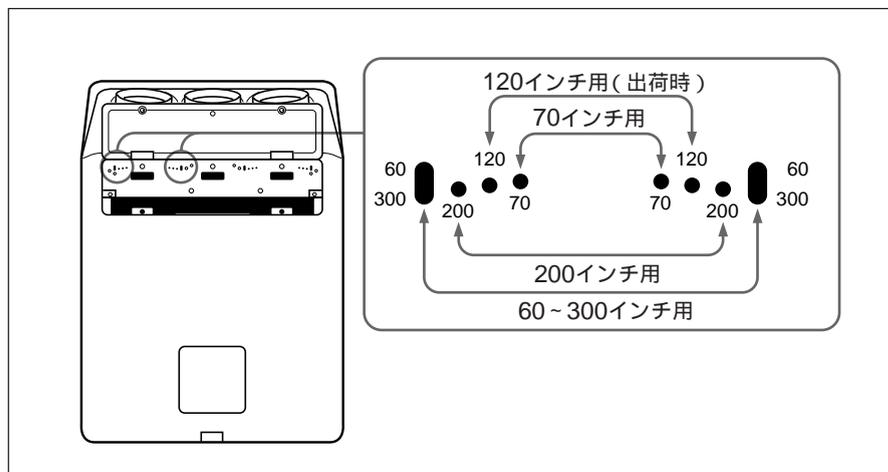
緑が中心に合っていない場合には、設置が正しく行われなかった可能性があります。正しく設置し直してください。



- 6 プラスドライバーを使って赤のCRT固定ネジ(黒いネジ、2か所)をはずさないよう注意しながら、ゆるめる。



- 7** 使用するスクリーンサイズに対応する調整穴に調整ネジ(金色のネジ、2か所)を差し込む。



工場出荷時は、120インチの調整穴にネジ留めしてあります。

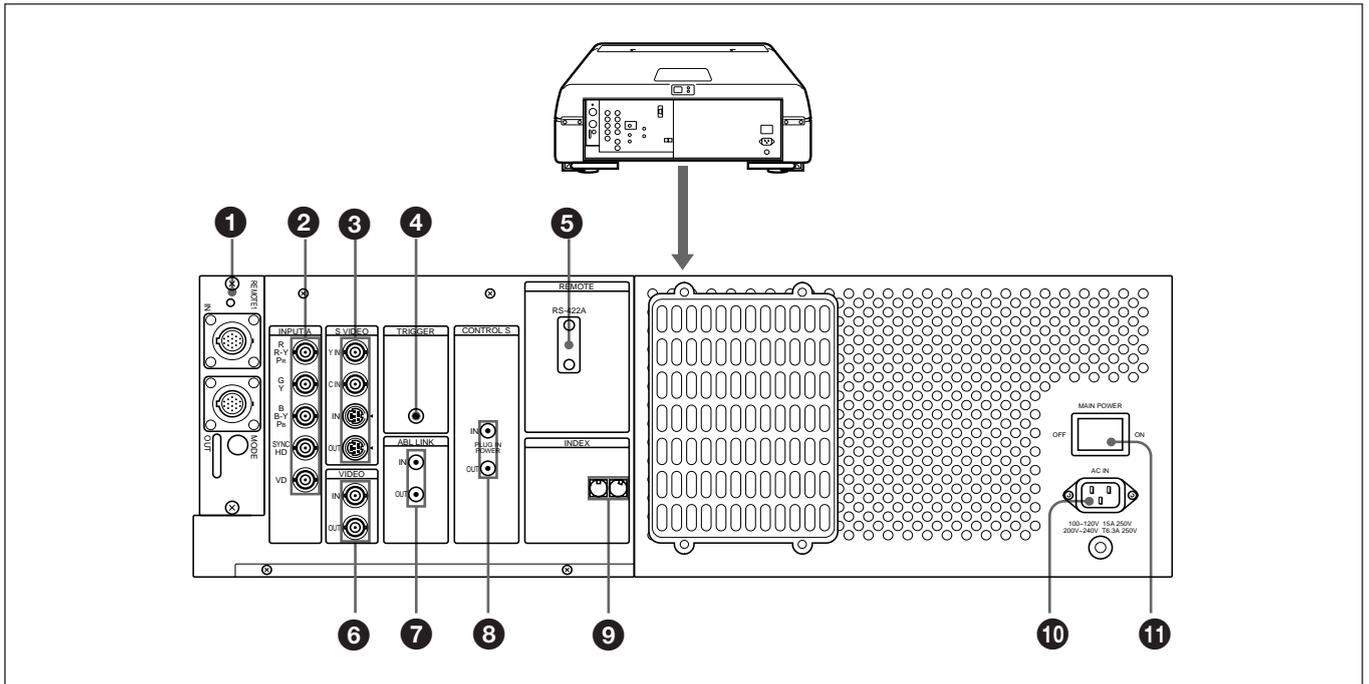
70インチ、200インチのスクリーンの場合は、ネジをゆるめて外し、対応する穴に差し込みます。

70、120、200インチ以外のスクリーンを使用する場合には、60～300インチ用の調整穴(長穴)を使います。

- 8** 70、120、200インチ以外のときは赤のクロスハッチパターン縦線が緑に重なるようCRTを左右に動かし、正しい位置に合ったら調整ネジ(金色のネジ、2か所)を締める。
- 9** 手順6でゆるめた赤のCRT固定ネジ(黒いネジ、2か所)を締める。
- 10** 手順6～9を繰り返して青のCRT固定ネジ(黒いネジ、2か所)をゆるめ、青のCRTのコンバー角を調整して青のCRT調整ネジ(金色のネジ、2か所)を固定する。

# コネクタ部の名称と働き

接続



## ① INPUT B (入力B) 基板取り付け部

出荷時はシグナルインターフェースボードIFB-40が装着されています。

用途に応じて別売のシグナルインターフェースボードを取り付けることができます。

インジケータ（赤）：この基板が選択されると点灯します。

REMOTE 1 IN (入力) 端子 (14ピンマルチコネクタ)：

プロジェクターを2台接続して使用する際には、もう1台のプロジェクターに取り付けたIFB-40のREMOTE 1 OUT 端子に接続します。

REMOTE 1 OUT (出力) 端子 (14ピンマルチコネクタ)：

IFB-40のREMOTE 1 IN 端子に接続します。

MODE 切り換えスイッチ：REMOTE 1 のOUT 端子に接続

するケーブルの長さによって、MODE 切り換えスイッチを切り換えてください。

ケーブルの長さ	0~2m	~10m	~25m	~50m
ケーブルの型名	SIC-M-1	SIC-M-5	SIC-M-15	SIC-M-50
スイッチの位置	1	2	3	4

## ② INPUT A (入力A) 端子 (BNC型)

R/R<sub>P</sub>端子、G/Y端子、B/B<sub>P</sub>端子、SYNC/HD、

VD端子：コンピューターやビデオカメラの出力端子に接続しま

す。接続機器に応じ、RGB信号 (R、G、B)、コンポーネント信号 (R-Y、G、B-Y)、ハイビジョン信号 (HDTV P<sub>R</sub>、Y、P<sub>B</sub>) を入力することができます。

## ③ S VIDEO IN/OUT (S映像入力/出力) 端子

Y IN 端子、C IN 端子 (BNC 型)：ビデオデッキなどのY 映像出力端子、C 映像出力端子とつなぎます。

S VIDEO IN/OUT 端子 (4 ピンミニ DIN)：ビデオデッキなどのS 映像出力端子またはS 映像入力端子とつなぎます。

### ご注意

Y/C IN 端子にケーブルが接続されているとS VIDEO IN 端子は働きません。

## ④ TRIGGER (トリガー) 端子 (ミニジャック)

プロジェクターの電源を入れたと5V、電源を切ると0Vのトリガー信号が外部機器に出力されます。(この端子から外部機器に電源供給はできません。)

## ⑤ RS-422A REMOTE (リモート) 端子 (Dサブ9ピン)

RS-422A インターフェースを使ってシステムを拡張するときに使います。

出荷時はカバーがかぶせてあります。ご使用のとき、ネジをゆるめてカバーを外してください。

## ⑥ VIDEO IN/OUT (映像入力/出力) 端子

VIDEO IN 端子 (BNC 型)：ビデオデッキなどのコンポジット映像出力端子と接続します。

VIDEO OUT 端子 (BNC 型)：カラーモニターのコンポジット映像入力端子と接続します。

⑦ ABL LINK IN/OUT ( ABLリンク入力/出力 ) 端子 ( ミニジャック )

複数のプロジェクターを接続するとき、本機の ABL LINK OUT 端子と他のプロジェクターの ABL LINK IN 端子を接続します。明るさを自動制御する ABL ( オートブライトネスミッター ) の働きをプロジェクター間で同期させ、マルチスクリーンの画像の明るさを均等にします。

⑧ CONTROL S ( コントロール S ) 端子

IN/PLUG IN POWER ( 入力 / 5V 出力 ) 端子 ( ステレオミニジャック ) : ソニー製品のコントロール S 出力端子と接続します。

付属のリモートコマンドの CONTROL S OUT 端子とこの端子を付属のリモコンケーブル ( ステレオケーブル ) で接続すると、ワイヤードコマンドとして使用することができます。この場合、リモートコマンドの電源としてこの端子から 5V が供給されます。

OUT ( 出力 ) 端子 ( ステレオミニジャック ) : ソニー製品のコントロール S 入力端子と接続します。

**ご注意**

CONTROL S IN 端子にリモコンケーブルなどを接続すると、本機のリモコン受光部は働かなくなります。

⑨ INDEX NO. ( インデックス番号 ) スイッチ

複数のプロジェクターを接続するとき、このスイッチを使って各プロジェクターのインデックス番号を設定します。

設定したインデックス番号を画面に表示するには、リモートコマンドの NORMAL キーを押してから ENTER キーを押します。

**ご注意**

インデックス番号は「00」に設定しないでください。「00」にするとプロジェクターが動作しません。

⑩ AC IN ( 電源 ) コンセント

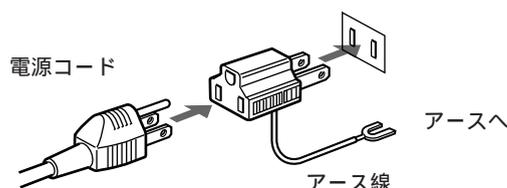
付属の電源コードを接続します。

⑪ MAIN POWER ( 主電源 ) スイッチ

電源コードの接続について

プロジェクターに付属の電源コードが部屋のコンセントの形状に合わないときは、付属の変換プラグアダプターを使用して、必ずアース線を接続してください。アース線を接続しないと、ラジオ、テレビなどの受信に障害を与えることがありますのでご注意ください。

変換プラグアダプター ( 付属 )



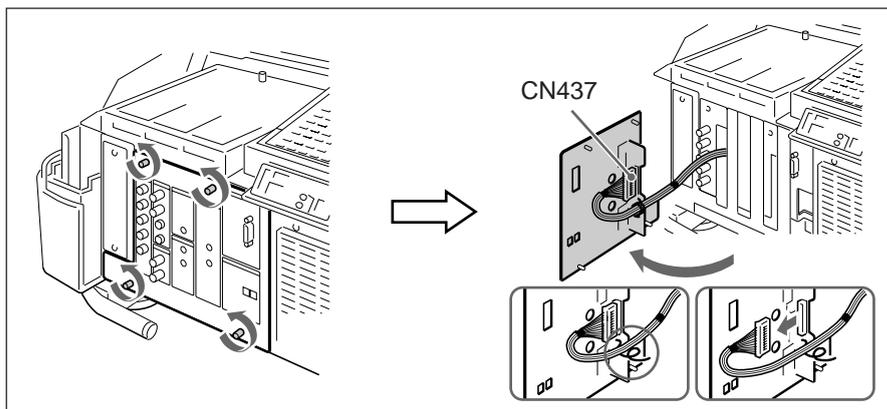
付属の 3 極 → 2 極の変換プラグアダプターを使用し、変換プラグアダプターから出ている緑色のアースを、建物に備えられているアース端子に接続してください。

# 75 ターミネートコネクタを切り換える

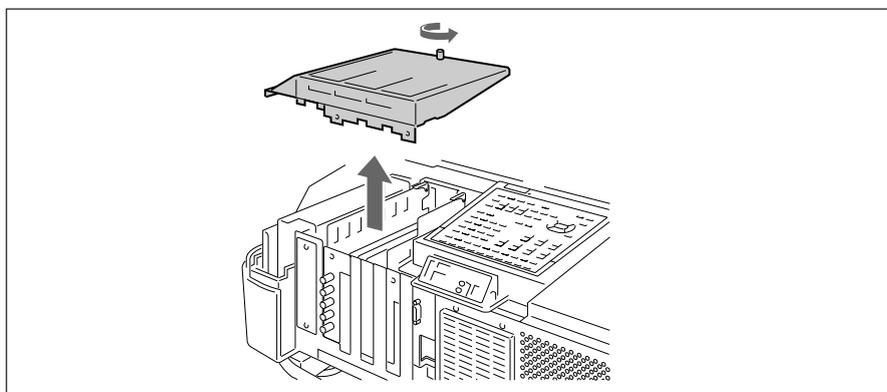
コンピューターやモニターの接続のしかたに合わせて、本機のB基板上にある75 ターミネートコネクタCN35～CN37を切り換えます。

## B基板の取り出ししかた

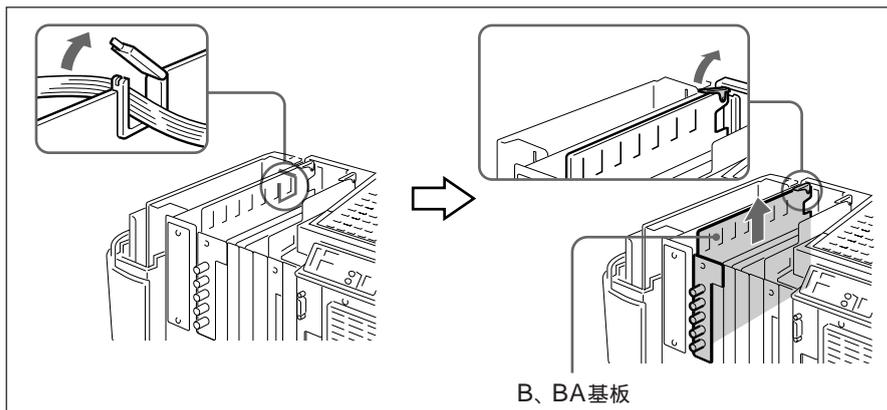
- 1 プロジェクターの後部カバーを取り外す。  
詳しくは、「上部、前部、後部カバーの取り外しかた」(23、24ページ)をご覧ください。
- 2 後面のネジ(4か所)をゆるめてコネクタパネルを取り外し、ケーブルを固定しているコーティングリードピンをゆるめてからBC基板のコネクタCN437を抜く。



- 3 ネジ(1か所)をゆるめてカバーを取り外す。



- 4 ワイヤホルダーを開く。カードプラーを引き上げて、ワイヤーを引っぱらないように注意しながらB、BA基板を取り出す。



## 5 B基板のコネクタ-CN35、CN36、CN37を切り換える。

詳しくは、「75 ターミネットコネクタ-CN35(R)、CN36(G)、CN37(B)の設定」をご覧ください。

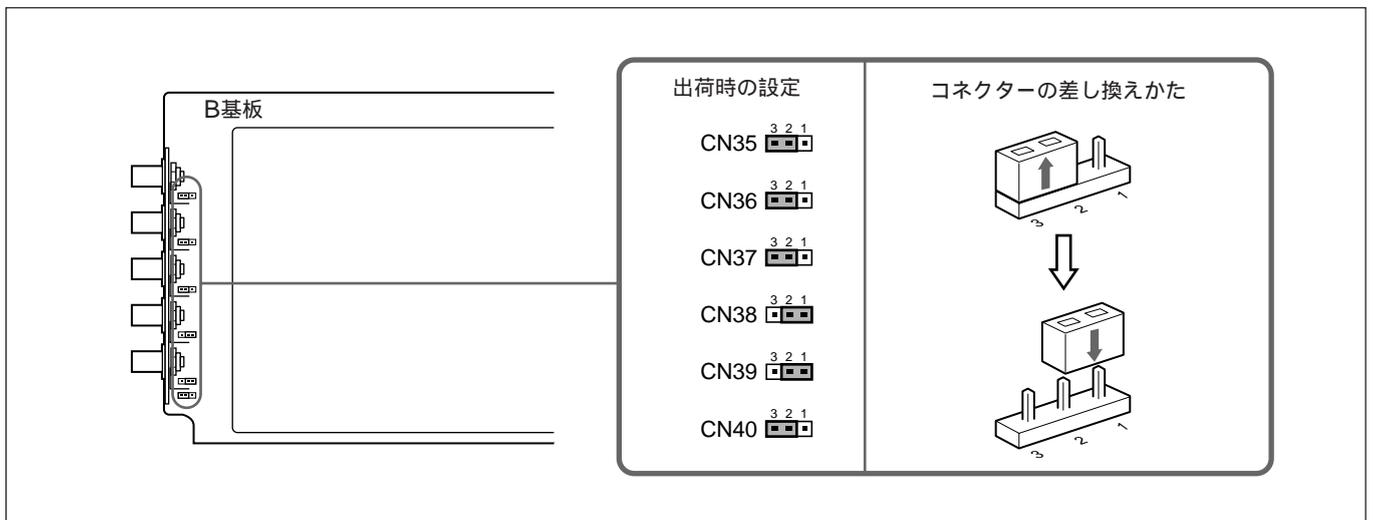
## 6 手順1~4の逆の手順で、元どおり組み立てる。

### 75 ターミネットコネクタ-CN35(R)、CN36(G)、CN37(B)の設定

75 (3ピン側)： 出荷時はこの位置に設定されています。

OPEN(1ピン側)： 分岐コネクタなどを使用して信号を入力するとき、分岐先の映像機器ですでに75 終端されているときはこの位置にします。

接続



#### ご注意

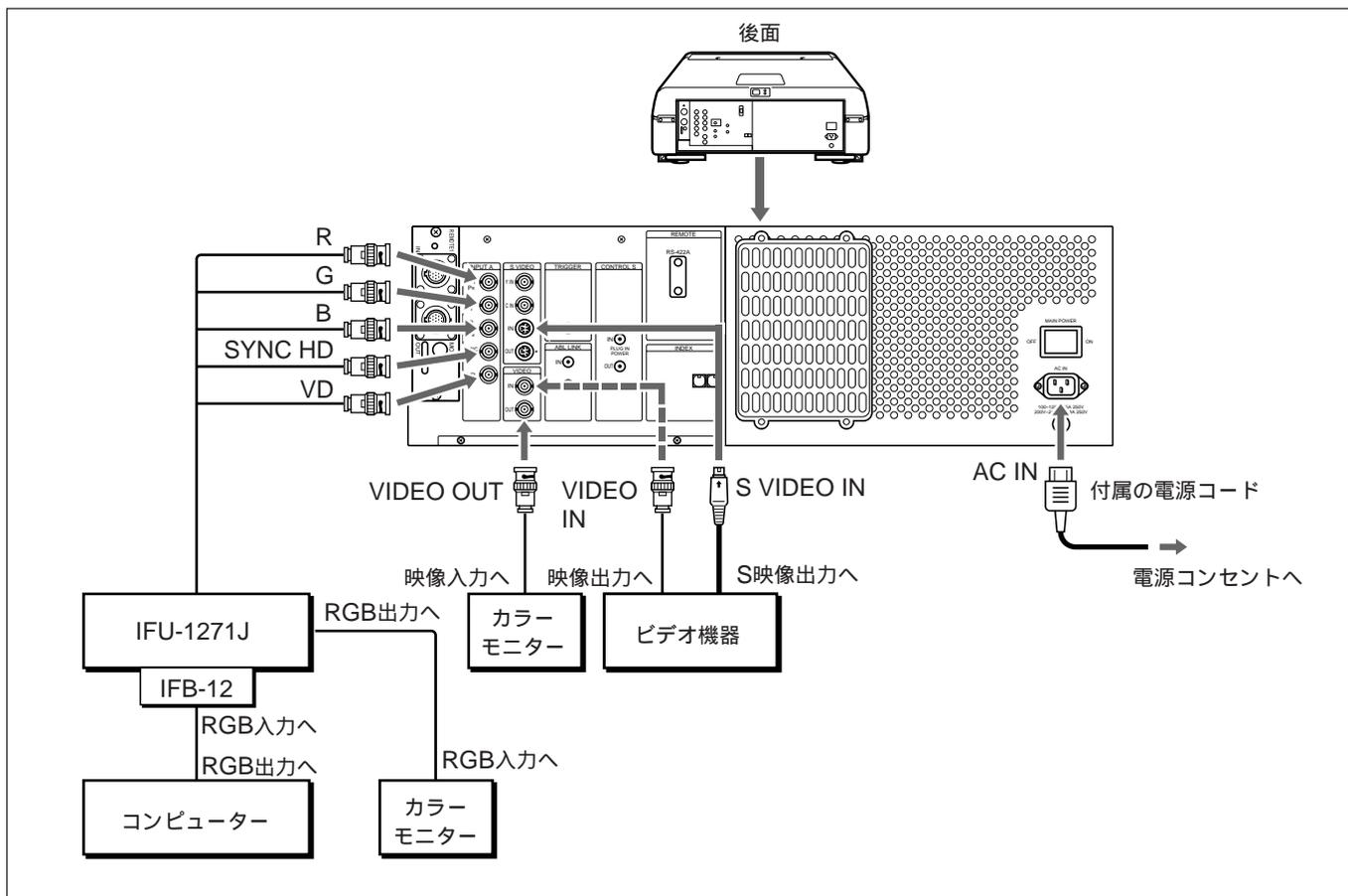
CN38、CN39、CN40コネクタは、出荷時に上図の位置に設定されています。設定は変更しないでください。

# プロジェクター本体に直接映像機器を接続する

以下に挙げる接続例を組み合わせたり、標準装備されているインターフェースボードIFB-40を使うことにより、様々なシステムを構築することができます。

## プロジェクターに複数の映像機器を接続する場合

シグナルインターフェースユニットはIFU-1271Jをご使用ください。



### 設定のしかた

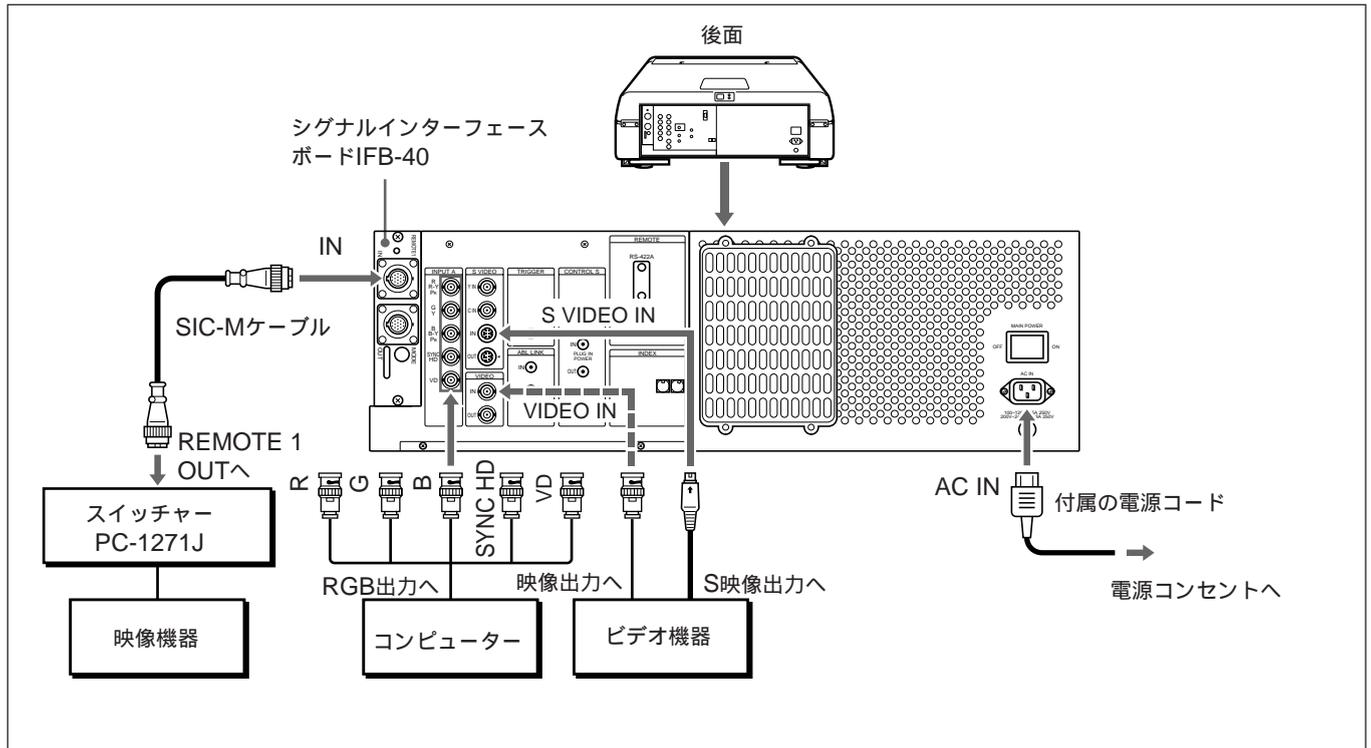
- 初期設定メニューの「入力A」を「RGB」に設定します。  
詳しくは「初期設定メニュー」(56ページ)をご覧ください。
- リモートコマンダーのINPUT SELECTキーまたは入力切換メニューの「ビデオ」で、ビデオ機器を接続した入力(「ビデオ」または「Sビデオ」)を選択します。  
詳しくは「入力切換メニュー」(50ページ)をご覧ください。
- コンピューターやカラーモニターの接続のしかたに合わせて、B基板上の75ターミネートコネクターの位置を切り換えます。  
詳しくは「75ターミネートコネクタを切り換える」(30ページ)をご覧ください。

# シグナルインターフェーススイッチャーを使用する

本機に装着されているシグナルインターフェースボードIFB-40に別売りのシグナルインターフェーススイッチャーPC-1271Jを接続することで、様々な機器を簡単に接続することができます。

リモートコマンダーのSWITCHER/INDEXキーまたは入力切換メニューの「スイッチャー」項目で、最大16系統まで入力を切り換えることができます。

## SIC-Mケーブルを使用して接続する場合



使用可能なケーブルは以下のとおりです。

ケーブルの長さ	1 m	5 m	15 m	25 m	50 m
ケーブルの型名	SIC-M-1	SIC-M-5	SIC-M-15	SIC-M-25	SIC-M-50

### ご注意

- SIC-Mケーブルのオス側とメス側を正しく接続してください。
- SIC-Mケーブルは50 mまで延長することができます。
- 本機のINPUT Bに装着したシグナルインターフェースボードには、ビデオ帯域70MHz以下の信号を入力してください。70MHz以上の信号は、5BNCケーブルを使用してINPUT Aへ接続してください。

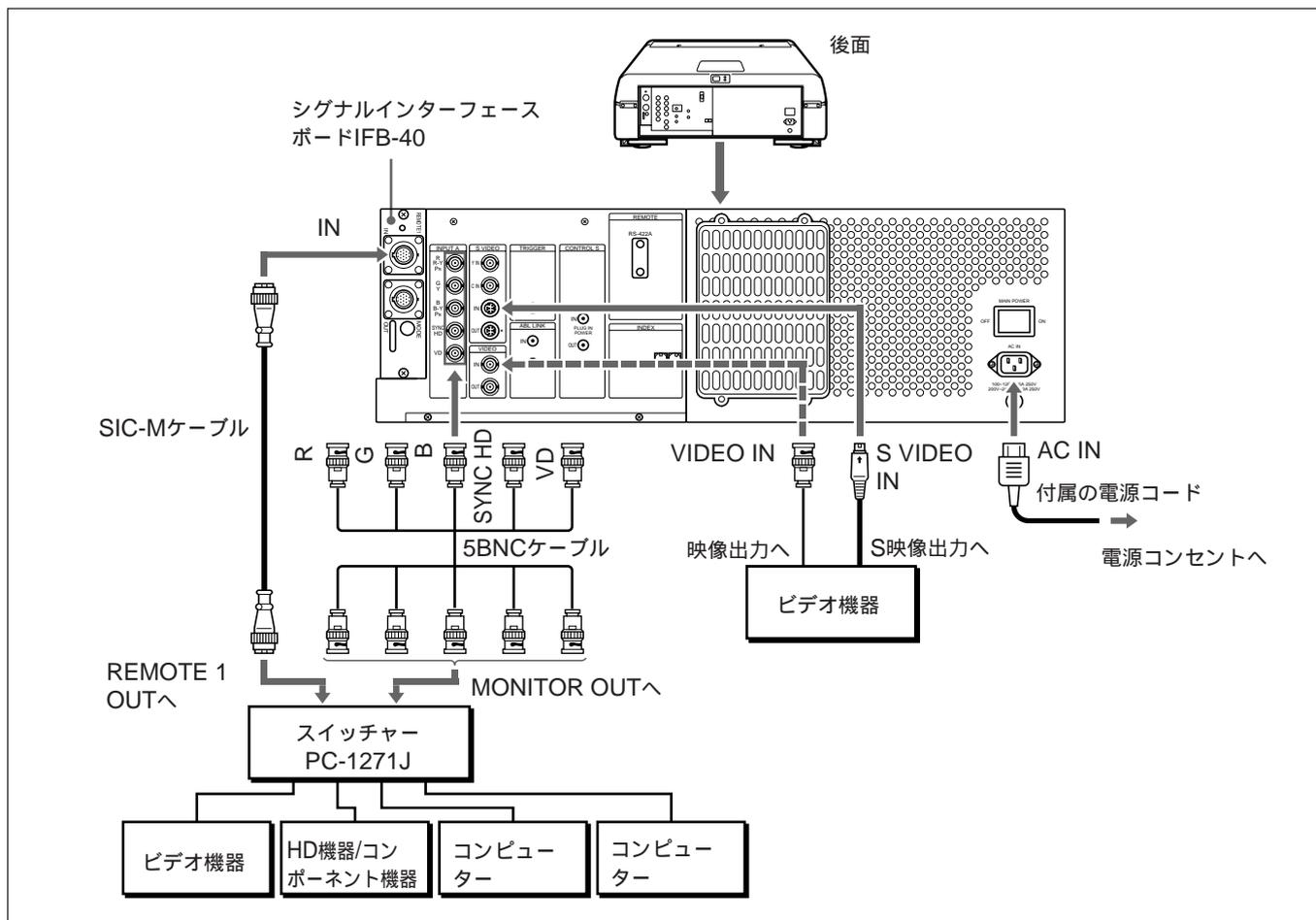
### 設定のしかた

- 初期設定メニューの「入力A」を「RGB」に設定します。  
詳しくは「初期設定メニュー」(56ページ)をご覧ください。
- リモートコマンダーのINPUT SELECTキーまたは入力切換メニューの「ビデオ」で、ビデオ機器を接続した入力(「ビデオ」または「Sビデオ」)を選択します。  
詳しくは「入力切換メニュー」(50ページ)をご覧ください。
- スwitchャーのSINGLE/SECOND/OTHER切り換えスイッチをSINGLEに設定します。

## シグナルインターフェイススイッチャーを使用する

### SIC-MケーブルとBNCケーブルを両方使用して接続する場合(5BNCモード1)

シグナルインターフェイススイッチャーにビデオ機器とRGB機器を取り混ぜて接続する場合は、SIC-MケーブルとBNCケーブルの両方を使用してスイッチャーと本機を接続します。



#### ご注意

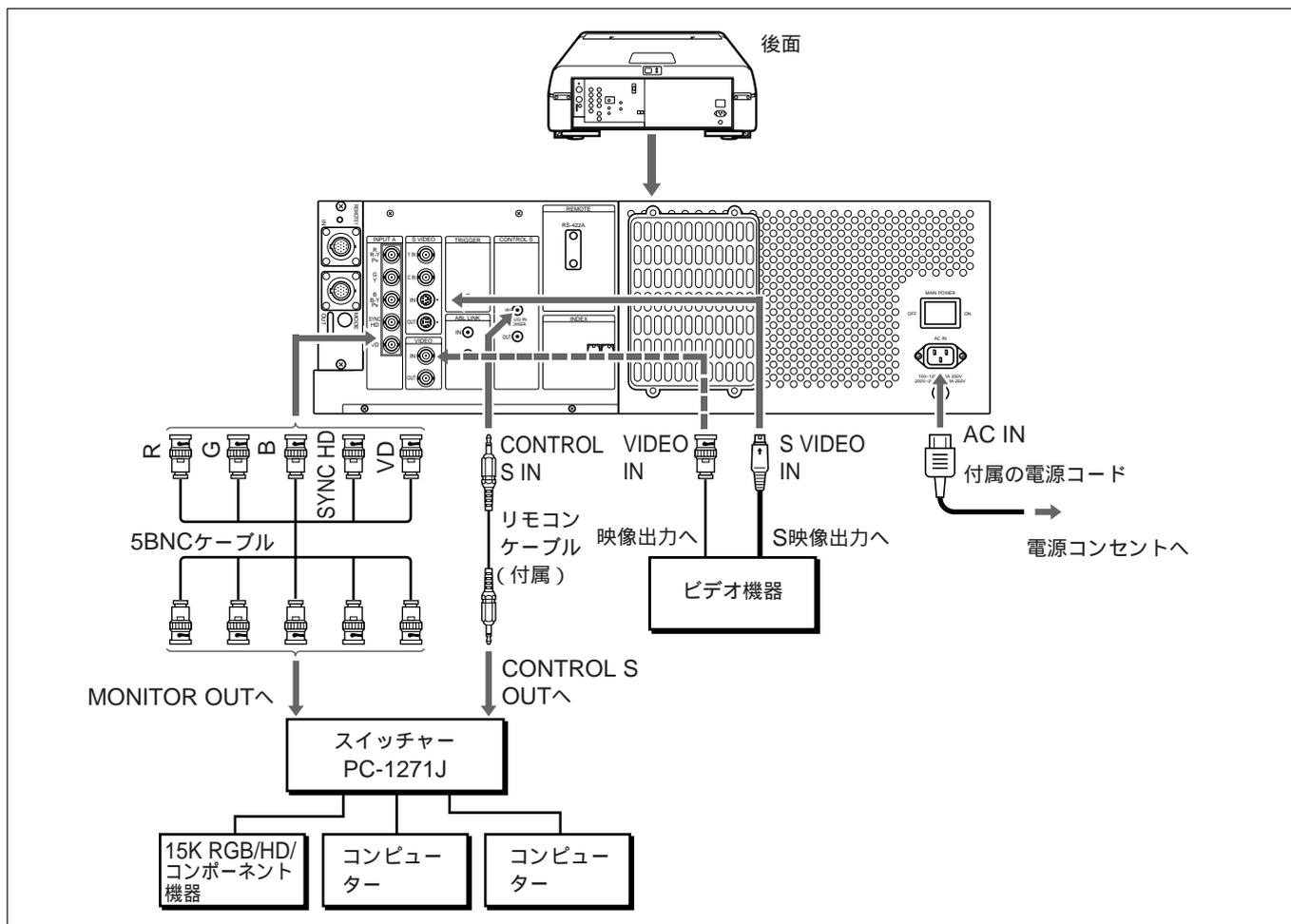
- SIC-Mケーブルのオス側とメス側を正しく接続してください。
- SIC-Mケーブルは50 mまで延長することができます。
- 本機のINPUT Bに装着したシグナルインターフェイスボードには、ビデオ帯域70MHz以下の信号を入力してください。70MHz以上の信号は5BNCケーブルを使用してINPUT Aへ接続してください。

#### 設定のしかた

- 初期設定メニューの「入力A」を「RGB」に、「5BNCモード」を「オン」に設定します。詳しくは「初期設定メニュー」(56ページ)をご覧ください。
- リモートコマンドのINPUT SELECTキーまたは入力切換メニューの「ビデオ」で、ビデオ機器を接続した入力(「ビデオ」または「Sビデオ」)を選択します。詳しくは「入力切換メニュー」(50ページ)をご覧ください。
- スwitchャーのSINGLE/SECOND/OTHER切り換えスイッチをSINGLEに設定します。

## BNCケーブルを使用して接続する場合（5BNCモード2）

本機とシグナルインターフェイススイッチャーの距離が50 m以上の場合や、SIC-Mケーブルが使用できない場合は、ビデオ機器を直接本機に接続して、スイッチャーにRGB機器のみを接続します。

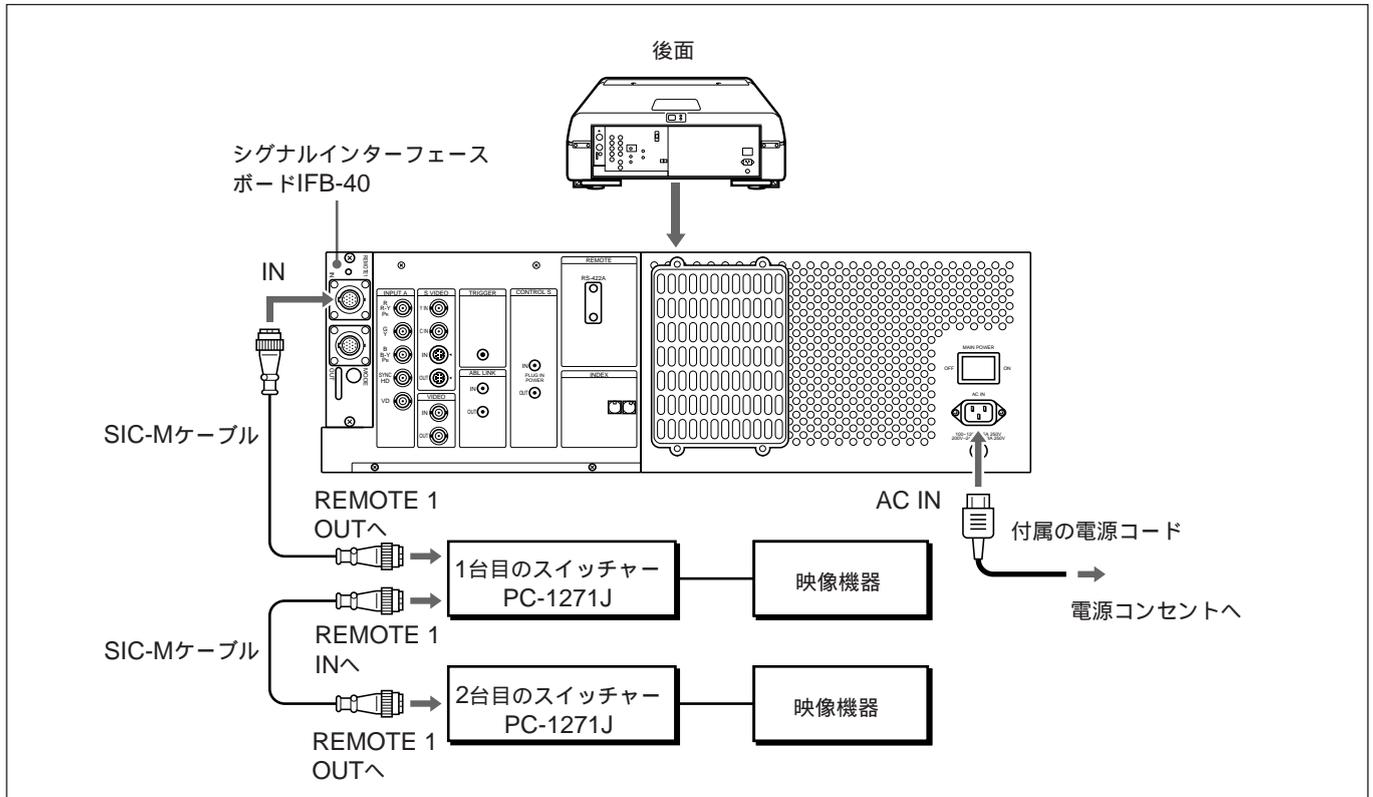


### 設定のしかた

- 初期設定メニューの「入力A」を「RGB」に、「5BNCモード」を「オン」に設定します。  
詳しくは「初期設定メニュー」(56ページ)をご覧ください。
- リモートコマンダーのINPUT SELECTキーまたは入力切換メニューの「ビデオ」で、ビデオ機器を接続した入力（「ビデオ」または「Sビデオ」）を選択します。  
詳しくは「入力切換メニュー」(50ページ)をご覧ください。
- スイッチャーのSINGLE/SECOND/OTHER切り換えスイッチをSINGLEに設定します。
- スイッチャーへHD（ハイビジョン）信号を入力する場合は、接続機器の出力またはスイッチャーに装着したシグナルインターフェースボードIFB-1301の出力をGBR OUTに設定します。
- スイッチャーへコンポーネント信号を入力する場合は、接続機器の出力またはスイッチャーに装着したシグナルインターフェースボードIFB-1200の出力をRGB OUTに設定します。

## シグナルインターフェーススイッチャーを使用する

### シグナルインターフェーススイッチャーを2台接続する場合



#### ご注意

- SIC-Mケーブルのオス側とメス側を正しく接続してください。
- スイッチャーとプロジェクターを接続するSIC-Mケーブルは50 mまで延長することができます。
- 本機のINPUT Bに装着したシグナルインターフェースボードには、ビデオ帯域70MHz以下の信号を入力してください。

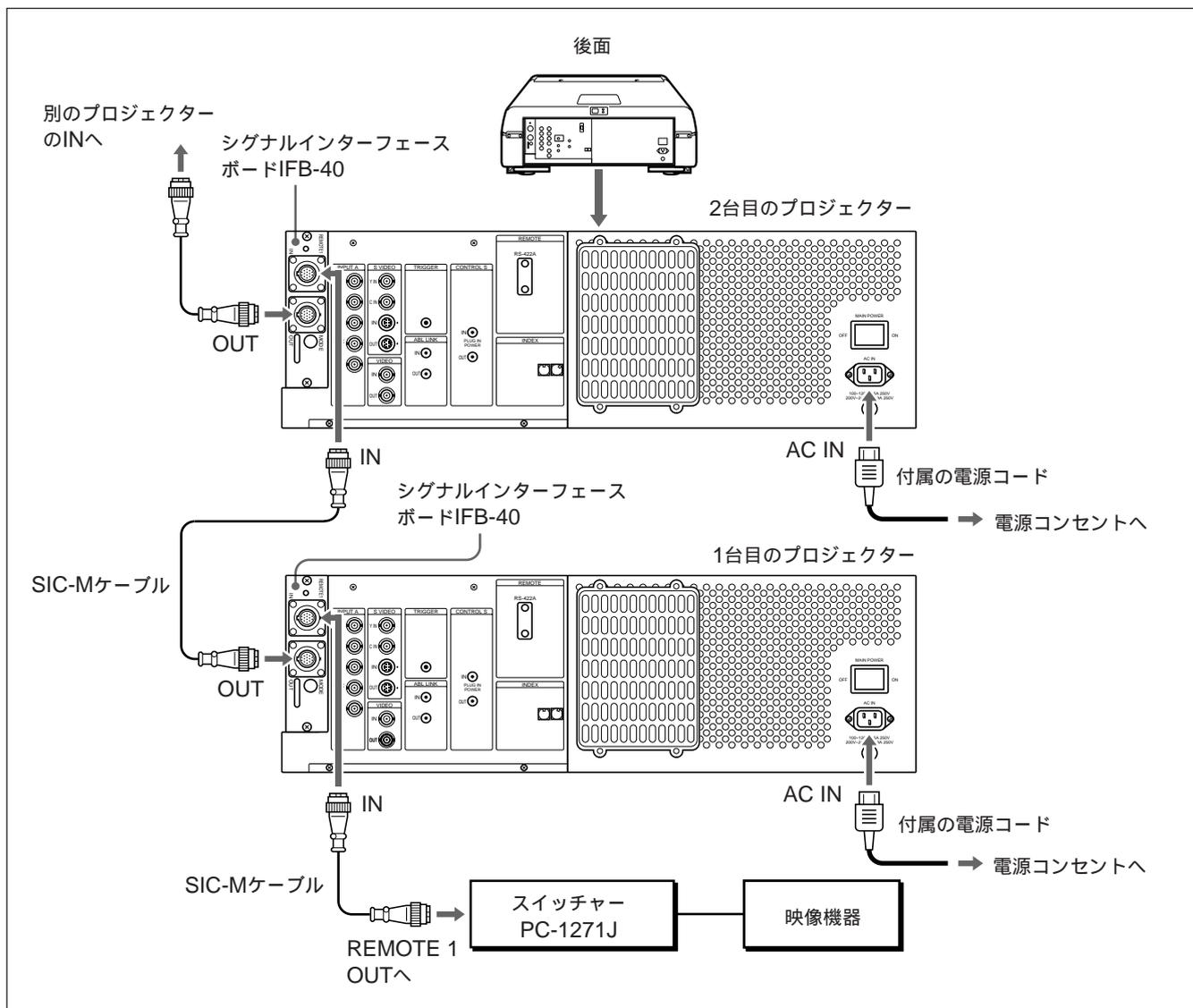
#### 設定のしかた

- 1台目のスイッチャーのSINGLE/SECOND/OTHER切り換えスイッチをSINGLEに設定します。
- 2台目のスイッチャーのSINGLE/SECOND/OTHER切り換えスイッチをSECONDに設定します。

# 複数のプロジェクターを接続する

複数台のプロジェクターを接続してシグナルインターフェーススイッチャーPC-1271Jからの信号を投影することができます。

## SIC-Mケーブルを使用して接続する場合



### ご注意

- SIC-Mケーブルのオス側とメス側を正しく接続してください。
- スイッチャーとプロジェクターを接続するSIC-Mケーブルは50 mまで延長することができます。
- プロジェクターのINPUT Bに装着したシグナルインターフェースボードには、ビデオ帯域70MHz以下の信号を入力してください。

### 設定のしかた

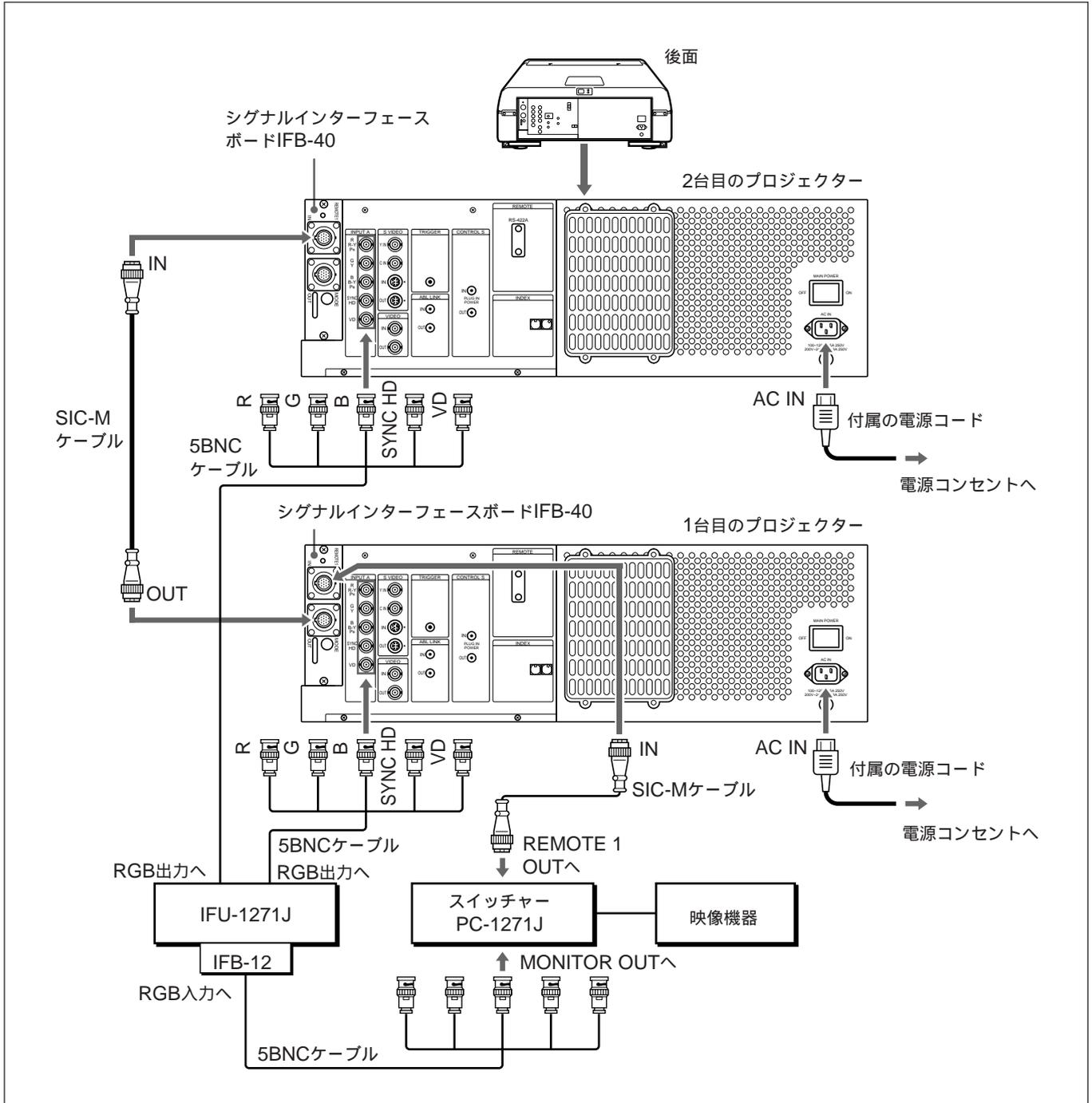
- スイッチャーのSINGLE/SECOND/OTHER切り換えスイッチをSINGLEに設定します。
- インデックス番号を使って各プロジェクターをコントロールしたいときは、プロジェクター後面のINDEX NO. スイッチで各プロジェクターのインデックス番号を「01」から続き番号で設定します。

## 複数のプロジェクターを接続する

### SIC-MケーブルとBNCケーブルを両方使用して接続する場合

シグナルインターフェイススイッチャーにビデオ機器とRGB機器を取り混ぜて接続する場合は、SIC-MケーブルとBNCケーブルの両方を使用してスイッチャーと各プロジェクターを接続します。

シグナルインターフェイスユニットIFU-1271Jをご使用ください。



#### ご注意

- SIC-Mケーブルのオス側とメス側を正しく接続してください。
- スイッチャーと1台目のプロジェクターを接続するSIC-Mケーブルは50 mまで延長することができます。
- プロジェクターのINPUT Bに装着したシグナルインターフェースボードには、ビデオ帯域70MHz以下の信号を入力してください。70MHz以上の信号は5BNCケーブルを使用してINPUT Aへ接続してください。

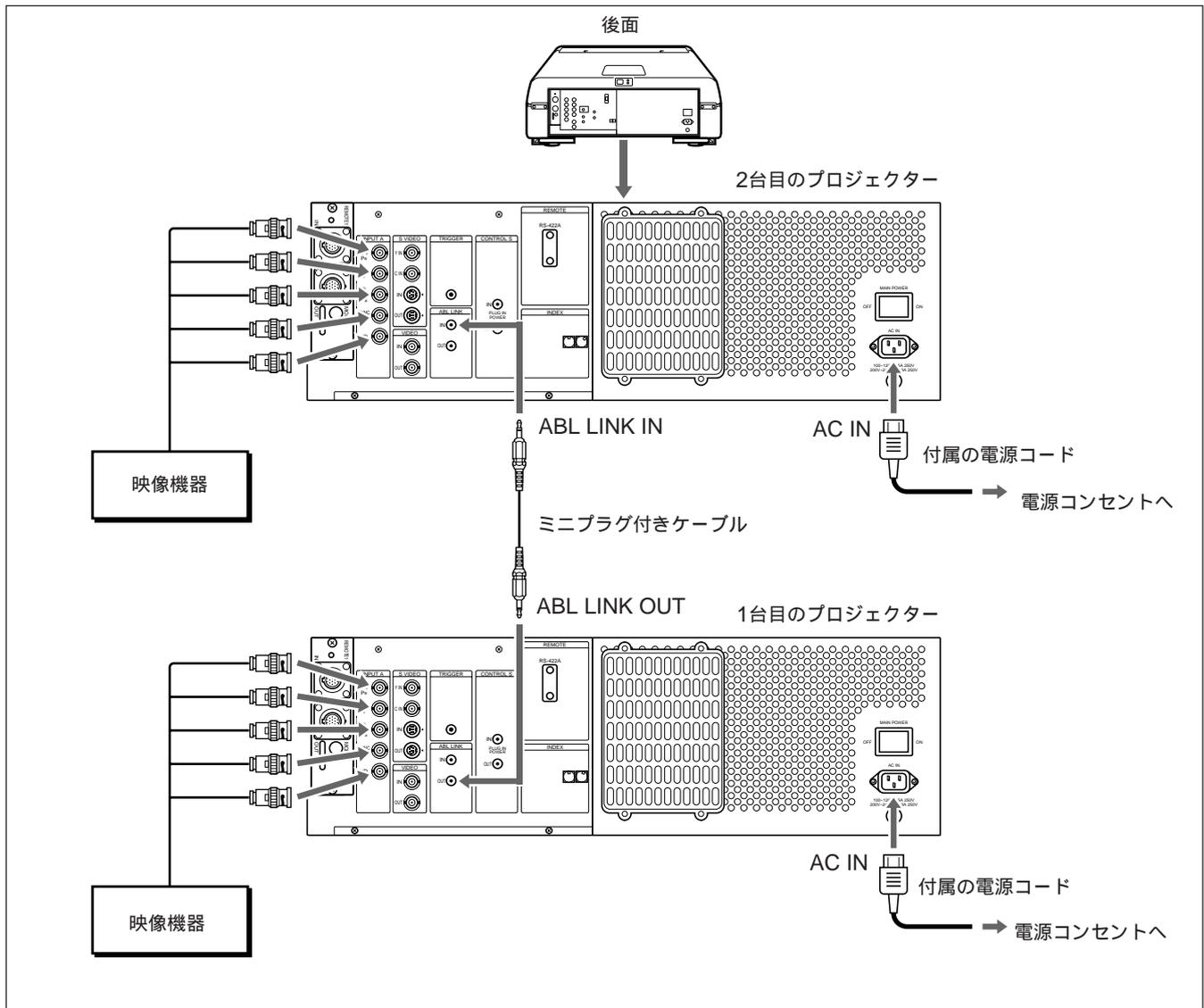
#### 設定のしかた

- 初期設定メニューの「入力A」を「RGB」に、「5BNCモード」を「オン」に設定します。  
詳しくは「初期設定メニュー」(56ページ)をご覧ください。
- スイッチャーのSINGLE/SECOND/OTHER切り換えスイッチをSINGLEに設定します。
- インデックス番号を使って各プロジェクターをコントロールしたいときは、プロジェクター後面のINDEX NO. スイッチで各プロジェクターのインデックス番号を「01」から続き番号で設定します。
- 1台目と2台目のプロジェクターを接続するSIC-Mケーブルの長さに応じて、1台目のプロジェクターのシグナルインターフェースボード上のMODE切り換えスイッチを切り換えます。  
詳しくは「コネクター部の名称と働き」(28ページ)をご覧ください。

## ABLリンクを使用する

ABLリンクとは

プロジェクターには、画面全体の輝度が一定以上になると、CRT 破損を防ぐためにそれ  
以電流が流れないようにする機能が付いています。これをABL (Automatic Brightness  
Limiter) 機能と呼びます。複数台のプロジェクターを使ってマルチスクリーンを構成して  
いるとき、各プロジェクターのABL LINK 端子を接続しておく、1 台でもABL がかかると  
すべてのプロジェクターにABL がかかり、画面全体の輝度を均一にすることができます。  
これをABLリンク機能と呼びます。



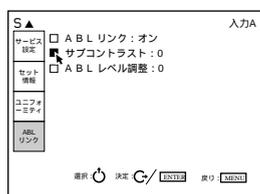
設定のしかた

ABLリンクメニューの「ABLリンク」を「オン」に設定します。

詳しくは「ABLリンク調整メニュー」(63ページ)をご覧ください。

## ABLリンクを調整する

- 1 リモートコマンダーをサービス調整モードにする。  
詳しくは、「リモートコマンダーの準備」(43ページ)をご覧ください。
- 2 各プロジェクターのコントラスト値を同じにする。
- 3 ブライトネス調整をして、各プロジェクターの黒レベルを合わせる。
- 4 プロジェクターに外部信号(1/16ウインドウ信号)を入力する。
- 5 ABLリンクメニューを表示させ、↑、↓キーを押して「サブコントラスト」を選び、ENTER キーを押す。



- 6 ↑、↓キーを押して、最も暗いプロジェクターと同じ明るさになるように明るさを調整し、ENTER キーを押す。



- 7 各プロジェクターで手順4~6を行い、すべてのプロジェクターの明るさが同じになるように調整する。
- 8 プロジェクターに外部信号(全白)を入力する。
- 9 ABLリンクメニューから「ABLレベル調整」を選び、ENTER キーを押す。

- 10 ↑、↓キーを押して、最も暗いプロジェクターと同じ明るさになるように明るさを調整し、ENTER キーを押す。



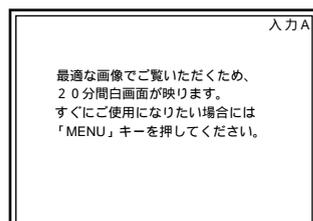
- 11 各プロジェクターで手順8~10を行い、すべてのプロジェクターの明るさが同じになるように調整する。
- 12 ABLリンクメニューの「ABLリンク」を「オン」にして、ENTER キーを押す。  
これで1台のプロジェクターにABLがかかったとき、すべてのプロジェクターの明るさが均一になります。

# 調整の手順

## 調整前のウォームアップ

プロジェクターの電源を入れた後は、必ず20分間の自動ウォーミングアップを行ってください。

安定した美しい画面をご覧いただくために、電源を入れた後約20分間は、プロジェクターのウォーミングアップのためにスクリーンに白い画像が投影されます。このとき、次の画面が表示されます。メッセージは約35秒後にいったん消え、以後30秒間隔で5秒ずつ表示されます。



すべての調整が終わった後、接続している機器の入力画像をすぐにご覧になりたい場合は、MENUキーを押します。

このウォーミングアップ時間を変えたり、すぐに画像が映るように設定することもできます。詳しくは、「ウォーミングアップ時間を変更する」(115ページ)をご覧ください。

## 調整の手順

付属のリモートコンマnderを使用して調整を行います。まず外部機器を接続しない状態で調整し、調整データを保存します。その後で、それぞれの入力信号を微調整します。

調整の手順は以下の通りです。

- ① リモートコンマnderを準備する。(43ページ)
- ↓
- ② リモートコンマnderをサービス調整モードにする。(43ページ)
- ↓
- ③ 入力信号なしで調整する。(68～98ページ)
- ↓
- ④ 調整データを標準データとして記憶させる。(99ページ)
- ↓
- ⑤ 外部信号を入力して、微調整する。(100～108ページ)
- ↓
- ⑥ リモートコンマnderをユーザーモードに戻す。(113ページ)
- ↓
- ⑦ 画質を調整する。(114ページ)

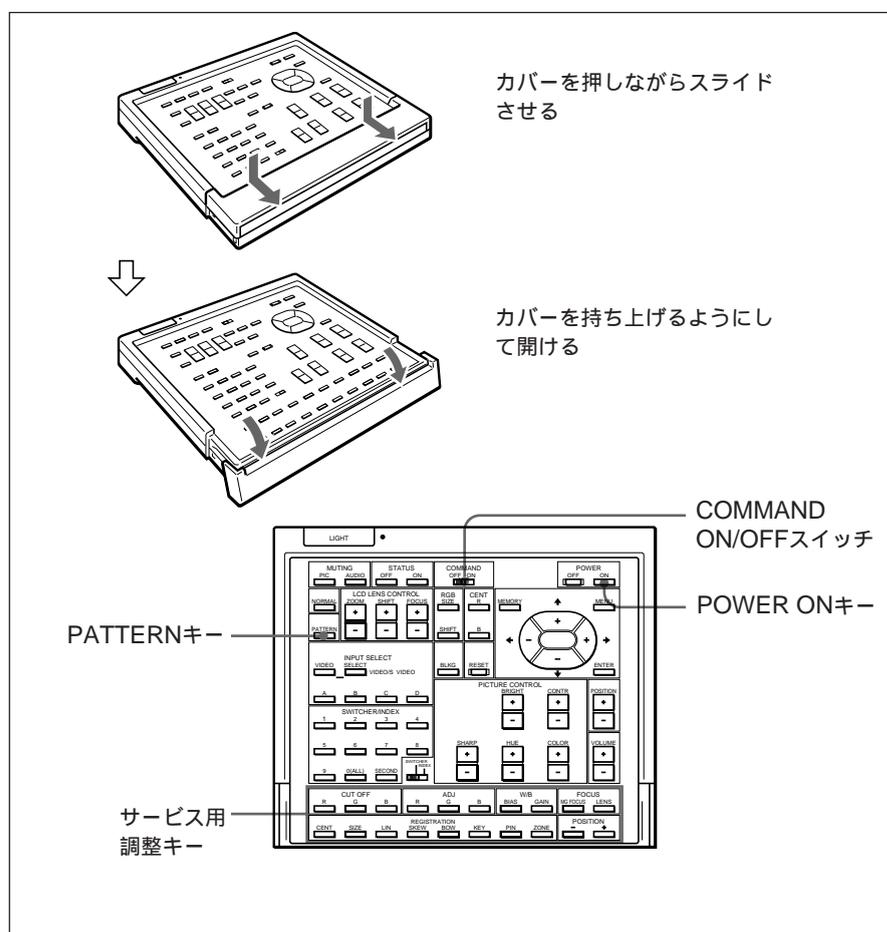
# リモートコンマダーについて

本機では付属のリモートコンマダーを使用して、レンズフォーカス調整とあおり角調整を除くすべての調整を行います。リモートコンマダーは赤外線方式なので、ワイヤレスでご使用いただけますが、プロジェクターを確実に動作させるために、付属のリモコンケーブルを使用してプロジェクター本体とつないで操作することをお勧めします。

なお、リモートコンマダーのサービス用調整キーにはプロテクトがかかっており、通常の状態では働きません。そのため、調整する前にプロテクトを解除する必要があります。

## リモートコンマダーの準備

- 1 付属の単3乾電池3個を+ / - の方向を確認してからリモートコンマダーに入れる。  
詳しくは、「電池の入れかた」(44 ページ)をご覧ください。
- 2 リモートコンマダーとプロジェクター本体を接続する。  
詳しくは、「リモートコンマダーをプロジェクターに接続する」(45 ページ)をご覧ください。
- 3 リモートコンマダーのCOMMAND ON/OFF スイッチがONになっていることを確認する。
- 4 プロジェクター本体のMAIN POWER スイッチを入れてから、リモートコンマダーのPOWER ON キーを押す。
- 5 サービス用調整部分のカバーを開ける。



**6** 以下の順にキーを押す。

ENTERキー → ENTERキー → ↑キー → ↓キー → ENTERキー

次の画面が表示されます。



**7** ↑、↓キーを押して「はい」を選び、ENTERキーを押す。

リモートコマンダーのプロテクトが解除され、サービス用調整キーが働くようになります(サービス調整モード)

調整が終了したら、もう一度プロテクトをかけてください。

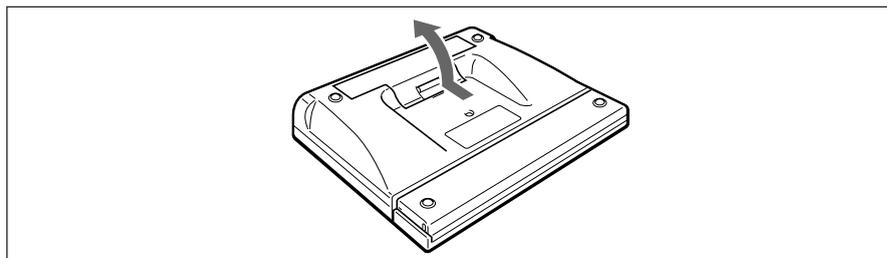
詳しくは、「調整した設定を誤操作から保護する」(113ページ)をご覧ください。

**ワイヤレスリモコンとしてお使いになる時のご注意**

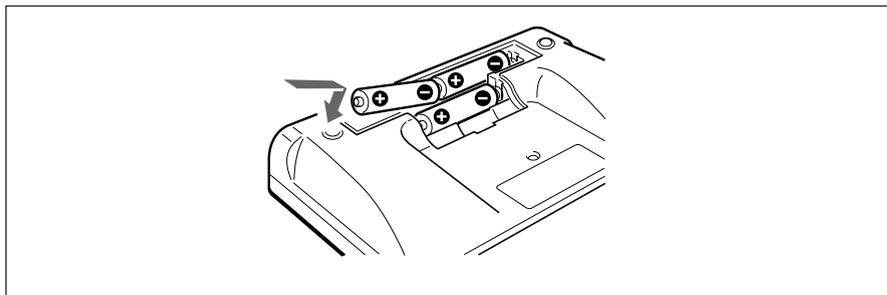
- リモートコマンダーとプロジェクターの受光部の間に障害物があると、リモコン操作ができないことがあります。
- リモコン操作ができる範囲は限られています。本体に近いほど操作できる角度は広がります。

電池の入れかた

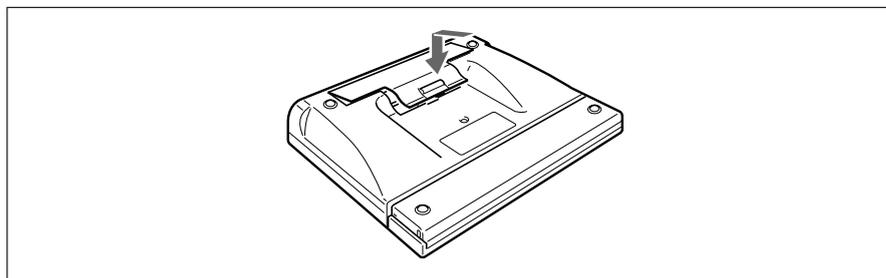
**1** ふたを外す。



**2** +と-の方向を確認して単3形乾電池3個(付属)を入れる。



### 3 ふたを閉める。



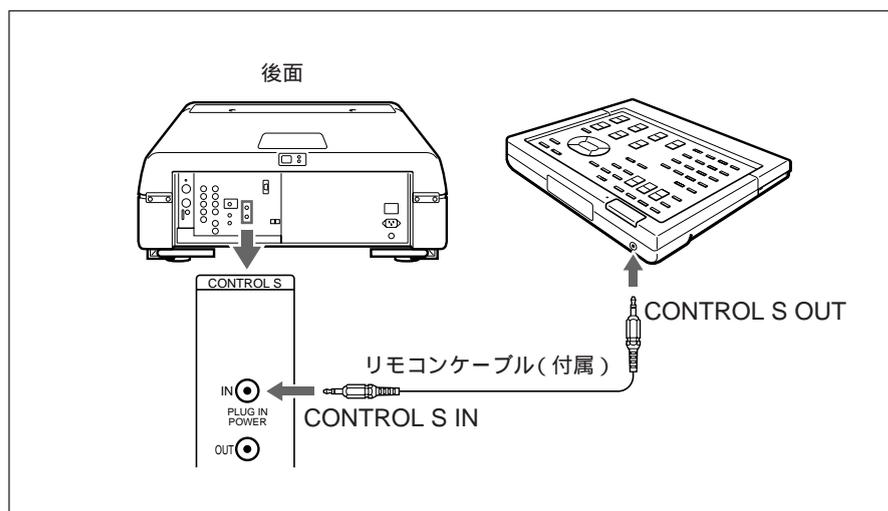
#### 乾電池についてのご注意

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことは必ずお守りください。

- +と-の向きを正しく入れてください。
- 新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は充電できません。
- 長い間乾電池を使用しないときは、取り出しておいてください。液もれが起こったときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- プロジェクターの動作状態が悪い場合は、乾電池が消耗している可能性があります。すべての乾電池を新しいものと交換してください。
- 乾電池の寿命は使用頻度やLIGHTボタンの使用回数によります。乾電池が早く消耗してしまう場合は、新しいアルカリ電池と交換してください。

調整の前に

### リモートコマンダーをプロジェクターに接続する



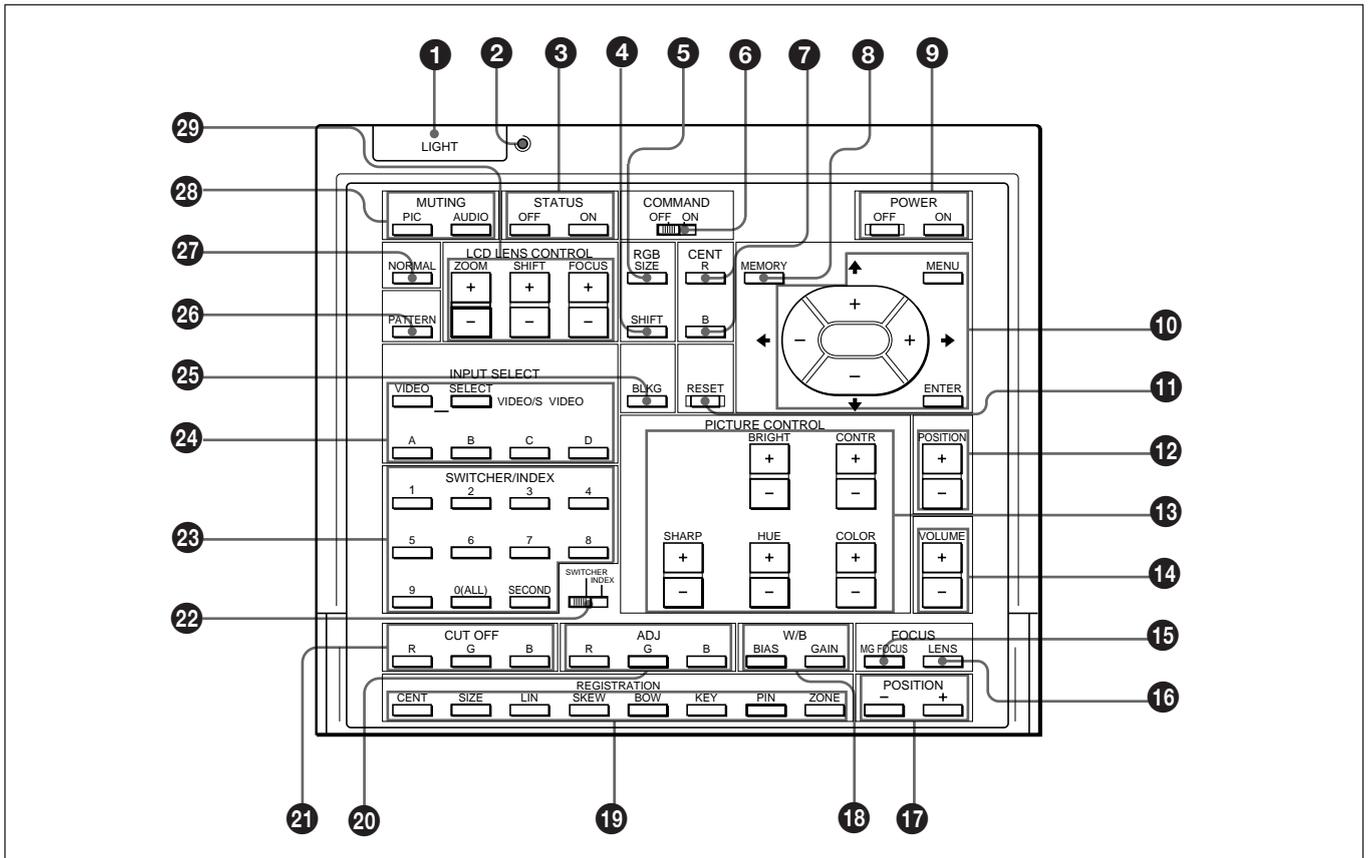
#### ご注意

本体にリモコンケーブルを接続した場合、本体のリモコン受光部は機能しません。ワイヤレスリモートコマンダーとしてご使用になるときは、必ず本体とコマンダーの端子からリモコンケーブルを抜いてください。

リモートコマンダーのキーの名称と働き

**ご注意**

- VOLUME + / - キー⑭、FOCUS LENS キー⑮、INPUT SELECT C、D キー⑳、AUDIO MUTING キー㉓、LCD LENS CONTROL キー㉔は本機では働きません。
- MG FOCUS キー⑮、W/B BIAS/GAIN キー⑱、REGISTRATION キー⑲、ADJ R/G/B キー㉒、CUT OFF R/G/B キー㉑はサービスマニュアル調整モードのときのみ働きます。



調整の前に

**① LIGHT (ライト) ボタン**  
COMMAND スイッチ ⑥ が ON のとき、このボタンを押すとキーの名称表示が照明されます。COMMAND スイッチ ⑥ が OFF のときは、COMMAND スイッチのみが照明されます。

もう一度 LIGHT ボタンを押すと消灯します。  
また、照明中にキーを 30 秒以上操作しないと、自動的に消灯します。

プロジェクターとリモコンケーブルで接続しているときは、プロジェクターの CONTROL S IN 端子からリモートコマンダー用の電源が供給されます。

**② 発信確認用ランプ**  
キーを押すたびにランプが光ります。ランプが光らないときは、電池を新しいものと取り換えてください。

**③ STATUS ON/OFF (画面表示切り換え) キー**  
ON : 画面表示を出すときに押します。  
OFF : 画面表示を出したくないときに押します。

**ご注意**

画面表示を「オフ」に設定しても、メニュー画面と警告メッセージは表示されます。

**④ RGB SHIFT (シフト調整) キー**  
入力信号の画面の位置を調整するときに押します。そのあとに、矢印キーで調整します。  
それぞれの矢印キーの矢印の方向に画面が移動します。  
MEMORY キー ⑧ を押すと、調整値が記憶され、調整された画面が表示されます。

**⑤ RGB SIZE(サイズ調整)キー**

入力信号の画面の大きさを調整するときに押します。そのあとに、矢印キーで画面の大きさを調整します。

← : 水平方向に小さくするとき

→ : 水平方向に大きくするとき

↑ : 垂直方向に大きくするとき

↓ : 垂直方向に小さくするとき

MEMORY キー **③** を押すと、調整値が記憶され、調整された画面が表示されます。

**⑥ COMMAND ON/OFF(コマンド入/切)スイッチ**

このスイッチをOFFにすると、LIGHT ボタン以外のリモートコマンドのキーがすべて動かなくなります。使わないときにOFFにしておくと、電池の消耗を防ぐことができます。

**⑦ CENT R/B(センタリング調整赤/青)キー**

赤色と青色のセンタリングを調整します。

R : 赤色調整用のテストパターンがスクリーンに出ます。

B : 青色調整用のテストパターンがスクリーンに出ます。

テストパターンを出した後に、矢印キーで調整します。

**⑧ MEMORY(データ記憶)キー**

調整したデータを記憶します。

**⑨ POWER ON/OFF(電源入/切)キー**

プロジェクター本体のMAIN POWER スwitchが入っているときに、電源を入/切します。

**⑩ メニュー操作キー**

メニューを使って様々な設定や調整を行うときに使います。

MENU(メニュー) : メインメニューを画面に表示するときに押します。もう一度押すとメニューは消えます。

矢印キー : メニューの項目を選んだり、数値を変えるときに使います。

ENTER(確定) : メニューの設定項目を確定するときに押します。

**⑪ RESET(リセット)キー**

調整値をファクトリーデータリセット状態、またはサービスデータリセット状態に戻すときに押します。

**⑫ POSITION +/- (位置調整)キー**

フォーカス調整、レジストレーション調整、およびブランキング調整のとき、画面上の調整位置を選びます。

また、RGB信号の画面位置調整のとき、「Vシフト」を「ワイド」か「ナロー」に切り換えます。

**⑬ PICTURE CONTROL(画質調整)キー**

画質を調整します。

CONTR(コントラスト) BRIGHT(明るさ) COLOR(色の濃さ) HUE(色合い) SHARP(シャープネス)

**⑭ VOLUME +/- (音量)キー**

本機では使用しません。

**⑮ MG FOCUS(マグネフォーカス調整)キー**

マグネフォーカス、AQP/DQP調整モードに入るときに押します。

詳しくは、「緑のマグネフォーカスとAQP/DQPを調整する」(72ページ)をご覧ください。

**⑯ FOCUS LENS(レンズフォーカス調整)キー**

本機では使用しません。

**⑰ POSITION +/- (位置調整)キー**

POSITION +/- キー **⑫** と同じ動きです。

フォーカス調整、レジストレーション調整、およびブランキング調整のとき、画面上の調整位置を選びます。

**⑱ W/B(ホワイトバランス調整)キー**

ホワイトバランス調整モードに入るときに押します。

BIAS : カットオフ調整

GAIN : ドライブ調整

**⑲ REGISTRATION(レジストレーション調整)キー**

CENT(センタリング)/SIZE(サイズ)/LIN(リニアリティ)/SKEW(スキュー)/BOW(ボウ)/KEY(キーストーン)/PIN(ピンクション)/ZONE(ゾーン)

レジストレーション調整のとき、それぞれのキーで調整したい項目を選択します。その後、矢印キーで調整します。

詳しくは、「レジストレーションを調整する」(79ページ)をご覧ください。

**⑳ ADJ R/G/B(色調整選択)キー**

フォーカス調整、レジストレーション調整、およびホワイトバランス調整のとき、それぞれのキーで調整したい色を選択します。

R : 赤

G : 緑

B : 青

## リモートコマンダーについて

### ㉑ CUT OFF (色消去選択)キー

レジストレーション調整のとき、それぞれのキーで消したい色を選択します。もう一度押すと、消した色の画像が現われます。

R : 赤

G : 緑

B : 青

### ㉒ SWITCHER/INDEX (スイッチャー/インデックス) 切り換えスイッチ

SWITCHER/INDEXキーの機能を切り換えます。

SWITCHER : スwitchャーの入力切り換えに使用するとき

INDEX : 複数のプロジェクターをつないでいるときにプロジェクターのインデックス番号を選ぶとき

### ㉓ SWITCHER/INDEX (スイッチャー/インデックス) キー SWITCHER/INDEX 切り換えスイッチをSWITCHERに設定したとき

別売りのシグナルインターフェーススイッチャーPC-1271Jを接続しているときに、スイッチャーの入力の番号を切り換えます。番号キー9は動作しません。

SECONDキーはスイッチャーを2台接続した場合に使用します。

2台目のスイッチャー(スイッチャーのSINGLE/SECOND/OTHERスイッチが、SECONDに設定されているほう)の入力を切り換えるときは、SECONDキーを押してから2秒以内に1~8の番号キーを押します。

SWITCHER/INDEX切り換えスイッチをINDEXに設定したとき

複数のプロジェクターをつないでいるとき、後面のINDEX NO. スイッチで設定したインデックス番号を指定して、調整したいプロジェクターを選びます。1~9の番号キーでインデックス番号を指定してからENTERキーを押します。全部のプロジェクターを同時に調整するときは、0 (ALL) キーを押してからENTERキーを押します。

### ㉔ INPUT SELECT (入力選択) キー

スクリーンに映したい入力信号を選択します。

VIDEO (ビデオ) : VIDEO IN 端子またはS VIDEO IN (またはY/C IN) 端子に接続した機器からの信号

SELECT VIDEO/S VIDEO (ビデオ/Sビデオ選択) :

VIDEOキーを押してから、このキーでVIDEO IN 端子またはS VIDEO IN (またはY/C IN) 端子に接続した機器からの信号を選びます。

A (入力A) : INPUT A 端子に接続した機器からのRGB 信号、コンポーネント信号またはハイビジョン信号

B (入力B) : INPUT B に IFB-40 以外の別売りのインターフェースボードを装着したとき

C (入力C) \ D (入力D) : 本機では使用しません。

### ご注意

入力Aまたは入力BからS VIDEO IN (またはY/C IN) に切り換えるときは、初めにVIDEOキーを押してから、SELECT VIDEO/S VIDEOキーを押してください。

### ㉕ BLKG (ブランキング調整) キー

ブランキング調整のとき、このキーを押してから矢印キーでブランキングを調整します。

詳しくは、「ブランキング調整」(103、106ページ)をご覧ください。

### ㉖ PATTERN (テストパターン表示) キー

内蔵信号のテストパターンを表示させるときに押します。キーを押すごとに切り換わります。

また、フォーカス調整やレジストレーション調整、ホワイトバランス調整のときに押すと、それぞれの調整に合ったテストパターンがスクリーンに表示されます。

詳しくは、「テストパターン」(64ページ)をご覧ください。

### ㉗ NORMAL (ノーマル) キー

テストパターンを消すとき、または各調整モードから抜けるときに押します。

### ㉘ MUTING (ミュート) キー

PIC (画像) : 画像を消したいときに押します。画像を出すにはもう一度このキーを押します。

AUDIO (音声) : 本機では使用しません。

### ㉙ LCD LENS CONTROL (LCD レンズコントロール) キー

本機では使用しません。

# メニュー操作

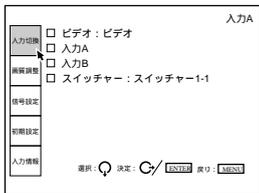
本機では、入力切り換えや画質調整、入力信号の設定、初期設定の変更、入力情報の確認など、各種調整や設定をメニュー画面で行います。

## 基本的なメニュー操作

### 1 MENUキーを押す。

メニュー選択画面が表示されます。

現在選択されているメニューの項目が青色で表示されます。

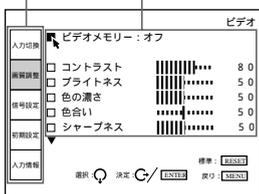


### 2 ↓または↑キーを押してメニューを選び、→またはENTERキーを押す。

選んだメニューの設定項目が表示されます。

白の設定項目は、選択できません。

メニュー 設定項目



### 3 ↓または↑キーを押して設定項目を選び、→またはENTERキーを押す。

選んだ項目の調整画面、または選択画面(ポップアップメニュー)が表示されます。

設定項目が2画面以上ある場合：

設定項目の下に▼が表示されます。↓キーを押して一番下の項目を選び、もう一度↓キーを押すと次の画面に切り換わります。前の画面に戻るには、↑キーを押して一番上の項目を選び、もう一度↑キーを押します。

### 4 設定項目の調整や選択をする。

数値を変更する項目の場合：

数値を大きくするときは、↑または→キーを押す。

数値を小さくするときは、↓または←キーを押す。

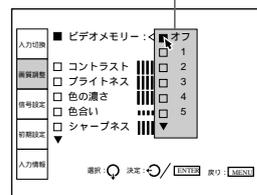
ENTERキーを押すと、変更した数値が確定し、元の画面に戻ります。



設定を選択する場合：

↓または↑キーを押してポップアップメニューから設定を選択し、←またはENTERキーを押す。選択した設定が確定し、ポップアップメニューが消えます。

ポップアップメニュー



詳しくは、それぞれのメニューのページをご覧ください。

## メニュー画面を消す

MENUキーを押す。

約1分間操作をしない場合もメニューは自動的に消えます。

## 設定値をリセットする

RESETキーを押す。

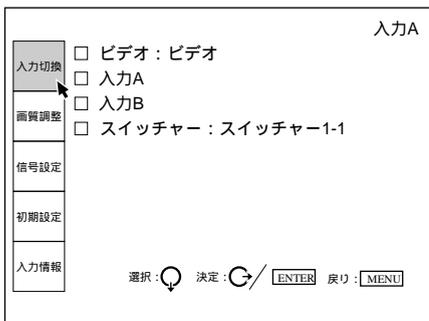
「リセット終了!」というメッセージが表示され、画面に表示中の設定値がサービスデータリセット状態、またはファクトリーデータリセット状態に戻ります。

## 設定値の記憶について

設定値は自動的に本体に記憶されます。また、MEMORYキーを押して記憶させることもできます。

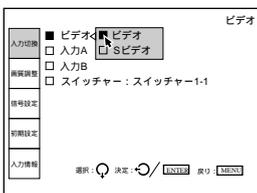
## 入力切換メニュー

入力信号を切り換えるメニューです。  
 選択できる項目は緑色で表示されます。選択できない項目は白で表示されます。



### ビデオ

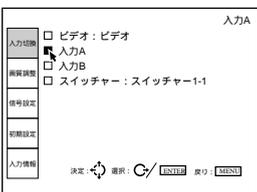
VIDEO IN 端子またはS VIDEO IN 端子(またはY/C IN 端子)に接続された機器の信号を入力するときに選びます。



ポップアップメニューで「ビデオ」または「Sビデオ」を選びます。

### 入力A

INPUT A 端子に接続された機器の信号を入力するときに選びます。

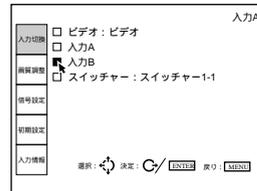


#### ご注意

- 5BNCケーブルを使ってINPUT A端子へシグナルインターフェーススイッチャーPC-1271Jを接続したときは、「入力A」は選択できません。
- 入力信号の種類は、初期設定メニュー(56ページ)の「入力A」で正しく設定してください。初期設定メニューの設定が違っていると、映像が乱れることがあります。

### 入力B

INPUT Bに装着した別売りのシグナルインターフェースボードに接続した機器の信号を入力するときに選びます。

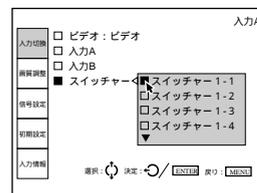


#### ご注意

- INPUT BにシグナルインターフェースボードIFB-40を装着してシグナルインターフェーススイッチャーPC-1271Jを接続したときは、「入力B」は選択できません。
- 入力信号の種類は、初期設定メニュー(56ページ)の「入力B」で正しく設定してください。初期設定メニューの設定が違っていると、映像が乱れることがあります。

### スイッチャー

シグナルインターフェーススイッチャーPC-1271Jを使用しているとき、スイッチャーの入力を選びます。



ポップアップメニューでSW'ER1-1~2-8を選ぶことができます。  
 SW'ER1-1~2-8は入力がなくともすべて緑で表示されます。

#### ご注意

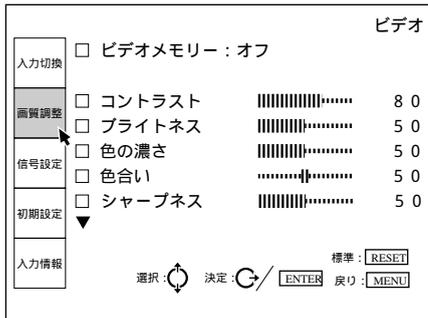
「スイッチャー」は、INPUT BにシグナルインターフェースボードIFB-40が装着されているとき、または初期設定メニューの「5BNCモード」が「オン」のときのみ選択できます。

## 画質調整メニュー

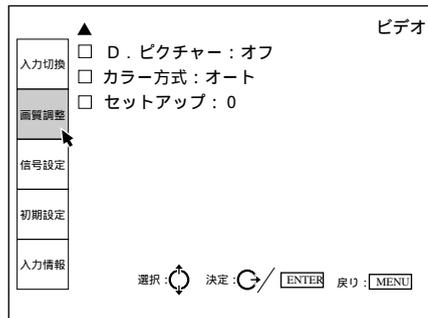
画質を調整するメニューです。

調整できる項目は緑色で表示されます。調整できない項目は白で表示されます。

### 1ページ目

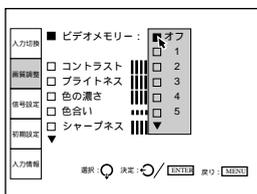


### 2ページ目



## ビデオメモリー

ビデオメモリーの番号を選びます。



ポップアップメニューの1~10の番号を選択し、画質調整をすると、選んだ番号にメモリーされます。

工場出荷時のデータを使用するときは、「オフ」を選びます。

ビデオメモリーには、入力メモリーの内容からクランプパルス位置とレジストレーションデータを除いたデータが含まれています。

入力メモリーについて詳しくは、110ページの「記憶データの種類」をご覧ください。

## コントラスト

コントラストを調整します。



設定値が大きくなると強くなり、小さくなると弱くなります。

## ブライツネス

ブライツネスを調整します。



設定値が大きくなると明るくなり、小さくなると暗くなります。

## 色の濃さ

色の濃さを調整します。



設定値が大きくなると濃くなり、小さくなると薄くなります。

## 色合い

肌色を調整します。



設定値が大きくなると緑がかり、小さくなると紫がかります。

## シャープネス

シャープネスを調整します。

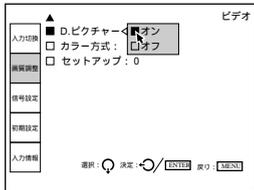


設定値が大きくなるとくっきりし、小さくなると柔らかくなります。

## メニュー操作

### D. ピクチャー (ダイナミックピクチャー)

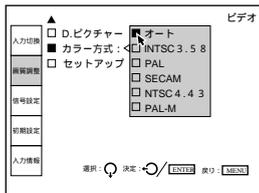
ビデオ(コンポジット映像)信号、Sビデオ(Y/C)信号またはコンポーネント信号のとき黒を強調します。



オン: 黒をより黒く再現し、メリハリのきいた画面にします。  
 オフ: 画面の暗い部分を、映像ソースに忠実に再現します。

### カラー方式

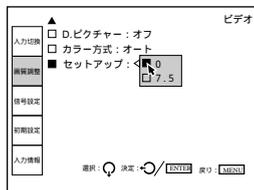
ビデオ(コンポジット映像)信号またはSビデオ(Y/C)信号のとき、カラー方式を選びます。



通常は「オート」にしておくと、自動的に判別します。  
 信号の状態が悪く、画が乱れたり色がつかない場合は、入力信号のカラー方式に合わせて選択してください。

### セットアップ

NTSC 信号のとき、セットアップレベル(黒の基準値)を設定します。



0 (0 IRE) : 通常はこの位置にします。  
 7.5 (7.5 IRE) : 映像ソースにより、黒が浮いたように見えるときはこの位置にします。

### 入力信号と調整・設定項目

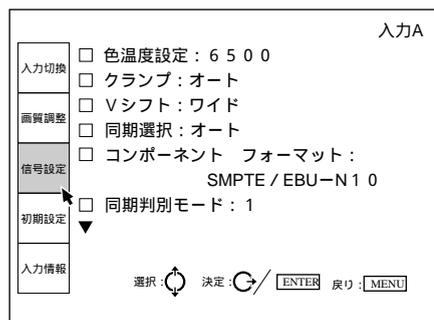
項目	入力信号			
	ビデオまたはSビデオ(Y/C)	コンポーネント	ハイビジョン	RGB
コントラスト				
ブライトネス				
色の濃さ				×
色合い	(NTSC <sub>3.58</sub> / NTSC <sub>4.43</sub> のみ)	×		×
シャープネス				×
D.ピクチャー			×	×
カラー方式		×	×	×
セットアップ	(NTSC <sub>3.58</sub> / NTSC <sub>4.43</sub> のみ)	×	×	×

:調整・設定できる項目    ×:調整・設定できない項目

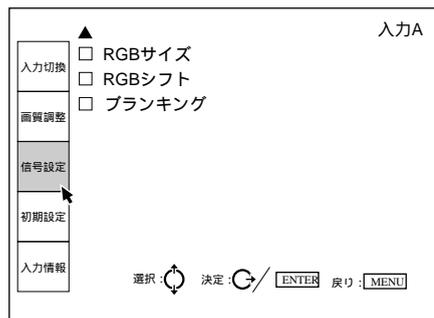
## 信号設定メニュー

入力信号の設定を変更するメニューです。  
設定できる項目は緑色で表示されます。設定できない項目は白で表示されます。

### 1ページ目

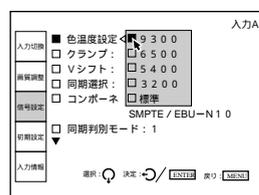


### 2ページ目



## 色温度設定

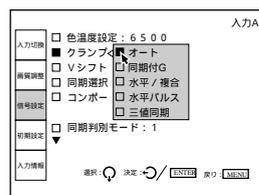
入力信号の種類や画像に合わせて好みの色温度を選びます。



特定の入力信号の色だけをモニターの色と合わせたいときは、「標準」を選択してホワイトバランス調整を行います。  
詳しくは、「ホワイトバランスを調整する」(107ページ)をご覧ください。

## クランプ

入力される画像の輝度がおかしいときに、クランプ位置を変更します。



クランプとは映像の黒レベルを正しい位置に設定する基準となるものです。基準となる位置は映像信号によって異なります。通常、プロジェクター内部のCPUが入力信号を判別し、クランプ位置を自動設定しますが、ノイズなどの影響でまれに誤って判別することがあります。外部信号を映して画面の輝度に異常が見られたときは、クランプ位置の設定を変えてください。

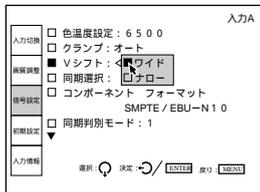
- オート: クランプ位置自動設定モード。通常はこの位置にします。
- 同期付G: 黒であるべきところが明るく(もしくは緑色で)浮いたような画像になっているときはこの位置にします。
- 水平/複合: 画面全体が暗かったり、輝度にムラがあるときはこの位置にします。
- 水平パルス: 「同期付G」や「水平/複合」に設定しても画面の輝度が正常にならないときは、この位置にしてHシフト調整をします。
- 三値同期: 三値シンク入力時、画面が暗くなるようなときはこの位置にします。

### ご注意

どの位置を選んでも正常な画面にならない場合は、入力している信号が正常でない、接続に問題があるなど別の原因が考えられません。入力信号や接続をもう一度確認してください。

## Vシフト(垂直シフト)

入力される画像の上下方向の位置の可変範囲を設定します。



ワイド: 通常はこの位置にします(出荷時の設定)

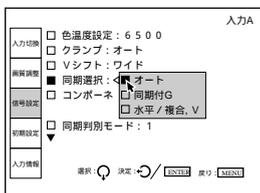
ナロー: スーパーインポーズ信号などの垂直同期信号の周期が一定でない信号を入力した場合は、上下方向に映像が乱れることがあります。この場合はこの位置にして、上下方向への設定可能範囲を狭くします。

### ご注意

入力信号がビデオ、Sビデオまたはコンポーネント信号のとき、「Vシフト」は「ナロー」に固定されます。

## 同期選択

同期信号を選びます。



オート: 自動設定モード。通常はこの位置にします。

同期付G: 同期付G信号に含まれている同期信号を使うときはこの位置にします。

水平/複合, V: 外部同期信号を使うときはこの位置にします。

### ハイビジョン信号の場合

上記の3項目の代わりに次の項目が選択できます。

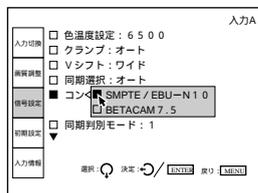
内部: 信号に含まれている同期を使うときはこの位置にします。

外部(C): 外部の複合同期を使うときはこの位置にします。

外部(HV): 外部の水平、垂直同期を使うときはこの位置にします。

## コンポーネントフォーマット

入力されるコンポーネント信号のフォーマットを選びます。

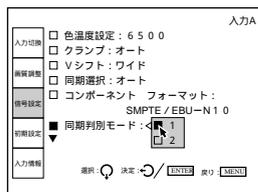


SMPTE/EBU-N10: SMPTEまたはEBU-N10方式のコンポーネント信号のときはこの位置にします。

BETACAM7.5: ベータカム方式のコンポーネント信号のときはこの位置にします。

## 同期判別モード

通常は「1」に設定します。入力信号の種類によって、同期が乱れるときは「2」に切り換えます。



## RGBサイズ

入力信号の画像の大きさを調整します。



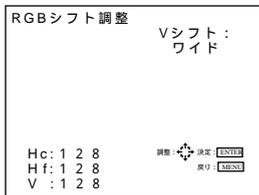
←または→キーで水平方向の画像の大きさを調整します。

↓または↑キーで垂直方向の画像の大きさを調整します。

Hc、Hfは水平方向のサイズ調整値、Vc、Vfは垂直方向のサイズ調整値です。画像が大きくなるほどサイズ調整値も大きくなります。

## RGBシフト

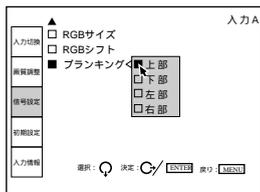
入力信号の画像の位置を調整します。



◀または▶キーで水平方向の画像の位置を調整します。  
 ↓または↑キーで垂直方向の画像の位置を調整します。  
 Hc、Hfは水平方向のシフト調整値、Vは垂直方向のシフト調整値です。

## ブランキング

画像がスクリーンからはみ出す場合、余分な部分をカットします。



カットしたい部分を「上部」、「下部」、「左部」、「右部」から選択し、  
 ▶またはENTERキーを押すとブランキング調整画面が出ます。



「上部」または「下部」を選んだときは、↓または↑キーで調整します。  
 「左部」または「右部」を選んだときは、◀または▶キーで調整します。

## 入力信号と調整・設定項目

項目	入力信号			
	ビデオまたはSビデオ(Y/C)	コンポーネント	ハイビジョン	RGB
色温度設定				
クランプ	×	×		
Vシフト	×	×		
同期選択	×	×		
コンポーネントフォーマット	×		×	×
同期判別モード				
入力メモリー固定				
画アスペクト				
RGBサイズ				
RGBシフト				
ブランキング				

:調整・設定できる項目    ×:調整・設定できない項目

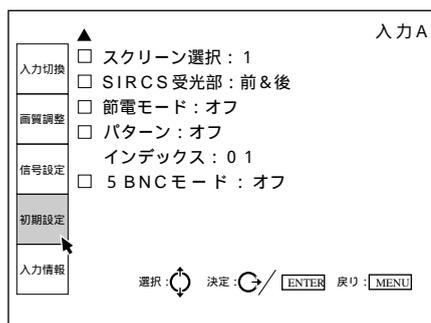
## 初期設定メニュー

プロジェクターの初期設定を変更するメニューです。設定できる項目は緑色で表示されます。設定できない項目は白で表示されます。

### 1ページ目

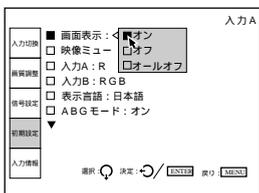


### 2ページ目



## 画面表示

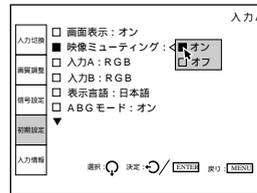
画面表示の設定をします。



- オン: 画面表示をすべて表示します。
- オフ: 「入力信号がありません」、「映像ミューティング」の表示と警告メッセージ、メニュー以外の画面表示が出ないようにします。
- オールオフ: 警告メッセージとメニュー以外の画面表示をすべて出ないようにします。

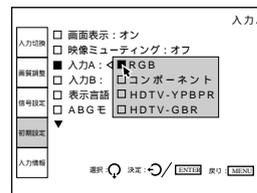
## 映像ミューティング

映像を消すとき、「オン」にします。「オン」にしていると「映像ミューティング」というメッセージが画面に表示されます。



## 入力A

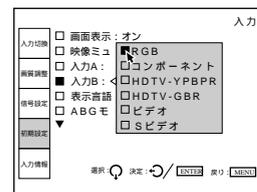
INPUT A 端子に入力する信号を選びます。



- RGB: RGB信号を入力するとき
- コンポーネント: コンポーネント信号を入力するとき
- HDTV-YPbPr: ハイビジョン信号(Y Pb Pr)を入力するとき
- HDTV-GBR: ハイビジョン信号(GBR)を入力するとき

## 入力B

INPUT Bに装着したシグナルインターフェースボードIFB-12(別売り)に入力する信号を選びます。



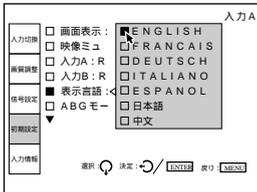
- RGB: RGB信号を入力するとき
- コンポーネント: コンポーネント信号を入力するとき
- HDTV-YPbPr: ハイビジョン信号(Y Pb Pr)を入力するとき
- HDTV-GBR: ハイビジョン信号(GBR)を入力するとき
- ビデオ: コンポジット映像信号を入力するとき
- Sビデオ: Sビデオ信号を入力するとき

### ご注意

IFB-12以外のシグナルインターフェースボードを装着したときは、この項目は選択できません。

## 表示言語

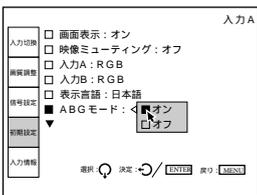
画面表示の言語を変えることができます。



「ENGLISH」(英語)、「FRANCAIS」(フランス語)、「DEUTSCH」(ドイツ語)、「ITALIANO」(イタリア語)、「ESPANOL」(スペイン語)、「日本語」、「中文」(中国語)から選ぶことができます。

## ABGモード

「オン」にすると、ABG(Automatic Background: 自動バックグラウンド)機能が働き、カットオフレベルを一定に保ちます(出荷時は「オン」)。画面の上方に表示されるカットオフレベル検出のための輝線を消したいときは「オフ」にします。

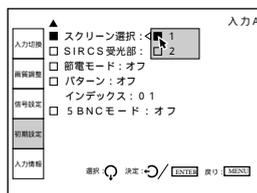


### ご注意

「オフ」にすると、ホワイトバランスのカットオフレベルが変化することがあります。

## スクリーン選択

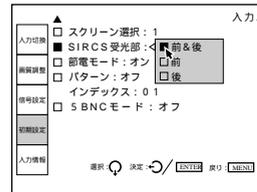
使用するスクリーンを選びます。



- 1: ピーズスクリーン
- 2: マットスクリーン

## SIRCS受光部

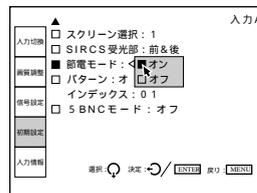
プロジェクターの前面と後面のリモコン受光部の設定をします。蛍光灯などの影響でワイヤレスリモコンが正しく動作しないとき設定を変更します。



- 前&後: 前面と後面のリモコン受光部を両方動かせるとき
- 前: 前面のリモコン受光部だけを動かせるとき
- 後: 後面のリモコン受光部だけを動かせるとき

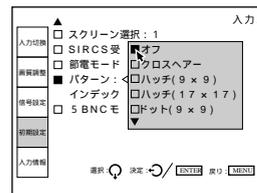
## 節電モード

「オン」にすると、本体に信号が入力されない状態が10分以上続いたとき節電モードになり、全黒表示されます。節電モードは、信号が入力されたり、キー操作をすると解除されます。



## パターン

テストパターンの種類を選びます。



「クロスヘア」、「ハッチ(9×9)」、「ハッチ(17×17)」、「ドット(9×9)」、「H」、「H反転」、「ME」、「ME反転」、「全白」、「ウインドウ」、「ウインドウ&ライン」、「カラーバー」から選ぶことができます。(サービス調整モード)

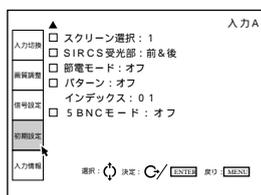
テストパターンを表示しないときは「オフ」にします。

各テストパターンの表示については、「テストパターンの種類」(64ページ)をご覧ください。

## メニュー操作

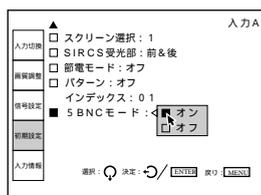
### インデックス

本機後面のINDEX NO.スイッチで設定してあるインデックス番号を表示します。



### 5BNCモード

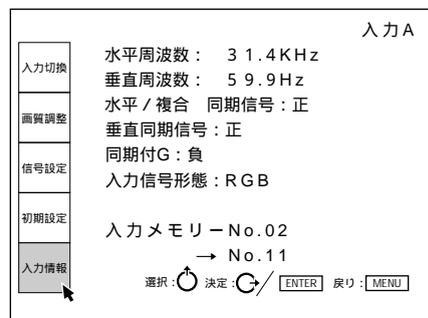
シグナルインターフェーススイッチャー PC-1271J の MONITOR OUT 端子と本機の INPUT A 端子を5BNCケーブルで接続するとき「オン」にします。



調整の前に

### 入力情報メニュー

現在入力中の信号の情報を表示するメニューです。



### 水平周波数

水平周波数を表示します。  
周波数表示は絶対的な値ではなく目安となる値です。

### 垂直周波数

垂直周波数を表示します。  
周波数表示は絶対的な値ではなく目安となる値です。

### 水平/複合 同期信号

水平または複合同期信号の極性を表示します。  
信号が使われているときは緑で、使われていないときは白で表示されます。

- 正: 同期信号の極性が正。
- 負: 同期信号の極性が負。
- - -: 同期信号が入力されていない状態。

### 垂直同期信号

垂直または複合同期信号の極性を表示します。  
信号が使われているときは緑で、使われていないときは白で表示されます。

- 正: 同期信号の極性が正。
- 負: 同期信号の極性が負。
- - -: 同期信号が入力されていない状態。

## 同期付G

同期付G信号の極性を表示します。  
信号が使われているときは緑で、使われていないときは白で表示されます。

- 負：同期信号の極性が負。
- - -：同期信号が入力されていない状態。

## 入力信号形態

入力信号の種類を表示します。

- NTSC 3.58：NTSC3.58方式
- PAL：PAL方式
- SECAM：SECAM方式
- NTSC 4.43：NTSC4.43方式
- PAL-M：PAL-M方式
- B/W：白黒映像入力
- Y/C：Sビデオ(Y/C)入力
- RGB：RGB入力
- COMPONENT：コンポーネント入力
- HDTV YPbPr：ハイビジョンYPbPr入力
- HDTV GBR：ハイビジョンGBR入力
- IDTV：IDTV入力(別売りの拡張ボードIFB-3000を装着したス  
イッチャーPC-1271J接続時)

## 入力メモリーNo.

1行目は、現在投影中の映像信号が入力されたとき、自動的に呼び出されたデータのメモリー番号を示します。2行目は、その映像信号の調整データが記憶される入力メモリーの番号を示します。緑色の番号は既存メモリー、黄色は新規メモリーを示します。

詳しくは、「データ記憶の構造」(109ページ)をご覧ください。

工場出荷時は、10種類の基本データが以下のメモリー番号に記憶されています。

メモリー番号	プリセット周波数		入力信号形態
	fH	fV	
00	15.7 kHz	60 Hz	ビデオ (NTSC <sub>3.58</sub> )
01	24.8 kHz	56 Hz	RGB
02	31.5 kHz	60 Hz	RGB
03	48.3 kHz	60 Hz	RGB
04	64.0 kHz	60 Hz	RGB
05	75.0 kHz	60 Hz	RGB
06	93.7 kHz	75 Hz	RGB
07	106.3 kHz	85 Hz	RGB
08	31.5 kHz	60 Hz	IDTV (NTSC <sub>3.58</sub> )
09	33.8 kHz	60 Hz	HDTV (Y/Pb/Pr)

## 周波数感度

入力信号の変動によって自動的に入力メモリーを切り換える感度を選択します。RGB入力の際のみ選択可能です。

入力情報メニュー画面で▶キーまたはENTERキーを押すと、入力メモリーオプションメニューに切り換わります。もう1回▶キーまたはENTERキーを押すと、周波数感度を選ぶことができます。



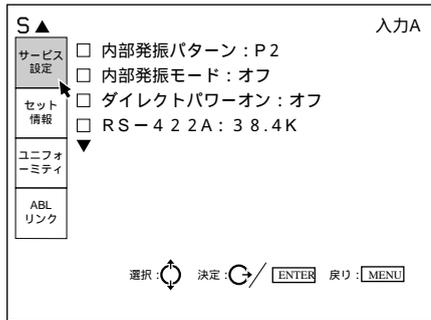
高：出荷時は「高」に設定されています。

低：ビデオの特殊再生時など、入力信号が著しく乱れ、点滅するように見えるとき「低」にします。

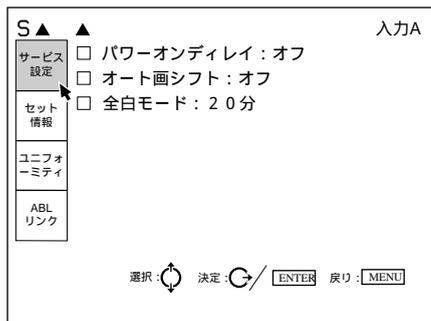
## サービス設定メニュー

サービス担当者が調整を行うためのメニューです。サービス調整モードのときは画面左上に「S」が表示されます。

### 1ページ目

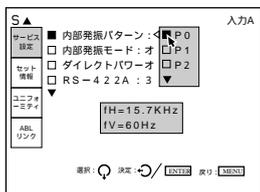


### 2ページ目



## 内部発振パターン

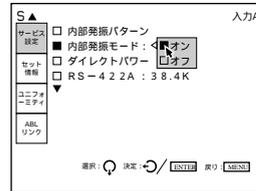
本機内部の発振器で発生させるパターンを選びます。選んだ周波数がポップアップメニューで表示されます。



- P0: fH=15.7 kHz, fV=60 Hz
- P1: fH=24.8 kHz, fV=56 Hz
- P2: fH=31.5 kHz, fV=60 Hz
- P3: fH=48.3 kHz, fV=60 Hz
- P4: fH=64.0 kHz, fV=60 Hz
- P5: fH=75.0 kHz, fV=60 Hz
- P6: fH=93.7 kHz, fV=75 Hz
- P7: fH=106.3 kHz, fV=85 Hz

## 内部発振モード

本機内部の発振器を働かせるときは「オン」にします。

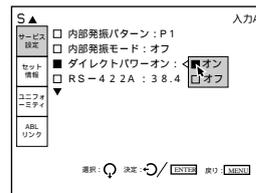


### ご注意

外部入力信号がないときは、この項目を選択することができません。

## ダイレクトパワーオン

MAIN POWER スイッチを押したときのプロジェクターの状態を選びます。



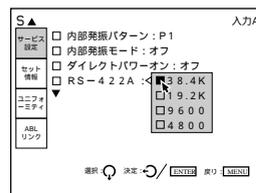
- オン: MAIN POWER スイッチを押したとき、電源オンになる。
- オフ: MAIN POWER スイッチを押したとき、スタンバイ状態になる。

### ご注意

「ダイレクトパワーオン」を「オン」に設定してあるとき、本機の電源が切れている(スタンバイ状態)間に起こった停電が復帰したとき、自動的に本機の電源が入ります。

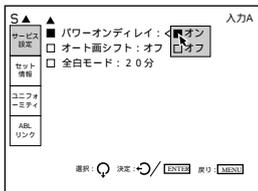
## RS-422A

RC-422A で通信するときのボーレートを設定します。「38.4k」、「19.2k」、「9600」、「4800」の中から選びます。



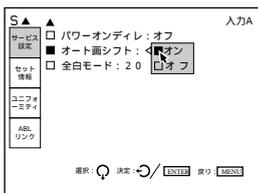
## パワーオンディレイ

複数のプロジェクターを接続しているとき「オン」にすると、各プロジェクターを1台ずつ時間をずらして電源が入るように設定することができます。



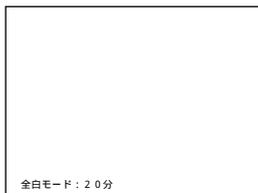
## オート画シフト

「オン」にすると、CRTの焼き付きを軽減するため、画像を少しずつずらして表示します。



## 全白モード

ウォームアップ時の全白モードの持続時間を設定します。

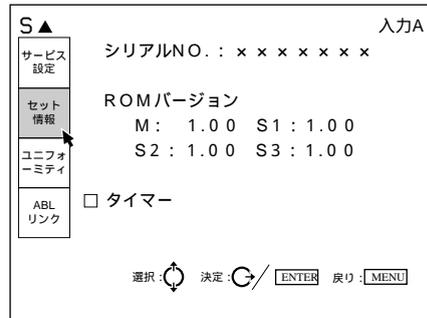


↑、↓、←または→キーで、接続時間を0～99分に設定します。全白モードにせず、電源を入れたとき、入力信号をすぐに映すようにしたいときは0分に設定します。

詳しくは「ウォーミングアップ時間を変更する」(115ページ)をご覧ください。

## セット情報メニュー

本機のシリアルナンバーやROMのバージョン、プロジェクターやCRTの累積使用時間を表示します。



### シリアルNO.

本機の製造ナンバーを表示します。

### ROMバージョン

本機に使用しているROMのバージョン(M、S1、S2、S3)を表示します。

### タイマー

本機の累積操作時間やCRTの使用時間を表示します。

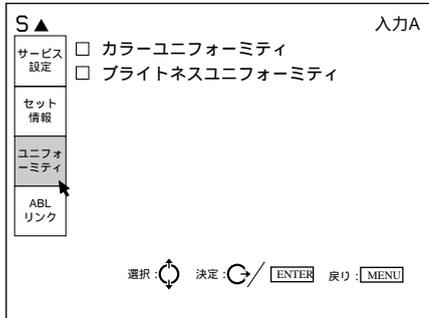


累積操作時間: 本機の累積操作時間を表示します。

CRT使用時間: R(赤) G(緑) B(青)の各CRTの累積使用時間を表示します。

## ユニフォーミティ調整メニュー

画像全体の色や明るさを均一にするための調整メニューです。



### カラーユニフォーミティ

カラーシェーディング(画面全体の色調のばらつき)を補正し、均等な色の画面にします。外部から全白信号を入力して調整します。



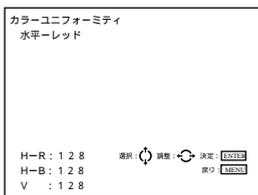
オフ: 出荷時はオフに設定されています。

標準値: 初期設定メニューの「スクリーン選択」で選んだスクリーンに適したカラーユニフォーミティが得られます。

マニュアル: 外部信号(全白)を入力して、手動でカラーユニフォーミティを調整します。

「マニュアル」を選ぶと次の画面が出ます。

↓キーを押して調整項目を選び、←または→キーを押してそれぞれの項目を調整します。



水平-レッド: 横方向の赤が均一になるように調整します。

水平-ブルー: 横方向の青が均一になるように調整します。

垂直: 縦方向の明るさが均一になるように調整します。

調整が終了したらENTERキーを押します。

### ブライトネスユニフォーミティ

画面の明暗の差によって生じるホットスポットを補正し、均等な明るさの画面にします。



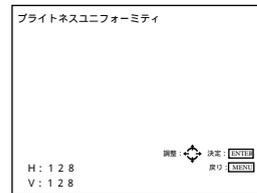
オフ: 出荷時は「オフ」に設定されています。

標準値: 初期設定メニューの「スクリーン選択」で選んだスクリーンに適したブライトネスユニフォーミティが得られます。

マニュアル: 外部信号(全白)を入力して、手動でブライトネスユニフォーミティを調整します。

「マニュアル」を選ぶと次の画面が出ます。

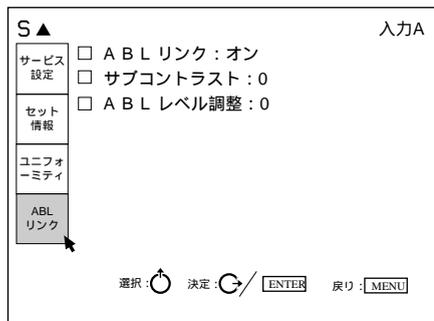
←または→キーで横方向の明るさを、↑または↓キーで縦方向の明るさを調整し、ホットスポットがなくなるようにします。



調整が終了したらENTERキーを押します。

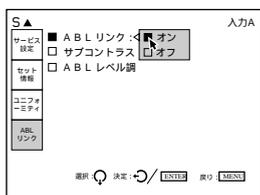
## ABLリンク調整メニュー

複数のプロジェクターを接続したとき、マルチスクリーン全体の明るさを均一にするための調整メニューです。



### ABLリンク

「オン」にすると、ABL(オートブライトネスミッター: CRT 保護のため、画面全体の輝度が上がりすぎないように自動制御する機能)が1台にでも働くと、他のすべてのプロジェクターにも働いて、マルチスクリーン全体の明るさを均等にします。



### サブコントラスト

「ABLリンク」を「オン」に設定したとき、マルチスクリーンの明るさが同じになるように各プロジェクターを調整します。



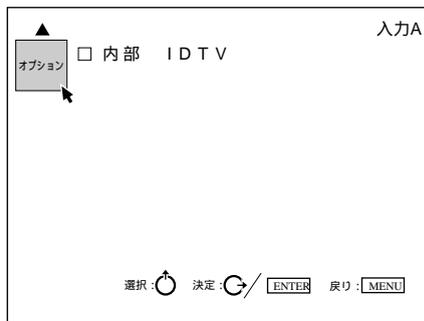
### ABLレベル調整

「ABLリンク」を「オン」に設定したとき、マルチスクリーンの明るさが同じになるように各プロジェクターを調整します。



## オプションメニュー

プロジェクターに別売りの拡張ボードEXB-DS10を装着したときに使用するメニューです。



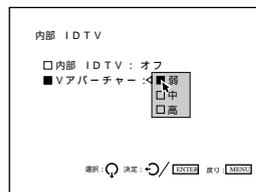
### 内部IDTV

「オン」にすると入力信号(ビデオ、Sビデオ、コンポーネントまたは15kHzRGB信号)の密度が倍になります。



### Vアパーチャー(垂直アパーチャー)

映像の縦方向のシャープネスを選択します。「弱」、「中」、「強」の3段階に設定できます。

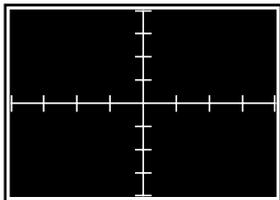


# テストパターン

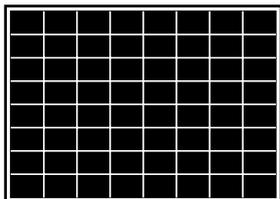
それぞれの調整モードに入ると、その調整にあったテストパターンが表示されます。  
また、PATTERNキーを押すことで、いつでもテストパターンを表示させることができます。

## テストパターンの種類

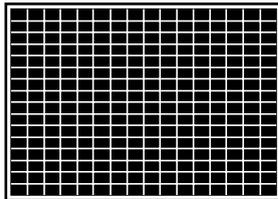
① クロスヘア



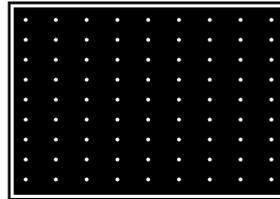
② ハッチ(9×9)



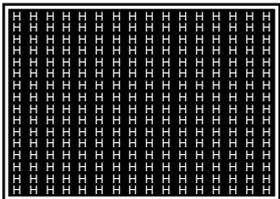
③ ハッチ(17×17)



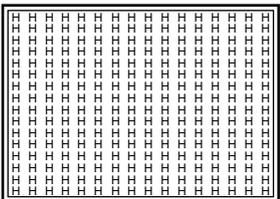
④ ドット(9×9)



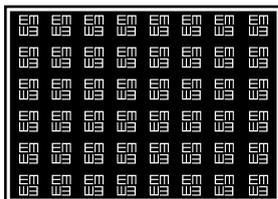
⑤ Hパターン



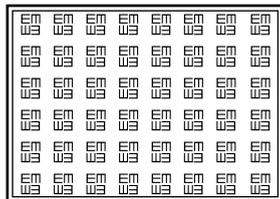
⑥ Hパターン反転



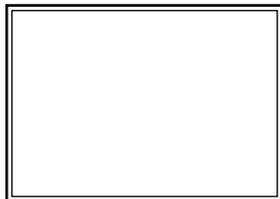
⑦ MEパターン



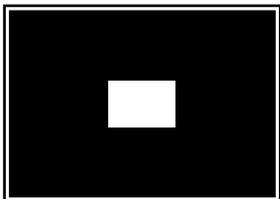
⑧ MEパターン反転



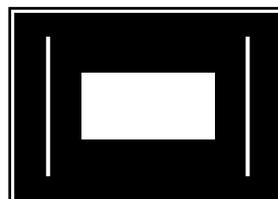
⑨ 全白



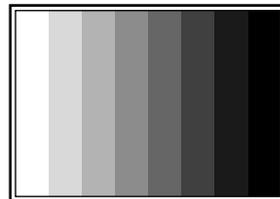
⑩ ウィンドウ



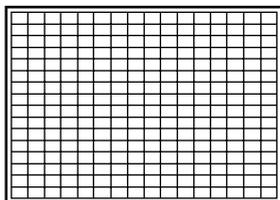
⑪ ウィンドウ&ライン



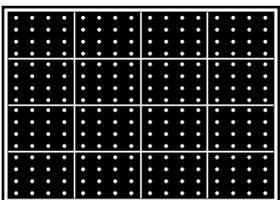
⑫ カラーバー



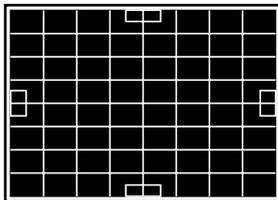
⑬ インバートハッチ(17×17)  
(レジストレーション調整時  
のみ)



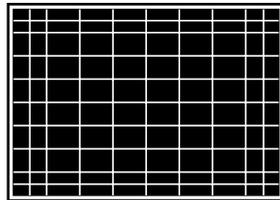
⑭ ドット(17×17)&ハッチ(5×5)  
(マグネフォーカス、AQP/  
DQP調整時のみ)



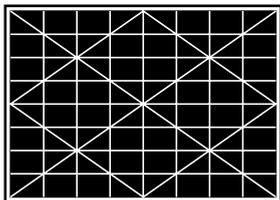
⑮ サブ調整用パターン1  
(SIZE、LIN、SKEW、  
BOW調整時のみ)



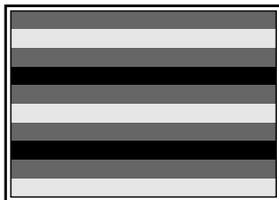
⑯ サブ調整用パターン2  
(KEYS、PIN調整時  
のみ)



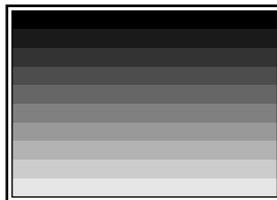
⑰ クロス(9×9)  
(ZONE調整時のみ)



⑱ ブルージュ  
(BIAS調整時のみ)



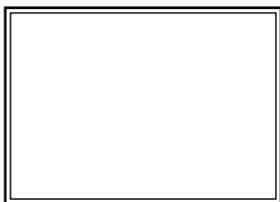
⑲ ステアステップ  
(GAIN調整時のみ)



⑳ 5 IRE  
(BIAS調整時のみ)



㉑ 100 IRE (GAIN、BIAS調整時のみ)



①～⑫のパターンは、サービス調整モードのときPATTERNキーを押すと、順番に表示されます。

⑬～㉑のパターンは特定の調整モードのときのみ表示されます。

各パターンイラストの外側の枠はスクリーンのふちを示します。



調整の前に

各調整モードで使うテストパターン

各調整モードのときに PATTERN キーを押すと、次のテストパターンが順番に表示されます。

調整モード	テストパターン
CENT	クロスヘア→ハッチ(9×9)→ハッチ(17×17)→インパートハッチ(17×17)→外部信号+ハッチ(17×17)→外部信号→クロスヘア...
SIZE	クロスヘア→サブ調整用パターン1→ハッチ(17×17)→
LIN	インパートハッチ(17×17)→外部信号+ハッチ(17×17)→
SKEW	外部信号→クロスヘア...
BOW	
KEY	ハッチ(9×9)→サブ調整用パターン2→ハッチ(17×17)→
PIN	インパートハッチ(17×17)→外部信号+ハッチ(17×17)→
KEY BALANCE	外部信号→ハッチ(9×9)...
PIN BALANCE	
ZONE	ハッチ(9×9)→クロス(9×9)→ハッチ(17×17)→インパートハッチ(17×17)→外部信号+ハッチ(9×9)→外部信号→ハッチ(9×9)...
MG FOCUS	ドット(9×9)→ドット(17×17)&ハッチ(5×5)→MEパターン→
AQP/DQP	MEパターン反転→全白→外部信号→ドット(9×9)...
GAIN	ステアステップ→100 IRE→ウインドウ→外部信号→ステアステップ...
BIAS	ブルージュ→5 IRE→100 IRE→外部信号→ブルージュ...
BLKG	外部信号+ハッチ(17×17)↔外部信号
RGB SIZE	外部信号↔外部信号+ハッチ(17×17)
RGB SHIFT	
サービス調整モード	64 ページのテストパターン ① ~ ⑫
ユーザーモード	クロスヘア→ハッチ(9×9)→MEパターン→カラーバー→クロスヘア...

# フォーカスを調整する

## フォーカス調整の手順

調整の前に

- プロジェクターが正しく設置されていることと、コンバー角が正しく調整されていることを確認してください。
- 画像がスクリーンからはみ出しているときやリア投影のときは、フォーカス調整を始める前に、あらかじめ大まかにレジストレーション調整を行ってください。

調整の手順

- ① リモートコマンダーをサービス調整モードにする。(43 ページ)
- ↓
- ② 入力信号が接続されていない入力を選択する。「入力信号がありません」の状態)(68 ページ)
- ↓
- ③ 内部発振パターンのfH=31.5 kHzを選択する。(68 ページ)
- ↓
- ④ Hパターンを表示させる。(68 ページ)
- ↓
- ⑤ コントラストと輝度の設定をリセットする。(68 ページ)
- ↓
- ⑥ 緑のレンズフォーカスを調整する。(68 ページ)
- ↓
- ⑦ 上部カバーをあける。(70 ページ)
- ↓
- ⑧ 緑のあおり角を調整する。(70 ページ)
- ↓
- ⑨ 緑のレンズにマグネフォーカス調整用キャップをかぶせる。(72 ページ)
- ↓
- ⑩ 緑のマグネフォーカスとAQP/DQPを調整する。(72 ページ)  
手順⑥、⑧、⑩を繰り返して、緑のフォーカスをとる。
- ↓
- ⑪ 赤のレンズフォーカスを調整する。(74 ページ)
- ↓
- ⑫ 赤のあおり角を調整する。(74 ページ)
- ↓
- ⑬ 赤のレンズにマグネフォーカス調整用キャップをかぶせる。(74 ページ)
- ↓
- ⑭ 赤のマグネフォーカスとAQP/DQPを調整する。(74 ページ)  
手順⑪、⑫、⑬を繰り返して、赤のフォーカスをとる。
- ↓
- ⑮ 青のレンズフォーカスを調整する。(75 ページ)
- ↓
- ⑯ 青のあおり角を調整する。(75 ページ)
- ↓
- ⑰ 青のレンズにマグネフォーカス調整用キャップをかぶせる。(75 ページ)
- ↓
- ⑱ 青のマグネフォーカスとAQP/DQPを調整する。(75 ページ)  
手順⑮、⑯、⑰を繰り返して、青のフォーカスをとる。
- ↓
- ⑲ 全白のユニフォーミティを調整する。(76 ページ)

レジストレーション調整に進んでください。

緑のフォーカスを調整する

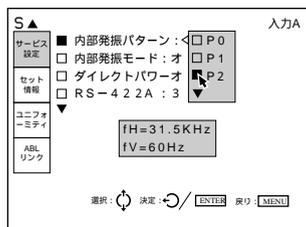
1 緑のレンズフォーカスを調整する

- 1 リモートコンマnderをサービス調整モードにする。  
詳しくは、「リモートコンマnderの準備」(43 ページ)をご覧ください。
- 2 入力信号が接続されていない入力を選択する。(NO INPUTの状態)  
リモートコンマnderのINPUT SELECT キーのうち、入力がないキーを押す。または、SWITCHER/INDEX 切り換えスイッチをSWITCHERにして、1~8の番号キーのうち、入力がないキーを押す。

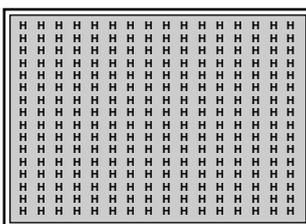
「入力信号がありません」が表示されます。



- 3 サービス設定メニューを表示して、「内部発振パターン」を「P2 (fH = 31.5 kHz)」に設定する。  
詳しくは、「サービス設定メニュー」(60 ページ)をご覧ください。



- 4 緑のセンタリングをリセットする。  
詳しくは、「データのリセット」(111 ページ)をご覧ください。
- 5 リモートコンマnderのNORMAL キーを押してテストパターンを消す。
- 6 Hパターンが表示されるまでPATTERN キーを押す。



## 7 コントラストと輝度をリセットする。

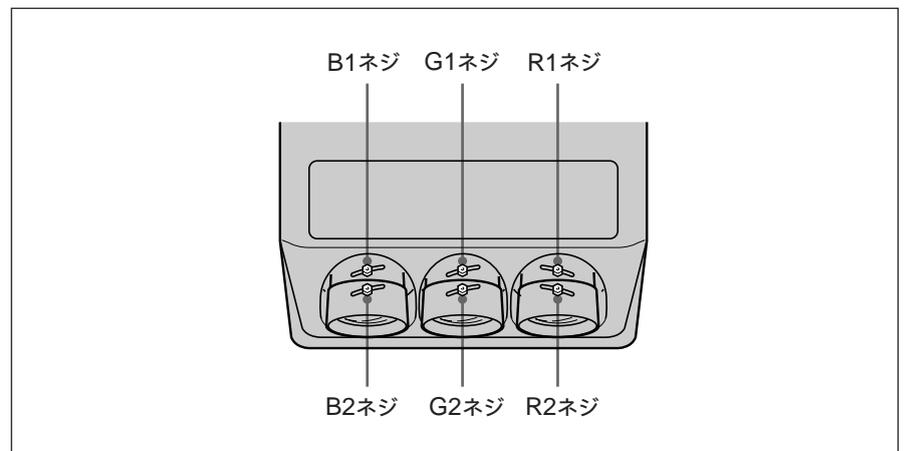
PICTURE CONTROL CONTR キーを押してからRESET キーを押すと、CONTR 値が80にリセットされます。

PICTURE CONTROL BRIGHT キーを押してからRESET キーを押すと、BRT 値が50にリセットされます。

詳しくは、「画質を調整する」(114ページ)をご覧ください。

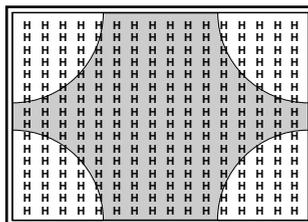
## 8 CUT OFF キーのRとBを押して、緑単色にする。

## 9 G1のネジをゆるめ、画面の中心のHの文字が一番はっきりするところにフォーカスを合わせ、ネジを締める。



## 10 G2のネジをゆるめ、画面の四隅に注目して、Hの文字が均等にはっきりするところにフォーカスを合わせ、ネジを締める。

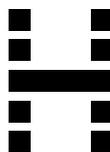
フォーカスがとれるまで、手順9と10を繰り返す。(四隅のフォーカスが合わない場合は、あおり角調整をした後で再度調整してください。)



### 調整のヒント

Hの文字はよく見ると、いくつかのドットで構成されています。フォーカスが合っていると下の図のようにドットとドットの間がはっきり見えます。

スクリーンの前に白い紙などを置いて見ると、調べやすくなります。

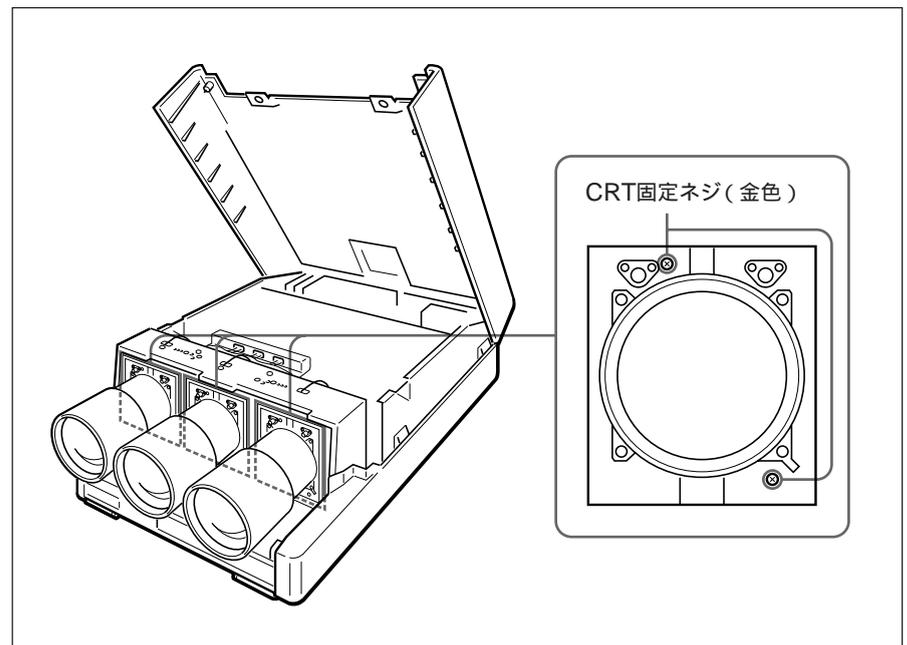


緑のあおり角調整に進んでください。

**2** 緑のあおり角を調整する

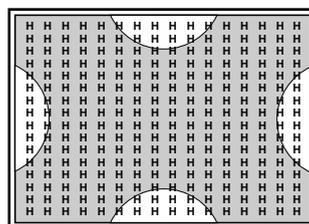
レンズフォーカス調整のあと、スクリーンの上下左右のフォーカスが合うように、CRTの角度を調整します。

- 1** 上部カバーをあげる。  
上部カバーのあけかたは22ページをご覧ください。
- 2** 前部カバーを取り外し、CRT固定ネジを外す。  
前部カバーの取り外しかたは24ページをご覧ください。

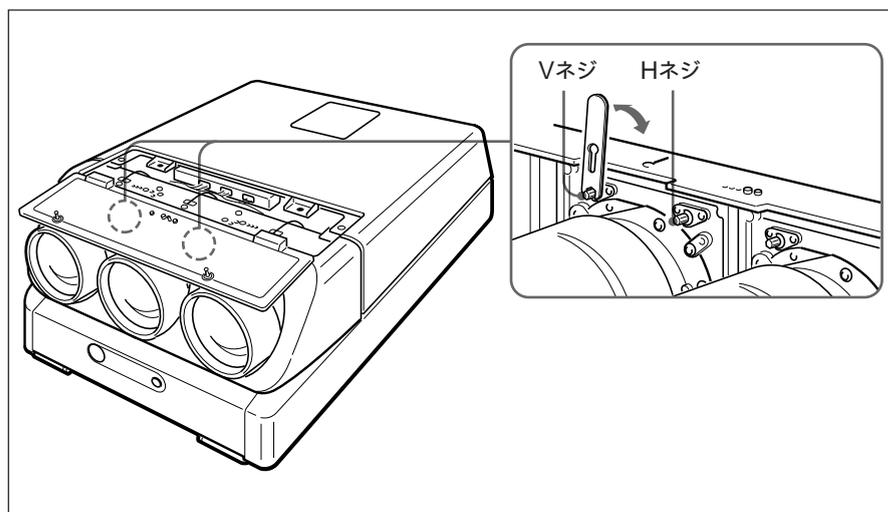


各CRTは出荷時に2本のネジで固定されています。はじめてあおり角調整をするときは、必ずCRT固定ネジ6本をすべて外してください。

- 3** スクリーンの前に白い紙を置いて、上、下、左、右部のフォーカスが手前にずれているか、後ろ側にずれているかを調べる。



**4** 付属の工具を使って、緑のCRTのVネジを調整し、上下部のフォーカスを合わせる。



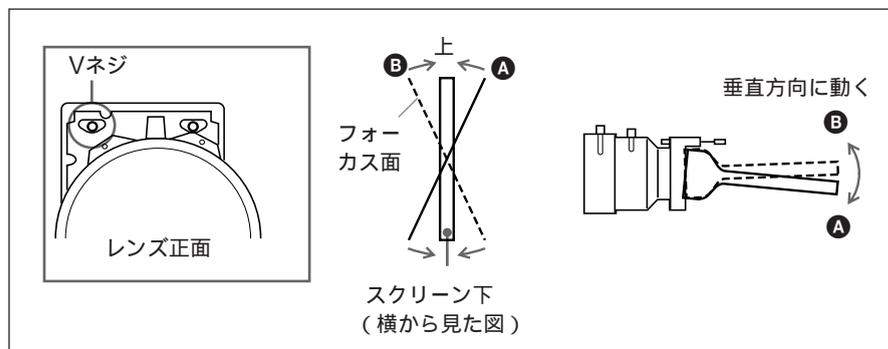
**ご注意**

緑の調整モードでは、通常Vネジだけを調整してください。

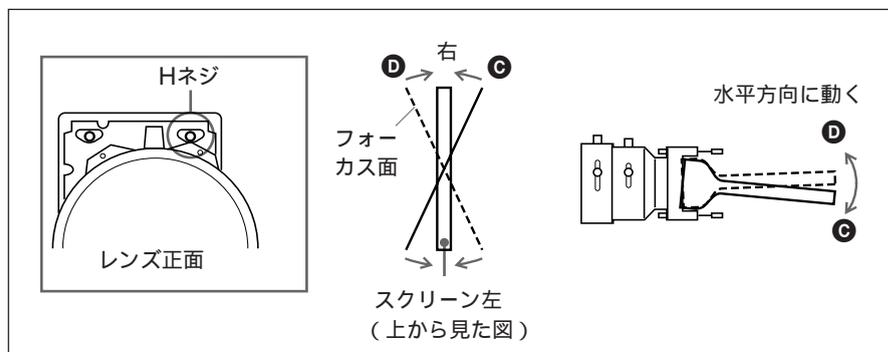
Hネジは特殊光学系の設置時だけ調整が必要です。

赤と青のあおり角調整の場合は、Hネジ、Vネジとも調整します。

Vネジを回すと、CRTが垂直方向に動き、上下方向のフォーカス面の傾きを調整できます。



Hネジを回すとCRTが水平方向に動き、左右方向のフォーカス面の傾きを調整できます。



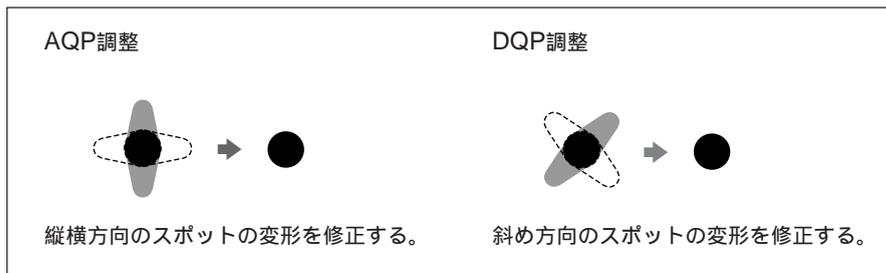
上下部と左右部のフォーカスが合うまで繰り返し調整します。

緑のマグネフォーカス、AQP/DQP調整に進んでください。

**3** 緑のマグネフォーカスとAQP/DQPを調整する

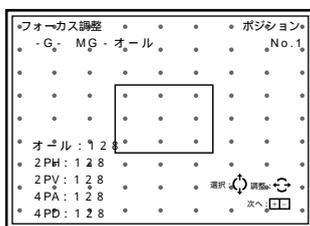
あおり角調整のあとに、マグネフォーカスとAQP (Axis Quadrupole) とDQP (Diagonal Quadrupole) を調整します。

AQP/DQP調整とは



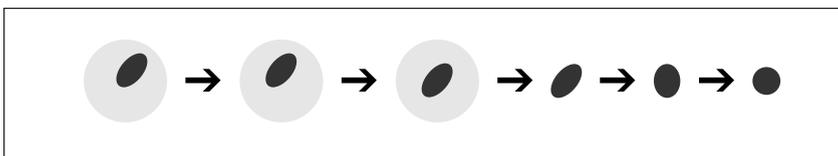
**1** 付属のマグネフォーカス調整用キャップを緑のレンズにかぶせる。

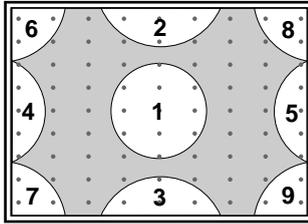
**2** MG FOCUSキーを押す。  
 ドットパターン(9×9)が表示され、調整位置が枠で表示されます。  
 ドットパターンに重なって、次の画面が表示されます。



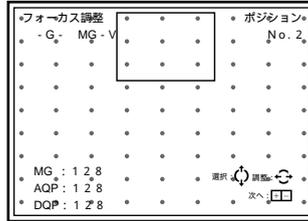
**3** 画面中央のフォーカスをとる。

- ① ←、→キーを押して「オール」の数値を大きく(+40)し、フレアが出るようにする。
- ② ↑、↓キーを押して「2PH」を選び、←、→キーを押してスポットの核がフレアの左右方向の中心にくるように調整する。
- ③ ↑、↓キーを押して「2PV」を選び、←、→キーを押してスポットの核がフレアの上下方向の中心にくるように調整する。
- ④ 手順②、③を繰り返して核がフレアの中心にくるようにする。
- ⑤ ↑、↓キーを押して「オール」に戻し、←、→キーを押して数値を小さく(-80)し、スポットがはっきり見えるようにする。
- ⑥ ↑、↓キーを押して「4PA」を選び、←、→キーを押してスポットの縦横方向の変形を調整する。
- ⑦ ↑、↓キーを押して「4PD」を選び、←、→キーを押してスポットの斜め方向の変形を修正する。
- ⑧ 手順⑥、⑦を繰り返して、スポットが丸くなるようにする。
- ⑨ ↑、↓キーを押して「オール」を選び、フォーカスを合わせる。





- 4** POSITION + キーを1回押して、上部フォーカス調整モードにする。  
 POSITION + キーを押すごとに、調整位置が左図の順序で移動します。画面右上にポジション番号が表示されます。  
 POSITION - キーを押すと、逆に移動します。



- 5** 画面上部(左図の2)のフォーカスとAQP/DQPを調整する。
- ① ←、→キーを押して画面上部のフォーカスをとる。
  - ② ↑、↓キーを押して「AQP」を選び、←、→キーを押して縦横方向の変形を調整する(AQP調整)
  - ③ ↑、↓キーを押して「DQP」を選び、←、→キーを押してななめ方向の変形を調整する(DQP調整)
  - ④ ①、②、③を繰り返してドットが正しい円形になるまで調整する。

- 6** 画面の各部分(左図の3~9)のフォーカスとAQP/DQPを順番に調整する。
- ① POSITION + キーを押して、調整する画面の位置を選ぶ。
  - ② ↑、↓キーを押して調整項目を選ぶ。
  - ③ ←、→キーを押して調整する。  
調整項目ごとに②、③を繰り返します。

ここまでの操作で緑のフォーカスとAQP/DQPが完全に調整された場合は、緑のレンズからマグネフォーカス調整用キャップを外し、赤のレンズフォーカス調整に進んでください。

それ以外の場合は、もう一度緑のレンズフォーカスから調節し直してください。

## 赤と青のフォーカスを調整する

### 4 赤のレンズフォーカスを調整する

- 1 赤のセタリングをリセットする。  
詳しくは、「データのリセット」(111ページ)をご覧ください。
- 2 Hパターンが表示されるまでPATTERNキーを押す。
- 3 CUT OFFキーのGとBを押して、赤単色にする。
- 4 R1のネジをゆるめ、画面の中心のHの文字が一番はっきりするところにフォーカスを合わせ、ネジを締める。  
詳しくは、「緑のレンズフォーカスを調整する」(68ページ)をご覧ください。
- 5 R2のネジをゆるめ、画面の四隅に注目して、Hの文字が均等にはっきりするところにフォーカスを合わせ、ネジを締める。  
フォーカスがとれるまで手順4と5を繰り返す。

赤のあおり角調整に進んでください。

### 5 赤のあおり角を調整する

レンズフォーカス調整のあとは、あおり角を調整します。  
スクリーン上、下、左、右各部のフォーカスのずれを調べて、赤のCRTのHネジとVネジを調整します。

詳しくは、「緑のあおり角を調整する」(70ページ)をご覧ください。

赤のマグネフォーカスとAQP/DQP調整に進んでください。

### 6 赤のマグネフォーカスとAQP/DQPを調整する

あおり角調整のあとは、マグネフォーカス調整用キャップを赤のレンズにかぶせてから、マグネフォーカスとAQP/DQPを調整します。

赤のマグネフォーカスとAQP/DQPの調整は、緑と全く同じです。

詳しくは、「緑のマグネフォーカスとAQP/DQPを調整する」(72ページ)をご覧ください。

ここまでの操作で赤のフォーカスが完全にとれている場合は、赤のレンズからマグネフォーカス調整用キャップを外し、青のレンズフォーカス調整に進んでください。

#### ご注意

赤のマグネフォーカスは、調整モードを抜けると多少ずれます。これは、画像を最適モードで見られるよう、プロジェクター内部でオフセットを行っているためです。

デフォーカス量について詳しくは「マグネフォーカス、AQP/DQPの微調整」(100ページ)をご覧ください。

---

## 7 青のレンズフォーカスを調整する

- 1 青のセントリングをリセットする。  
詳しくは、「データのリセット」(111ページ)をご覧ください。
- 2 Hパターンが表示されるまでPATTERNキーを押す。
- 3 CUT OFFキーのGとRを押して、青単色にする。
- 4 B1のネジをゆるめ、画面の中心のHの文字が一番はっきりするところにフォーカスを合わせ、ネジを締める。  
詳しくは、「緑のレンズフォーカスを調整する」(68ページ)をご覧ください。
- 5 B2のネジをゆるめ、画面の四隅に注目して、Hの文字が均等にはっきりするところにフォーカスを合わせ、ネジを締める。  
青のフォーカスがとれるまで手順4と5を繰り返す。

青のあおり角調整に進んでください。

---

## 8 青のあおり角を調整する

レンズフォーカス調整のあとは、あおり角を調整します。

スクリーン上、下、左、右各部のフォーカスのずれを調べて、青のCRTのHネジ、Vネジを調整します。

詳しくは、「緑のあおり角を調整する」(70ページ)をご覧ください。

青のマグネフォーカスとAQP/DQP調整に進んでください。

---

## 9 青のマグネフォーカスとAQP/DQPを調整する

あおり角調整のあとは、マグネフォーカス調整用キャップを青のレンズにかぶせてから、マグネフォーカスとAQP/DQPを調整します。

青のマグネフォーカスとAQP/DQPの調整は、緑と全く同じです。

詳しくは、「緑のマグネフォーカスとAQP/DQPを調整する」(72ページ)をご覧ください。

ここまでの操作で青のフォーカスが完全にとれている場合は、青のレンズからマグネフォーカス調整用キャップを外し、全白のユニフォーミティ調整に進んでください。

### ご注意

青のマグネフォーカスは、調整モードを抜けると多少ずれます。これは、画像を最適モードで見られるよう、プロジェクター内部でオフセットを行っているためです。

デフォーカス量について詳しくは「マグネフォーカス、AQP/DQPの微調整」(100ページ)をご覧ください。

### 10 全白のユニフォーミティを調整する

緑、赤、青のフォーカスが完全にとれたあと、全白画面のユニフォーミティを確認します。

**1** MG FOCUSキー、B ADJキー、MG FOCUSキーの順に押して、デフォーカスモードにする。

画面に「デフォーカス」表示が出て、フォーカスが多少ずれます。

デフォーカス量について詳しくは「マグネフォーカス、AQP/DQPの微調整」(100ページ)をご覧ください。

**2** 全白画面が出るまでPATTERNキーを押す。

**3** 全白のユニフォーミティが悪い場合は、四隅の青のマグネフォーカスを再調整してユニフォーミティを合わせる。

ここまでの操作で全白のユニフォーミティが完全にとれている場合は、レジストレーション調整に進んでください。

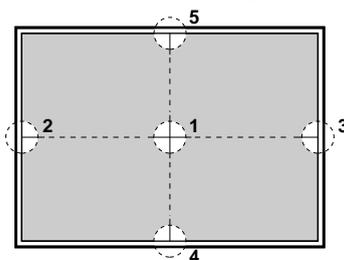
# レジストレーションを調整する

## レジストレーション調整の手順

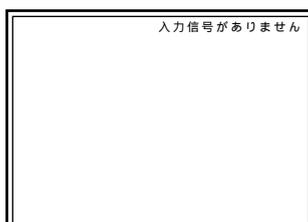
- ① スクリーンの中心を測る。(78ページ)  
↓
  - ② リモートコンマnderをサービス調整モードにする。(43ページ)  
↓
  - ③ 入力信号が接続されていない入力を選択する。(「入力信号がありません」の状態)  
(78ページ)  
↓
  - ④ 調整に使う内部発振パターンを選択する。(78ページ)  
↓
  - ⑤ レジストレーションデータをファクトリーデータリセットする。(前に調整したデータを記憶した場合のみ)(111ページ)  
↓
  - ⑥ 緑を調整する。(80～88ページ)
    - 1 CENT 調整
    - 2 SIZE、LIN 調整
    - 3 SKEW、BOW 調整
    - 4 KEY、PIN 調整
    - 5 KEY BALANCE、PIN BALANCE 調整  
↓
  - ⑦ 赤を調整する。(89～97ページ)
    - 1 CENT 調整
    - 2 SIZE、LIN 調整
    - 3 SKEW、BOW 調整
    - 4 KEY、PIN 調整
    - 5 KEY BALANCE、PIN BALANCE 調整
    - 6 ZONE 調整  
↓
  - ⑧ 青を調整する。(98ページ)
    - 1 CENT 調整
    - 2 SIZE、LIN 調整
    - 3 SKEW、BOW 調整
    - 4 KEY、PIN 調整
    - 5 KEY BALANCE、PIN BALANCE 調整
    - 6 ZONE 調整  
↓
  - ⑨ 調整したデータを標準データとして記憶させる。(99ページ)  
↓
  - ⑩ 入力信号ごとに微調整する。(100～108ページ)
    - 1 ビデオ入力信号を調整する。
    - 2 RGB入力信号を調整する。
    - 3 ホワイトバランスを調整する。  
↓
  - ⑪ リモートコンマnderをユーザーモードに戻す。(113ページ)  
↓
  - ⑫ 画質を調整する。(114ページ)  
↓
- 終了

## レジストレーション調整の準備

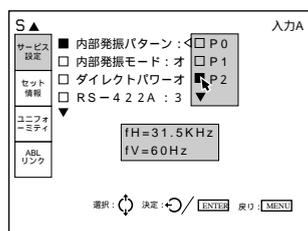
- 1 スクリーンの中心を測る。  
スクリーンを巻尺で測って中心を出します。  
ポイントとなる5か所には、白いテープを貼るなどして印を付けておくと調整がしやすくなります。(図の1~5)



- 2 リモートコンマnderをサービス調整モードにする。  
詳しくは、「リモートコンマnderの準備」(43ページ)をご覧ください。
- 3 リモートコンマnderのINPUT SELECTキーのうち入力がないキーを押して、「入力信号がありません」を表示させる。または、SWITCHER/INDEX切り換えスイッチをSWITCHERにして、1~8の番号キーのうち、入力がないキーを押す。



- 4 サービス設定メニューを表示して、「内部発振パターン」で調整したい周波数を選択する。  
詳しくは、「サービス設定メニュー」(60ページ)をご覧ください。

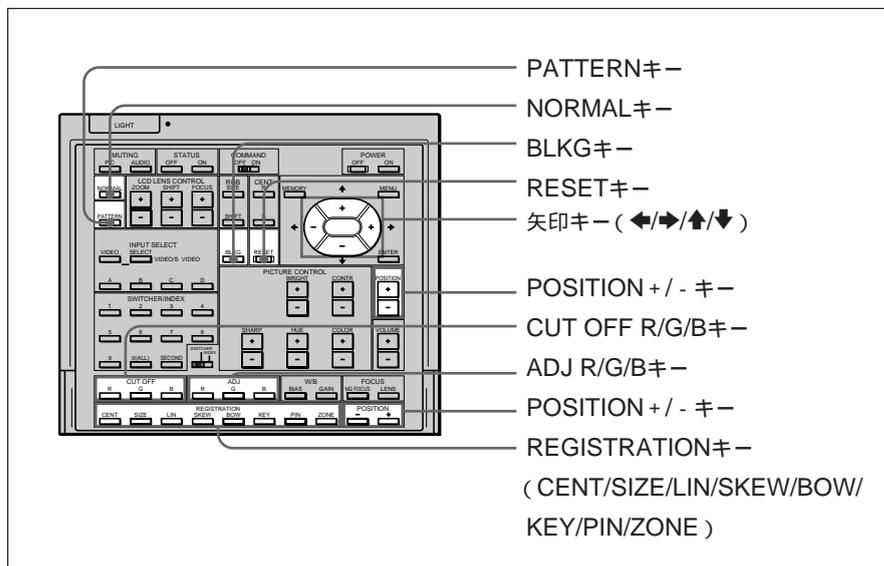


- 5 標準データをファクトリーデータリセットする。(以前にレジストレーション調整を行い、データを記憶したことがある場合のみ)  
詳しくは、「データのリセット」(111ページ)をご覧ください。

### ご注意

- スクリーン中心とクロスヘアパターンのズレは、センタリング調整で合わせてください。  
詳しくは、「緑のセンタリング (CENT) 調整」(80ページ)をご覧ください。
- 打ち込み角を小さくすると、ハッチパターンが台形になります。これはキーストーン調整で直してください。  
詳しくは、「緑のキーストーン (KEY)、ピンクッション (PIN) 調整」(85ページ)をご覧ください。

## レジストレーション調整で使用するキーについて



### REGISTRATIONキーの名称と調整項目

リモートコマンダーの表示	調整項目
CENT	センターング
SIZE	サイズ
LIN	リニアリティ
SKEW	スキュー
BOW	ボウ
KEY	キーストーン、キーストーンバランス
PIN	ピンクッション、ピンクッションバランス
ZONE	ゾーン

調整

## 緑のレジストレーションを調整する

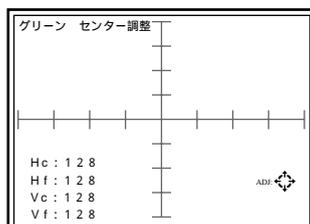
必ず緑のテストパターンから調整してください。

緑のレジストレーションを調整するときにはできるだけZONE(ゾーン)調整は行わないでください。緑のZONE補正量が大きいと、赤と青が合わなくなることがあります。

### 1 緑のセンタリング (CENT) 調整

スクリーンの中心とテストパターンの中心を合わせます。

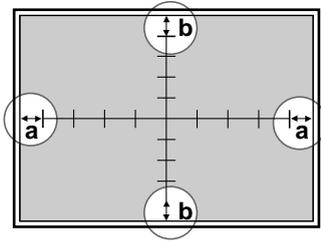
- 1 CENTキーを押す。  
クロスヘアパターンとカーソルが表示されます。
- 2 ADJ Gキーを押す。
- 3 CUT OFFキーのR、Bを押して、緑単色にする。
- 4 ←、→、↑、↓キーでスクリーンの中心とクロスヘアパターンの中心を合わせる。



#### ご注意

- センタリングが大幅にずれている場合は、プロジェクター本体の設置が正しい位置でない可能性があります。正しく設置・調整してください。
- フォーカスが上、下、左、右でずれている場合は、あおり角調整が正しく行われていない可能性があります。正しく調整してください。  
詳しくは、「緑のあおり角を調整する」(70ページ)をご覧ください。

## 2 緑のサイズ(SIZE) リニアリティ(LIN)調整

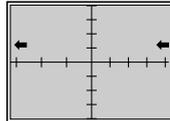


スクリーンに対する上下左右の画面サイズ(サイズ)と、上下、左右のバランス(リニアリティ)を調整します。

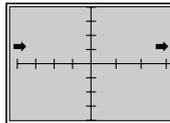
**1** LINキーを押す。  
クロスヘアパターンが表示されます。  
PATTERNキーを押して9×9ハッチパターンに変えることもできます。

**2** ADJ Gキーを押す。  
上下、左右の端(左の図の丸印のところ)のみに注目します。

**3** 左右のスクリーンの端から1本目の縦線までの距離①が等しくなるように←、→キーで調整する。



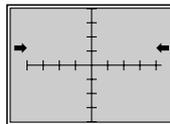
←:中心は動かず、左右が左へ移動する。



→:中心は動かず、左右が右へ移動する。

**4** SIZEキーを押す。

**5** ①が15~20mmぐらいになるように←、→キーで調整する。



←:左右が小さくなる。



→:左右に広がる。

**6** 合わない場合はLINキーを押してから手順3~5を繰り返す。

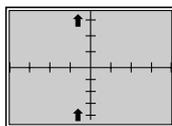
**7** センターがずれた場合は、センターを合わせ直してから手順1~6を繰り返して左右を合わせ直す。

詳しくは、「緑のセンターング(CENT)調整」(80ページ)をご覧ください。

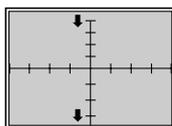
**8** LINキーを押す。

(続く)

- 9 上下のスクリーンの端から1本目の横線までの距離⑥が等しくなるように↑、↓キーで調整する。



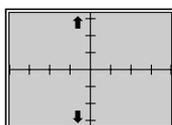
↑ : 中心は動かず、上下が上へ移動する。



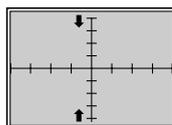
↓ : 中心は動かず、上下が下へ移動する。

- 10 SIZE キーを押す。

- 11 ⑥が15~20mmぐらいになるように↑、↓キーで調整する。



↑ : 上下に広がる。



↓ : 上下が狭まる。

- 12 合わない場合は手順8~11を繰り返す。

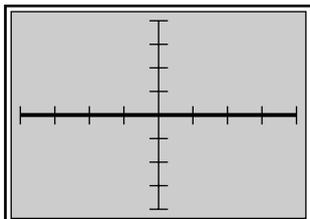
- 13 センターがずれた場合はセンターを合わせ直してから、手順8~12を繰り返して上下を合わせ直す。

詳しくは、「緑のセンタリング(CENT)調整」(80ページ)をご覧ください。



### 3 緑のスキュー (SKEW)、ボウ (BOW) 調整

クロスヘアパターンの中心の横線と縦線の弓状のゆがみ (ボウ) と線の傾き (スキュー) を調整して、スクリーンと平行な直線にします。

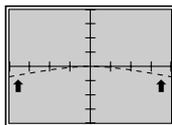


#### A 横線の調整

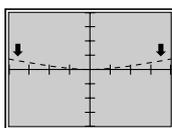
太線 (中央部の横線) のみに注目します。

- 1 BOW キーを押す。  
クロスヘアパターンが表示されます。  
PATTERN キーを押して  $9 \times 9$  ハッチパターンに変えることもできます。

- 2  $\uparrow$ 、 $\downarrow$  キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



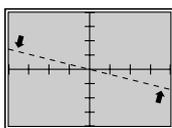
$\uparrow$  : 中心は動かず、左右が上がる。



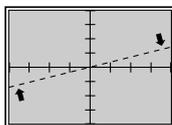
$\downarrow$  : 中心は動かず、左右が下がる。

- 3 SKEW キーを押す。

- 4  $\uparrow$ 、 $\downarrow$  キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



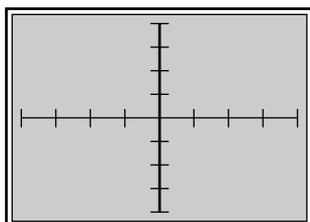
$\uparrow$  : 右側が上がり、左側が下がる。



$\downarrow$  : 右側が下がり、左側が上がる。

- 5 手順 1 ~ 4 を繰り返して横線を水平な直線にする。

調整

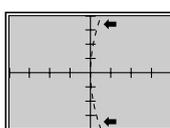


**B** 縦線の調整

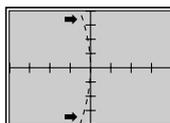
太線(中央部の縦線)のみに注目します。

- 1** BOWキーを押す。  
クロスヘアパターンが表示されます。  
PATTERNキーを押して9×9ハッチパターンに変えることもできます。

- 2** ←、→キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



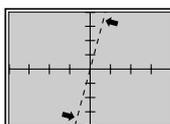
← : 中心は動かず、上下が左へ動く。



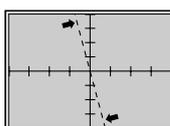
→ : 中心は動かず、上下が右へ動く。

- 3** SKEWキーを押す。

- 4** ←、→キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



← : 上部が左へ、下部が右へ倒れる。



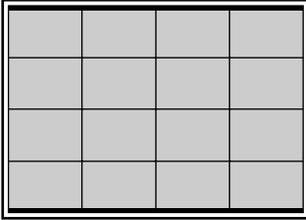
→ : 上部が右へ、下部が左へ倒れる。

- 5** 手順1~4を繰り返して縦線を垂直な直線にする。

調整

## 4 緑のキーストーン(KEY)、ピンクッション(PIN)調整

上下、左右サイドの台形状のゆがみ(キーストーン)と糸巻き状のゆがみ(ピンクッション)を調整して、横線と縦線をスクリーンと平行な直線にします。



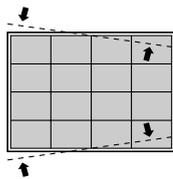
### A 横線の調整

太線(上下の端の横線)のみに注目します。

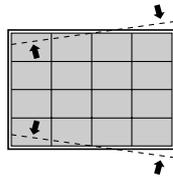
#### 1 KEYキーを押す。

ハッチパターンが表示されます。

#### 2 ↑、↓キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



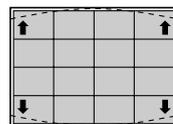
↑: 右側が広がり、左側が狭くなる。



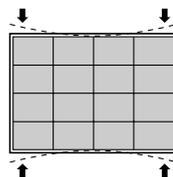
↓: 左側が広がり、右側が狭くなる。

#### 3 PINキーを押す。

#### 4 ↑、↓キーを押して下図のようなゆがみを補正する。

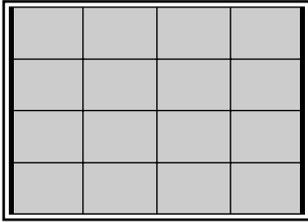


↑: 上下の横線の両端が広がる。



↓: 上下の横線の両端が狭くなる。

#### 5 手順1~4を繰り返して横線を水平な直線にする。



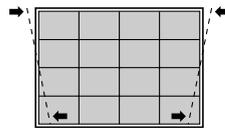
**B** 縦線の調整

太線(左右の端の縦線)のみに注目します。

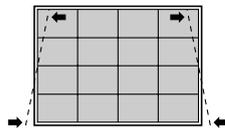
**1** KEYキーを押す。

ハッチパターンが表示されます。

**2** ←、→キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



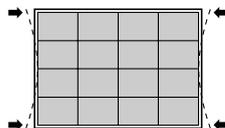
← : 下側が広がり、上側が狭くなる。



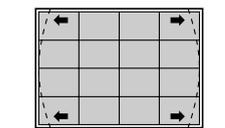
→ : 上側が広がり、下側が狭くなる。

**3** PINキーを押す。

**4** ←、→キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



← : 左右の縦線の上下が狭くなる。



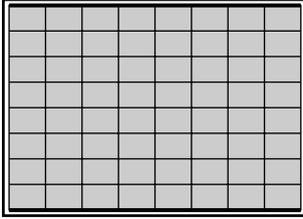
→ : 左右の縦線の上下が広がる。

**5** 手順1~4を繰り返して縦線を垂直な直線にする。

調整

## 5 緑のキーストーンバランス(KEY BALANCE) 、ピンクッションバランス(PIN BALANCE)調整

キーストーンとピンクッション調整で調整しきれなかった上下、左右のゆがみを調整します。

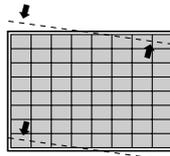


### A 横線の調整

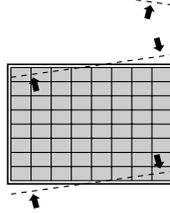
太線(上下の端の横線)のみに注目します。

**1** KEYキーを2回押す。  
9×9ハッチパターンが表示されます。

**2** ↑、↓キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



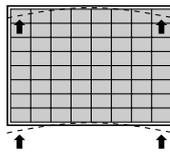
↑: 右側が上がり、左側が下がる。



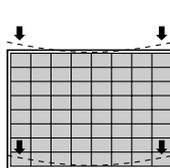
↓: 左側が上がり、右側が下がる。

**3** PINキーを2回押す。

**4** ↑、↓キーを押して下図のようなゆがみを補正する。

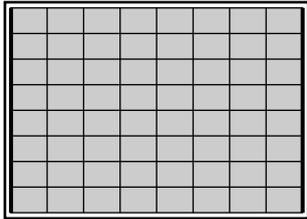


↑: 上下の横線の両端が上がる。



↓: 上下の横線の両端が下がる。

**5** 手順1～4を繰り返して横線を水平な直線にする。

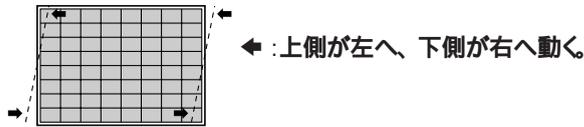


**B** 縦線の調整

太線(左右の端の縦線)のみに注目します。

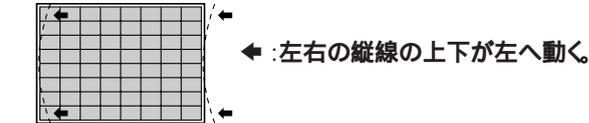
**1** KEY キーを2回押す。  
9×9ハッチパターンが表示されます。

**2** ←、→ キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



**3** PIN キーを2回押す。

**4** ←、→ キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



**5** 手順1~4を繰り返して縦線を垂直な直線にする。

**6** 調整が終了したらMEMORY キーを押す。

これで緑の調整は終了しました。  
次に、赤のテスト信号の調整に進んでください。

## 赤のレジストレーションを調整する

ここからは、赤のテスト信号の調整です。赤の信号を、先に調整した緑のテスト信号と合わせます。緑と赤が合うと黄色になります。

### ご注意

以前にレジストレーション調整を行い、データを記憶したことがある場合は、赤のセンタリングをファクトリーリセットします。

リセットのしかたは111ページをご覧ください。

## 6 赤のセンタリング (CENT) 調整

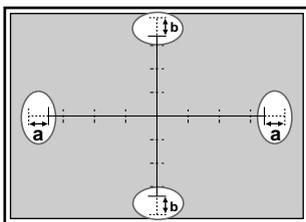
赤のクロスヘアパターンの中心を緑のクロスヘアパターンの中心と合わせます。

- 1 CENT キーを押す。  
クロスヘアパターンとカーソルが表示されます。
- 2 ADJ R キーを押す。
- 3 CUT OFF キーのBを押して青を消し、緑と赤を出す。
- 4 ←、→、↑、↓キーで赤のクロスヘアパターンの中心を緑の中心に合わせる。

### ご注意

- 緑の縦線と赤の縦線が合わない場合は、コンバー角を調整し直してください。  
詳しくは、「CRT コンバー角を調整する」(26ページ)をご覧ください。
- フォーカスが上、下、左、右でずれている場合は、あおり角調整が正しく行われていない可能性があります。正しく調整してください。  
詳しくは、「緑のあおり角を調整する」(70ページ)をご覧ください。

## 7 赤のサイズ (SIZE) 、リニアリティ (LIN) 調整



- 1 LIN キーを押す。  
クロスヘアパターンが表示されます。  
PATTERN キーを押して9×9ハッチパターンに変えることもできます。
- 2 ADJ R キーを押す。  
丸印のところのみに注目します。

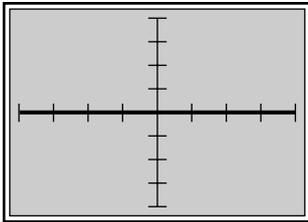
(続く)

- 3 緑に対して左右の③が等しくなるように赤を ←、→ キーで調整する。
  - ← : 中心は動かず、左右が左へ移動する。
  - : 中心は動かず、左右が右へ移動する。
- 4 SIZE キーを押す。
- 5 左右の③部の赤が緑と一致するように ←、→ キーで調整する。
  - ← : 左右が小さくなる。
  - : 左右に広がる。
- 6 合わない場合は、LIN キーを押してから手順3~5を繰り返す。
- 7 センターがずれた場合は、センターを合わせ直してから手順1~6を繰り返して左右を合わせ直す。

詳しくは、「赤のセンタリング(CENT)調整」(89ページ)をご覧ください。
- 8 LIN キーを押す。
- 9 緑に対して上下の④が等しくなるように赤を ↑、↓ キーで調整する。
  - ↑ : 中心は動かず、上下が上へ移動する。
  - ↓ : 中心は動かず、上下が下へ移動する。
- 10 SIZE キーを押す。
- 11 上下の④部の赤が緑と一致するように ↑、↓ キーで調整する。
  - ↑ : 上下が広がる。
  - ↓ : 上下が狭まる。
- 12 合わない場合は手順8~11を繰り返す。
- 13 センターがずれた場合は、センターを合わせ直してから手順8~12を繰り返して上下を合わせ直す。

詳しくは、「赤のセンタリング(CENT)調整」(89ページ)をご覧ください。

## 8 赤のスキュー (SKEW)、ボウ (BOW) 調整

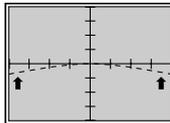


### A 横線の調整

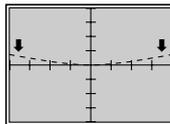
太線 (中央部の横線) のみに注目します。

- 1 BOW キーを押す。  
クロスヘアパターンが表示されます。  
PATTERN キーを押して 9 × 9 ハッチパターンに変えることもできます。

- 2 ↑、↓ キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



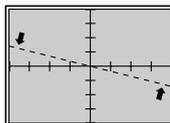
↑ : 中心は動かず、左右が上がる。



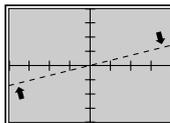
↓ : 中心は動かず、左右が下がる。

- 3 SKEW キーを押す。

- 4 ↑、↓ キーを押して下図のようなゆがみを補正する。

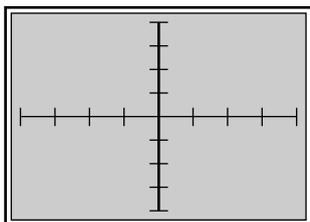


↑ : 右側が上がり、左側が下がる。



↓ : 右側が下がり、左側が上がる。

- 5 手順 1 ~ 4 を繰り返して横線を緑と合わせる。

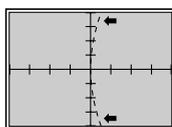


**B** 縦線の調整

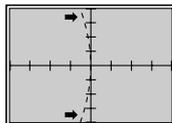
太線(中央部の縦線)のみに注目します。

- 1** BOWキーを押す。  
クロスヘアパターンが表示されます。  
PATTERNキーを押して9×9ハッチパターンに変えることもできます。

- 2** ←、→キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



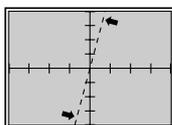
← : 中心は動かず、上下が左へ動く。



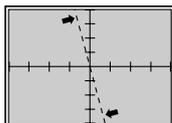
→ : 中心は動かず、上下が右へ動く。

- 3** SKEWキーを押す。

- 4** ←、→キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



← : 上部が左へ、下部が右へ倒れる。

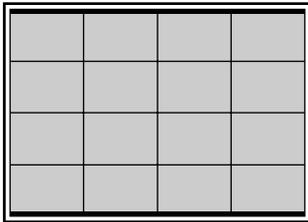


→ : 上部が右へ、下部が左へ倒れる。

- 5** 手順1～4を繰り返して縦線を緑と合わせる。

調整

## 9 赤のキーストーン (KEY) ピンクッション (PIN) 調整

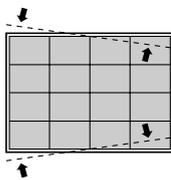


### A 横線の調整

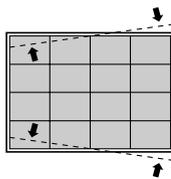
太線 (上下の端の横線) のみに注目します。

**1** KEY キーを押す。  
ハッチパターンが表示されます。

**2** ↑、↓ キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



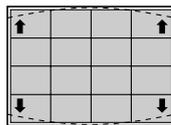
↑ : 右側が広がり、左側が狭くなる。



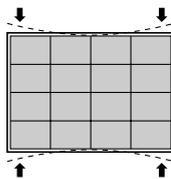
↓ : 左側が広がり、右側が狭くなる。

**3** PIN キーを押す。

**4** ↑、↓ キーを押して下図のようなゆがみを補正する。

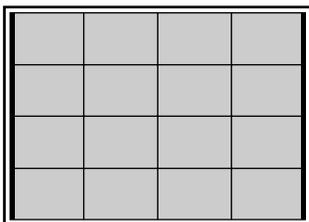


↑ : 上下の横線の両端が広がる。



↓ : 上下の横線の両端が狭くなる。

**5** 手順 1 ~ 4 を繰り返して横線を緑と合わせる。



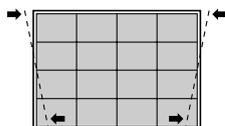
**B** 縦線の調整

太線(左右の端の縦線)のみに注目します。

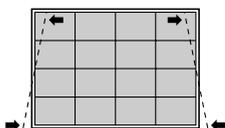
**1** KEYキーを押す。

ハッチパターンが表示されます。

**2** ←、→キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



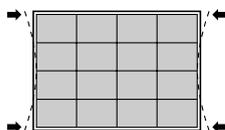
←:下側が広がり、上側が狭くなる。



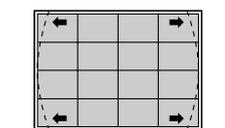
→:上側が広がり、下側が狭くなる。

**3** PINキーを押す。

**4** ←、→キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



←:左右の縦線の上下が狭くなる。



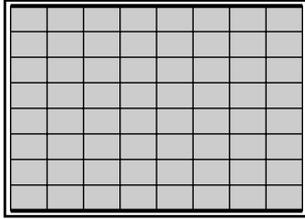
→:左右の縦線の上下が広がる。

**5** 手順1~4を繰り返して縦線を緑と合わせる。

調整

## 10 赤のキーストーンバランス(KEY BALANCE)、ピンクッションバランス(PIN BALANCE)調整

キーストーンとピンクッション調整で調整しきれなかった上下、左右のゆがみを調整します。

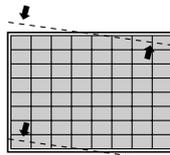


### A 横線の調整

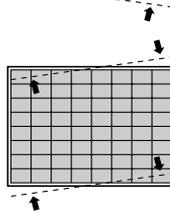
太線(上下の端の横線)のみに注目します。

**1** KEY キーを2回押す。  
9×9ハッチパターンが表示されます。

**2** ↑、↓ キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



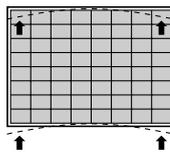
↑ : 右側が上がり、左側が下がる。



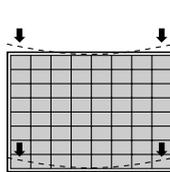
↓ : 左側が上がり、右側が下がる。

**3** PIN キーを2回押す。

**4** ↑、↓ キーを押して下図のようなゆがみを補正する。

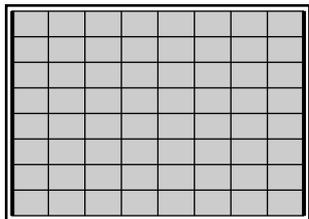


↑ : 上下の横線の両端が上がる。



↓ : 上下の横線の両端が下がる。

**5** 手順1~4を繰り返して横線を緑と合わせる。

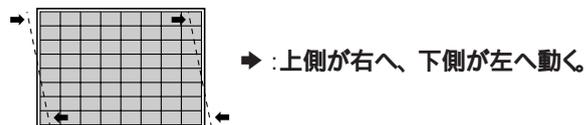
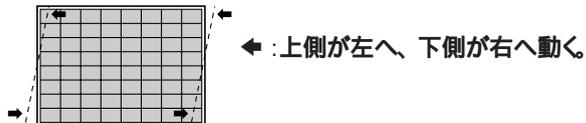


**B** 縦線の調整

太線(左右の端の縦線)のみに注目します。

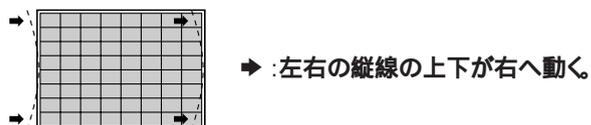
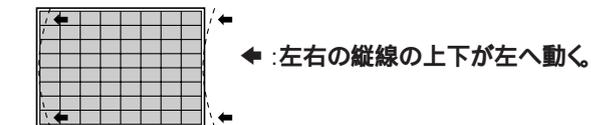
**1** KEYキーを2回押す。  
9×9ハッチパターンが表示されます。

**2** ←、→キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



**3** PINキーを2回押す。

**4** ←、→キーを押して下図のようなゆがみを補正する。



**5** 手順1～4を繰り返して縦線を緑と合わせる。

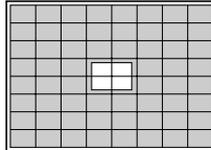
調整

## 11 赤のゾーン (ZONE) 調整

6 ~ 10 の調整で赤のテスト信号をできるだけ緑に合わせた後に、ゾーン調整を行ってください。

### 1 ZONE キーを押す。

9 × 9 ハッチパターンとカーソルが表示されます。

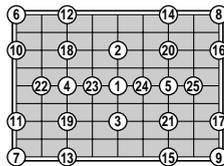


### 2 POSITION + / - キーを押して、調整したい部分を選択する。

+ : 図のように①から②⑤の番号順にカーソルが移動する。

- : + キーとは逆の順にカーソルが移動する。

画面右上に、現在カーソルのある位置の番号が表示されます。



ZONE 調整モードのときZONE キーをもう1回押すと、←、→、↑、↓ キーを使ってカーソル位置を①～②⑤の希望の位置に移動することができます。もう1回ZONE キーを押すと選んだ位置の調整モードになります。

### 3 ←、→、↑、↓ キーでカーソルの位置付近の赤い線のゆがみを調整する。

### 4 調整が終了したら、MEMORY キーを押す。

これで赤の調整は終了しました。

次に、青のテスト信号の調整に進んでください。

## 青のレジストレーションを調整する

ここからは、青のテスト信号の調整です。青の信号を、先に調整した赤のテスト信号と合わせます。青と赤が合うと、赤紫(マゼンタ)になります。

### ご注意

以前にレジストレーション調整を行い、データを記憶したことがある場合は、青のセンタリングをファクトリーリセットします。

リセットのしかたは111ページをご覧ください。

## 12 青のセンタリング(CENT)調整

青のクロスヘアパターンの中心を赤のクロスヘアパターンの中心と合わせます。

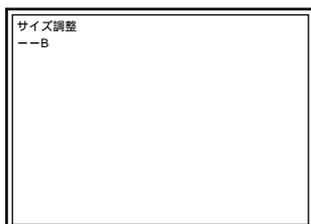
- 1 CENT キーを押す。  
クロスヘアパターンとカーソルが表示されます。
- 2 ADJ B キーを押す。
- 3 CUT OFF キーのG キーを押して緑を消し、青と赤を出す。
- 4 ←、→、↑、↓キーで青のハッチの中心を赤の中心に合わせる。

### ご注意

- 赤の縦線と青の縦線が合わない場合は、コンバー角を調整し直してください。  
詳しくは、「CRT コンバー角を調整する」(26ページ)をご覧ください。
- フォーカスが上、下、左、右でずれている場合は、あおり角調整が正しく行われていない可能性があります。正しく調整してください。  
詳しくは、「緑のあおり角を調整する」(70ページ)をご覧ください。

## 13 青のサイズ(SIZE)、リニアリティ(LIN)、スキュー(SKEW)、ボウ(BOW)、キーストーン(KEY)、ピンクッション(PIN)、キーストーンバランス(KEY BALANCE)、ピンクッションバランス(PIN BALANCE)、ゾーン(ZONE)調整

青のテスト信号が赤に合うように調整します。調整の要領は赤の調整(89~97ページ)と同じです。「- - B」(ブルー調整)の表示が出ていることを確認して調整します。



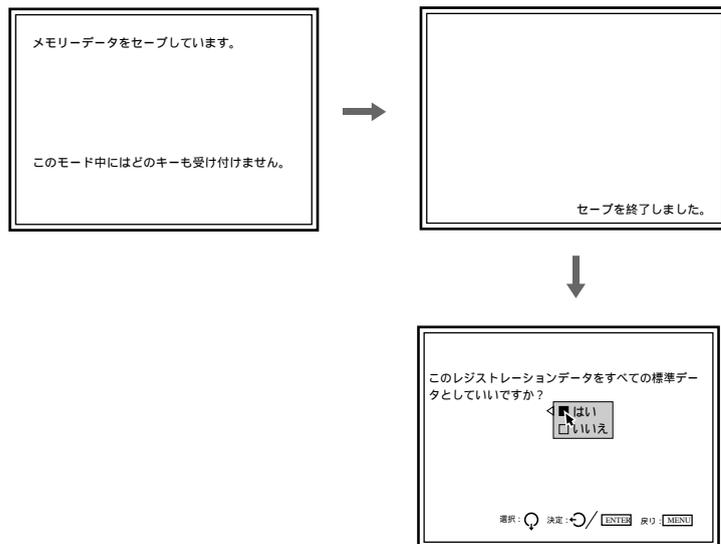
これで青の調整は終了しました。次に、調整した状態を標準データとして記憶させてください。

## 標準レジストレーションデータを記憶させる

緑、赤、青3色のレジストレーション調整が終了したら、調整したデータを標準データとして記憶させます。

### 1 MEMORY キーを5秒以上押し続ける。

サービス設定メニューの「内部発振パターン」で設定した周波数のデータとして記憶され、標準データ記憶モードになります。



### 2 ↑、↓キーで「はい」を選び、ENTERキーを押す。

レジストレーション調整に関するデータすべてが、内部信号のデータからの換算値に変わり、標準データとして記憶されます。

#### ご注意

- 記憶中はすべてのキーは働きません。
- 標準データの記憶をさせると、入力メモリのレジストレーションデータはすべて標準データに書き換えられてしまいます。

# 入力信号ごとに微調整する

入力信号なしでひと通りのレジストレーション調整を行い、標準データとして記憶させたら、次に外部信号を入力し、それぞれの信号ごとに次の手順でレジストレーションの微調整およびその他の調整を行ってください。

## ビデオ信号を接続している場合

- 1** 外部ビデオ信号を接続する。  
プロジェクターのVIDEO IN 端子、またはINPUT B に装着したシグナルインターフェイスボードにビデオ信号を接続します。
- 2** リモートコマンダーのINPUT SELECT VIDEO キーとSELECT キー、またはB キーを押して、ビデオ信号を接続した入力を選択する。
- 3** 入力情報メニューを表示して、水平周波数が 15.7 kHz になっていることを確認する。  
MENU キーを押してから、↑、↓ キーを押して「入力情報」を選び、ENTER キーを押すと、入力情報メニューが表示されます。
- 4** マグネフォーカスとAQP/DQPを調整する。  
詳しくは、「緑のマグネフォーカスとAQP/DQPを調整する」(72 ページ)をご覧ください。

## マグネフォーカス、AQP/DQPの微調整

- 1** PATTERN キーを押し、ドットパターン(9 × 9)を表示させる。
- 2** マグネフォーカス、AQP/DQP がずれていたら、微調整する。  
詳しくは、「緑のマグネフォーカスとAQP/DQPを調整する」(72 ページ)をご覧ください。
- 3** 調整が終了したら、MEMORY キーを押す。  
調整値が記憶されます。

### ご注意

- 手順3で、MEMORY キーを押し続けしないでください。

マグネフォーカス調整のデフォーカスについて

マグネフォーカス調整では、「オール」と「4PA」のデフォーカスを行うことにより、最適なユニフォーミティが得られます。本機では、ユニフォーミティを考慮して、青と赤のマグネフォーカス「オール」のデータを自動的にデフォーカスするように設計されています。デフォーカス量は、色温度と入力信号の水平周波数によって異なります。マグネフォーカス調整モードから抜けたとき、またはマグネフォーカス調整中にMG FOCUS キーをもう1回押すと、「オール」のデータに次ページの表の値が加算され、自動的にデフォーカスされます。ただし、「4PA」のデータは自動的にデフォーカスされません。ユニフォーミティを重視する場合は、「4PA」をジャストフォーカスに調整した後、次ページの表の値を引いてください。

なお、スポットフォーカスを重視する場合は、「オール」の値をジャストフォーカスに調整した後、自動的にデフォーカスされる分として、次ページの表の値をあらかじめ引いてください。

色温度が9300Kのときのマグネフォーカス「オール」

水平周波数	15.7kHz	24.8kHz	31.5kHz	48.3kHz	64.0kHz	77.1kHz	93.7kHz	106.3kHz
デフォーカス(R)	0	0	0	0	0	0	0	0
デフォーカス(G)	0	0	0	0	0	0	0	0
デフォーカス(B)	+30	+30	+15	+5	0	0	0	0

色温度が6500K/5400Kのときのマグネフォーカス「オール」

水平周波数	15.7kHz	24.8kHz	31.5kHz	48.3kHz	64.0kHz	77.1kHz	93.7kHz	106.3kHz
デフォーカス(R)	+15	+15	+10	0	0	0	0	0
デフォーカス(G)	0	0	0	0	0	0	0	0
デフォーカス(B)	+30	+30	+15	+5	0	0	0	0

色温度が3200Kのときのマグネフォーカス「オール」

水平周波数	15.7kHz	24.8kHz	31.5kHz	48.3kHz	64.0kHz	77.1kHz	93.7kHz	106.3kHz
デフォーカス(R)	+15	+15	+10	0	0	0	0	0
デフォーカス(G)	0	0	0	0	0	0	0	0
デフォーカス(B)	0	0	0	0	0	0	0	0

4PA

水平周波数	15.7kHz	24.8kHz	31.5kHz	48.3kHz	64.0kHz	77.1kHz	93.7kHz	106.3kHz
デフォーカス(R)	0	0	0	0	0	0	0	0
デフォーカス(G)	0	0	0	0	0	0	0	0
デフォーカス(B)	-30	-30	-30	-30	0	0	0	0

最適化調整の例

- 色温度：9300K、水平周波数：31.5kHz
- 青のマグネフォーカス「オール」のデータ：130
- 青の「4PA」のデータ：130

ユニフォーミティを重視するとき(デフォーカス)：ジャストフォーカスに調整した後、「4PA」のデータから上の表の値(-30)を加えた値に調整します。

$$\text{「4PA」} : 130 + (-30) = 100$$

スポットフォーカスを重視するとき：ジャストフォーカスに調整した後、「オール」のデータから上の表の値(+15)を引いた値に調整します。

$$\text{マグネフォーカス「オール」} : 130 - (+15) = 115$$

レジストレーションの微調整

- 1 PATTERN キーを押し、クロスヘアパターンを表示する。
- 2 レジストレーションがずれていたら、微調整する。  
詳しくは「レジストレーションを調整する」(80~98ページ)をご覧ください。
- 3 調整が終了したら、MEMORY キーを押してすぐ離す。  
調整値が記憶されます。

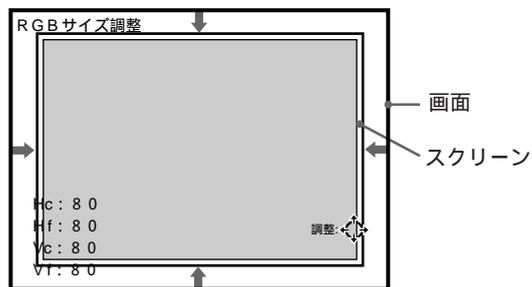
**ご注意**

手順3で、MEMORY キーを押し続けしないでください。

## 画面サイズの調整

画面の大きさがスクリーンに合っていないときに調整します。

- 1 RGB SIZE キーを押す。  
(ビデオ信号の場合もRGB SIZE キーで調整します。)
- 2 ←、→、↑、↓ キーで画面サイズを調整する。  
↑ : 上下に広がる。  
↓ : 上下に狭まる。  
→ : 左右に広がる。  
← : 左右に狭まる。

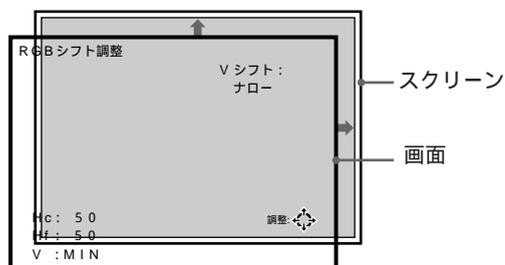


- 3 調整が終了したら、MEMORY キーを押す。  
調整値が記憶されます。

## シフト調整

画面の位置がスクリーンに合っていないときに調整します。

- 1 RGB SHIFT キーを押す。  
(ビデオ信号の場合もRGB SHIFT キーで調整します。)
- 2 ←、→、↑、↓ キーで画面の位置を調整する。  
↑ : 画面全体が上へ移動する。  
↓ : 画面全体が下へ移動する。  
← : 画面全体が左へ移動する。  
→ : 画面全体が右へ移動する。



### ご注意

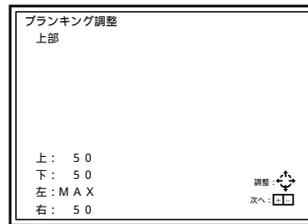
ビデオ信号入力時は、「Vシフト」が「ナロー」に固定され、上下方向の可変範囲がRGBの場合より狭くなります。

- 3 調整が終了したら、MEMORY キーを押す。  
調整値が記憶されます。

## ブランキング調整

入力信号の画像がスクリーンからはみ出す場合、余分な部分をカットします。

- 1 BLKG キーを押す。
- 2 POSITION + / - キーで調整したい部分を選択する。  
+ キーを押すたびに、「上部」→「下部」→「左部」→「右部」→「上部」...の順に変わります。- キーを押すと逆に変わります。



- 3 ←、→、↑、↓キーで調整する。  
↑、↓キー：上部、下部調整のとき  
←、→キー：左部、右部調整のとき
- 4 調整が終了したら、MEMORY キーを押す。  
調整値が記憶されます。

### ご注意

スイッチャーなどを使ってビデオ信号を2系統以上接続した場合は、入力端子ごとに画面サイズ、シフト、ブランキングの調整が必要です。

## RGB信号を接続している場合

- 1** RGB信号を接続する。  
プロジェクターのINPUT A端子、またはINPUT Bに装着したシグナルインターフェイスボードにRGB信号を接続します。
- 2** リモートコマンダーのINPUT SELECT AまたはBキーを押して、RGB信号を接続した入力を選択する。
- 3** マグネフォーカス、AQP/DQPを調整する。  
詳しくは「緑のマグネフォーカスとAQP/DQPを調整する」(72ページ)をご覧ください。
- 4** レジストレーションがずれていたら、微調整する。  
詳しくは「レジストレーションを調整する」(80~98ページ)をご覧ください。

## マグネフォーカス、AQP/DQPの微調整

- 1** PATTERNキーを押し、ドットパターン(9×9)を表示させる。
- 2** マグネフォーカス、AQP/DQPがずれていたら、微調整する。  
詳しくは「緑のマグネフォーカスとAQP/DQPを調整する」(72ページ)をご覧ください。
- 3** 調整が終了したら、MEMORYキーを押してすぐ離す。  
調整値が記憶されます。

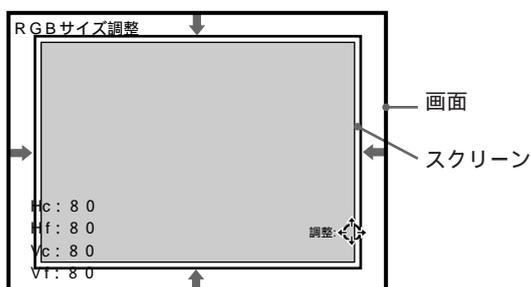
## レジストレーションの微調整

- 1** PATTERNキーを押し、クロスヘアパターンを表示する。
- 2** レジストレーションがずれていたら、微調整する。  
詳しくは「レジストレーションを調整する」(80~98ページ)をご覧ください。
- 3** 複数のRGB信号が接続されているときは、各信号ごとにレジストレーションを微調整する。
- 4** 調整が終了したら、MEMORYキーを押してすぐ離す。  
調整値が記憶されます。

## RGB画面サイズ調整

画面の大きさがスクリーンに合っていないときに調整します。

- 1 RGB SIZE キーを押す。
- 2 ←、→、↑、↓キーで画面サイズを調整する。
  - ↑：上下に広がる。
  - ↓：上下に狭まる。
  - ：左右に広がる。
  - ←：左右に狭まる。

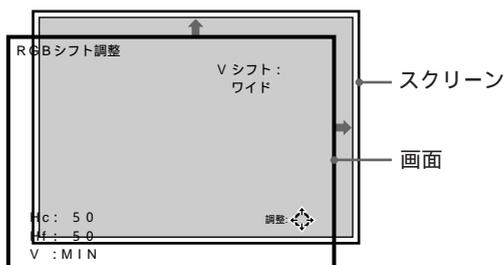


- 3 調整が終了したらMEMORYキーを押す。  
調整値が記憶されます。

## RGBシフト調整

画面の位置がスクリーンに合っていないときに調整します。

- 1 RGB SHIFT キーを押す。
- 2 POSITION + / - キーで「Vシフト」(上下方向の位置の可変範囲)を選択する。
  - ワイド：通常はこの位置にする。
  - ナロー：上下方向の可変範囲を狭くする。
- 3 ←、→、↑、↓キーで画面の位置を調整する。
  - ↑：画面全体が上へ移動する。
  - ↓：画面全体が下へ移動する。
  - ←：画面全体が左へ移動する。
  - ：画面全体が右へ移動する。

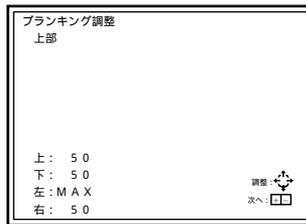


- 4 調整が終了したら、MEMORYキーを押す。  
調整値が記憶されます。

## ブランキング調整

入力信号の画像がスクリーンからはみ出す場合、余分な部分をカットします。

- 1 BLKG キーを押す。
- 2 POSITION + / - キーで調整したい部分を選択する。  
+ キーを押すたびに、「上部」→「下部」→「左部」→「右部」→「上部」...の順に変わります。 - キーを押すと逆に変わります。



- 3 ←、→、↑、↓キーで調整する。  
↑、↓キー：上部、下部調整のとき  
←、→キー：左部、右部調整のとき
- 4 調整が終了したら、MEMORY キーを押す。  
調整値が記憶されます。

### ご注意

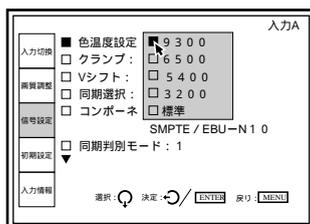
スイッチャーなどを接続して複数のRGB信号を入力している場合、入力情報メニューに表示される入力信号の状態が1項目でも異なるときは、各信号について画面サイズ、シフト、ブランキング調整が必要です。

## ホワイトバランスを調整する

このプロジェクターは、工場出荷時に、9300K、6500K、5400K および3200K の色温度が設定されており、いずれかの色温度を選択することができます。  
特定の入力信号に合わせてそれ以外の色温度にしたい場合は調整し直すことができます。また、上記設定温度を変更することもできます。

### 色温度の設定

- 1 信号設定メニューを表示させる。  
MENUキーを押してから、**↑**、**↓**キーを押して「信号設定」を選び、ENTERキーを押します。
- 2 **↑**、**↓**キーを押して「色温度設定」を選び、ENTERキーを押す。
- 3 **↑**、**↓**キーを押して、好みの色温度を選択し、ENTERキーを押す。



通常は「6500」に設定します。  
投影する画像と入力信号の種類に合わせて、色温度を選択します。

- 4 設定が終了したら、MEMORYキーを押す。  
設定値が記憶されます。

### ホワイトバランスの調整

ハイビジョン画像など特定の入力信号を、モニターと同じ色合いにしたい場合、このプロジェクターの色温度を、9300K、6500K、5400K、3200K 以外に設定することができます。  
プロジェクターとモニターに同じ信号を入力します。

黒レベルを調整する(バイアス調整)

- 1 プロジェクターの「コントラスト」の値を「80」に、「ブライテネス」の値を「50」にリセットする。  
詳しくは、「画質を調整する」(114ページ)をご覧ください。
- 2 W/B BIASキーを押す。  
ブルージュバターンが表示されます。PATTERNキーを繰り返し押して外部信号を表示させます。

- 3 ADJ R、GまたはB キーを押して黒い部分を調整する。  
映像の黒い部分に注目し、モニターの映像に比べて強いと思われる色のADJキーを押します。
- 4 ←、→ キーを押して、モニター映像の黒い部分と同じ明るさになるように調整する。  
調整がうまくいかない場合は、ADJ R、G、B キーと ←、→ キーで3色を調整し、同じ明るさにします。
- 5 MEMORY キーを押す。  
調整値が記憶されます。

白の部分を調整する(ゲイン調整)

- 1 プロジェクターの「コントラスト」の値を「80」に、「ブライテネス」の値を「50」にリセットする。  
詳しくは、「画質を調整する」(114ページ)をご覧ください。
- 2 W/B GAIN キーを押す。  
バイアス調整から連続して調整する場合は、自動的に外部信号が表示されます。  
ゲイン調整から始める場合は、ステアステップパターンが表示されますので PATTERN キーを押して外部信号を表示させます。
- 3 ADJ R、GまたはB キーを押して白い部分を調整する。  
映像の白い部分に注目し、モニター映像に比べて強いと思われる色のADJキーを押します。
- 4 ←、→ キーを押して、モニター映像の白い部分と同じ明るさになるように調整する。  
調整がうまくいかない場合は、ADJ R、G、B キーと ←、→ キーで3色を調整し、同じ明るさにします。
- 5 MEMORY キーを押す。  
調整値が記憶されます。

複数のプロジェクターを接続する場合

複数台のプロジェクターのホワイトバランスを合わせる場合は、まず、基準になるプロジェクターと調整するプロジェクターに同じ信号を入力します。「信号設定」メニューで、両方のプロジェクターの色温度を同じに設定し、上の手順のように基準のプロジェクターともう1台のプロジェクターの黒と白の部分の明るさを合わせます。

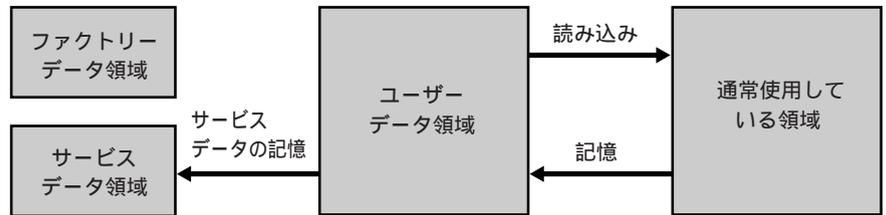
**ご注意**

- ホワイトバランス調整時は、リファレンス用に外部カラーモニターをご使用ください。
- 画面表示を消して調整しやすくしたい場合は、リモートコマンダーのSTATUS OFF キーを押すか、初期設定メニューで「画面表示」を「オフ」にしてください。
- カラー調整ができる信号を入力している場合は、カラーレベルを最小(MIN)にして、白黒画面で調整すると簡単です。

# データの記憶

## データ記憶の構造

このプロジェクターの記憶構造は、以下のように3つのデータ記憶領域と通常使用している領域の4つに分けられています。



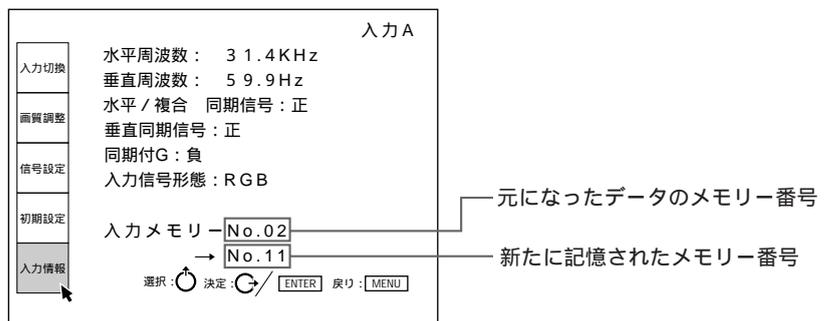
**ファクトリーデータ領域：**工場出荷時に110ページの10種類の信号の基本データが記録されています。この領域のデータの書き換えはできません。

**サービスデータ領域：**工場出荷時に110ページの10種類の信号の基本データが記録されています。サービス調整モードでサービスデータの記憶を行うことにより、ユーザーデータ領域に記録したデータに書き換えることができます。

**ユーザーデータ領域：**工場出荷時に110ページの10種類の信号の基本データが記録されています。新しい信号が入力されると、10種類の基本データまたはすでに登録済みの入力メモリのデータのうち一番近いデータが自動的に読み込まれます。1項目でもデータを調整すると、00～99のメモリ番号に新たなデータとして記憶されます。（信号を入力しただけでは記憶されません。）

入力信号の水平・垂直周波数、同期信号の状態、入力信号形態、入力端子のうちどれか1つでも異なれば、別のメモリ番号に独自の入力メモリとして記憶されます。元になったデータのメモリ番号と新たに記憶されたメモリ番号は、入力情報メニューの「入力メモリ」の項に表示されます。

すでに登録済みの信号が再入力された場合は、上下とも同じメモリ番号が表示されます。



**通常使用している領域：**調整中のデータを一時的に保持しています。

調整後にENTERキーを押したり、MEMORYキーを押すことにより、ユーザーデータ領域に記憶されます。

標準レジストレーションデータの記憶と入力メモリ

プロジェクター設置後、標準レジストレーションデータとして記憶させると、他の入力メモリにもその設置条件のレジストレーションデータが反映されます。これにより、その後の入力信号ごとの調整がしやすくなります。

標準レジストレーションデータの記憶のしかたは、99ページをご覧ください。

工場出荷時のプリセットデータ

ファクトリーデータ領域とサービスデータ領域には、工場出荷時、メモリー番号00～09に10種類の信号の基本データが記録されています。

メモリー番号	水平周波数 (fH)	垂直周波数 (fV)	入力信号形態
00	15.7 kHz	60 Hz	ビデオ (NTSC <sub>3.58</sub> )
01	24.8 kHz	56 Hz	RGB
02	31.5 kHz	60 Hz	RGB
03	48.3 kHz	60 Hz	RGB
04	64.0 kHz	60 Hz	RGB
05	75.0 kHz	60 Hz	RGB
06	93.7 kHz	75 Hz	RGB
07	106.3 kHz	85 Hz	RGB
08	31.5 kHz	60 Hz	内蔵倍速信号 (NTSC <sub>3.58</sub> )
09	33.8 kHz	60 Hz	HDTV (Y/P <sub>B</sub> /P <sub>R</sub> )

記憶データの種類

3つのデータ記憶領域には以下の内容が記憶されます。

メモリー	データの種類	メモリーの数
入力メモリー	画質調整データ(コントラスト、ブライトネス、色の濃さ、色合い、シャープネス) サイズ、シフトデータ プランキングデータ 色温度設定 クランプパルス位置 垂直シフト レジストレーションデータ マグネフォーカス、AQP/DQPデータ	メモリー番号00～99 (最高100種類)
色温度メモリー	ホワイトバランスデータ(各スクリーンの色温度ごとのバイアス、ゲインデータ)	色温度ごと (9300K、6500K、 5400K、3200Kの4種類)
セットメモリー	ボーレート、CRT使用時間、画面表示オン/オフ、表示言語、インデックス、ブライトネス/カラーユニフォーミティ、ビデオメモリーなどのデータ	プロジェクター1台につき1種類

# データのリセット

本機のデータのリセットには、次の3種類があります。

ファクトリーデータリセット

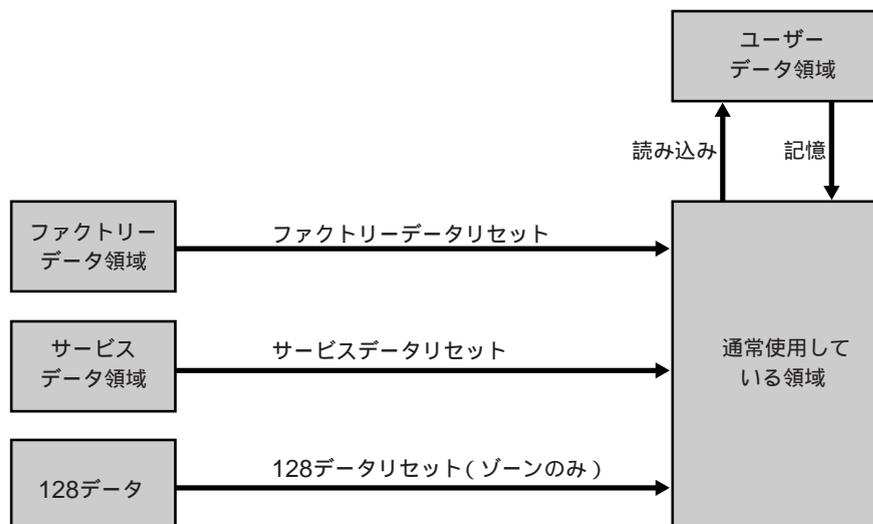
ファクトリーデータ領域に記憶されている工場出荷時のデータに戻します。

サービスデータリセット

サービスデータ領域に記憶されているデータに戻します。

128データリセット

ゾーン調整値を128に戻します。

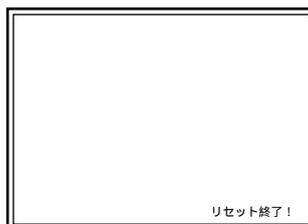


## データをリセットする

- 1 リセットしたい調整モードを選択する。
- 2 RESETキーを押す。  
次の画面が表示されます。(例：赤のレジストレーションデータをファクトリーデータリセットする場合)



- 3 ↑、↓キーでリセットモードを選び、ENTERキーを押す。  
リセットを中止するときは、NORMALキーを押してリセットモードを抜けます。



赤のレジストレーションデータが工場出荷時のデータにリセットされます。

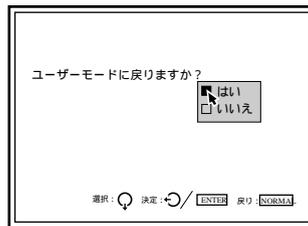
# 調整した設定を誤操作から保護する

通常、調整が終わってリモートコマンダーで電源を切ると、ユーザーによる誤動作を防ぐため、プロテクトがかかり、サービス用調整キーを押しても働かなくなります（ユーザーモード）。ただし、次の操作を行うと、電源を切る前でもユーザーモードに戻すことができます。

## 1 以下の順にキーを押す。

ENTER キー → ENTER キー → ↑ キー → ↓ キー → ENTER キー

次の画面が表示されます。



## 2 ↑、↓ キーを押して「はい」を選び、ENTER キーを押す。

これでリモートコマンダーがユーザーモードに戻り、サービス用調整キーが動かなくなります。

# 画質を調整する

投影した画像を好みの画質に調整します。調整値を記憶しておくこともできます。

## 1 PICTURE CONTROL キーの各 + / - キーを押して調整する。

BRIGHT	ブライトネス(明るさ)
CONTR	コントラスト
COLOR	色の濃さ
HUE	色合い
SHARP	シャープネス

調整値は、MIN、1、2...98、99、MAX で表示されます。



## 2 調整が終了したら、MEMORY キーを押す。

ダイナミックピクチャーモード(ビデオ信号とコンポーネント信号入力時のみ)画質調整メニューの「D.ピクチャー」を「オン」に設定すると、メリハリのあるコントラストの高い映像がご覧になれます。

詳しくは、「画質調整メニュー」(51ページ)をご覧ください。

標準の画質に戻すには

## 1 標準値に戻したい項目のPICTURE CONTROL キーを押す。

## 2 RESET キーを押す。 選ばれている項目だけが標準値に戻ります。

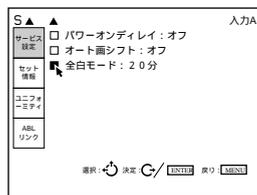
### ご注意

- 入力信号がRGBの場合、「色の濃さ」、「色合い」、「シャープネス」を調整することはできません。
- 入力信号が白黒の場合、「色の濃さ」と「色合い」を調整することはできません。
- PALまたはSECAM方式の入力信号の場合、「色合い」を調整することはできません。

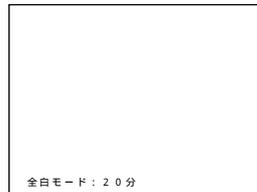
# ウォーミングアップ時間を変更する

電源を入れた後のウォーミングアップ時間を、設定することができます。ウォーミングアップ中、スクリーンには全白が表示されます。

- 1 リモートコンマnderをサービス調整モードにする。  
詳しくは「リモートコンマnderの準備」(43ページ)をご覧ください。
- 2 サービス設定メニューを表示する。  
MENU キーを押しながら、↑、↓キーを押して「サービス設定」を選び、ENTER キーを押します。
- 3 ↑、↓キーを押して「全白モード」(2ページ目)を選び、ENTER キーを押す。



- 4 ↑/↓または←/→キーを押して希望の時間を選ぶ。  
0～99分に設定できます。



- 5 MEMORY キーを押して記憶させる。

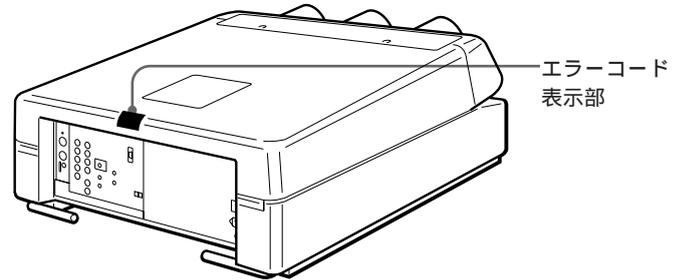
ウォーミングアップ時間の変更をやめるとき  
手順3でMENUキーを押します。

電源を入れたとき、接続している機器の入力信号がすぐに映るようするには  
手順4で0分に設定します。

# エラーコード

動作上のトラブル(エラー)が発生すると、自動的にプロジェクター本体の電源が切れて、本体内部のエラーコード表示部にエラーコードが表示されます。エラーコードは本体を開けることなく確認することができます。

それぞれのエラーコードの示す内容は、下の表のとおりです。

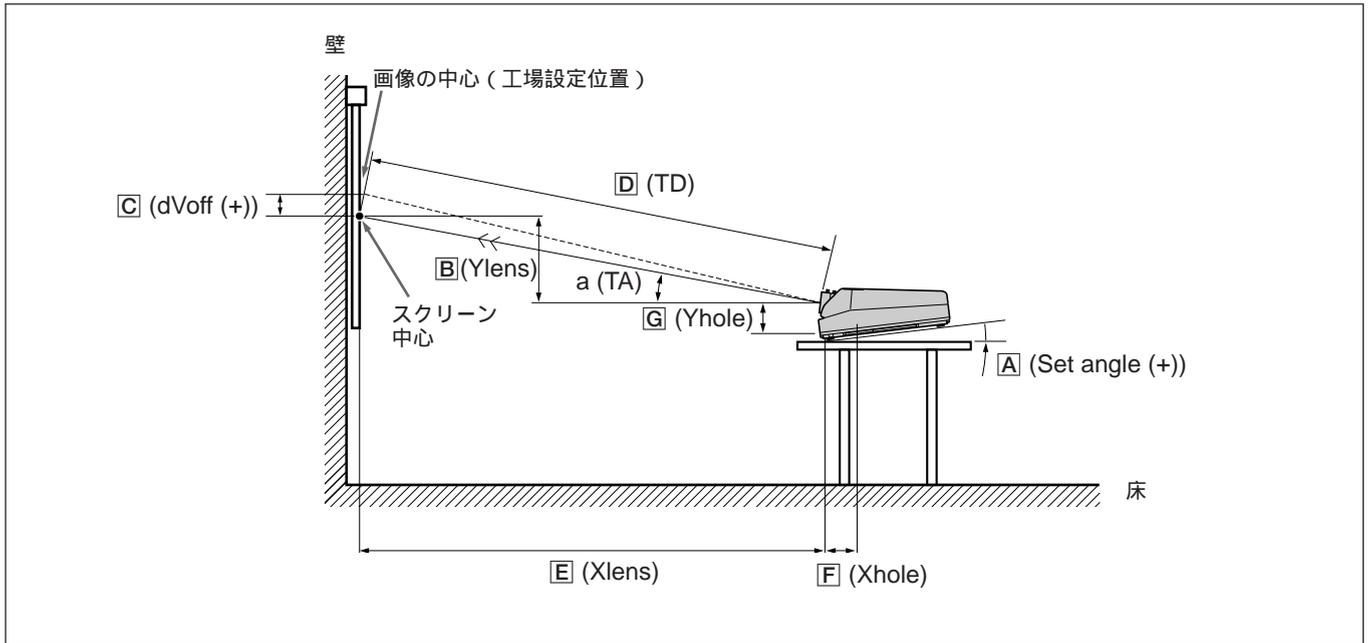


エラーコード	項目	内容
10	----	入力信号が異常です(入力信号を確認してください)
20	Unknown	以下のエラーに該当しない異常です
21	POW1 (115HV)	115 V(HV)ラインが異常です
22	POW2 (115DEF)	115 Vラインが異常です
23	POW3 (50)	50 Vラインが異常です
24	POW4 (15)	15 Vラインが異常です
25	IFB	INPUT Bに装着してあるインターフェースボードが異常です
26	LENS	レンズが外れています
27	POLARITY	極性切り換えのコネクターカバーが完全に閉じていません
29	B	B基板の電源ラインが異常です
30	DC	DC基板の電源ラインが異常です
31	EB	EB基板の電源ラインが異常です
32	EC	EC基板の電源ラインが異常です
33	HV	高圧が異常です
34	LOT	PA基板のLOTの負荷が異常です
35	H.STOP	水平偏向をしていません
36	V.STOP	垂直偏向をしていません
37	FAN	ファンが止まっています
38	CRT	R、G、B、いずれかのCRTで電流が規格をオーバーしています(C基板で検出)
39	Ik	R、G、B、いずれかのCRTで電流が規格をオーバーしています(B基板で検出)
40	Ik	CRTに異常が発生しています
88	CPU RESET	YA、YB、YC基板のCPUがリセットされています

## ご注意

- エラーコードが表示された場合、それまでに行った調整のデータが失われることがあります。
- MAIN POWER スイッチをOFFにして電源コードを抜くと、エラーコードは消灯します。
- 動作エラーが正常に回復しないと、再び電源を入れたときにエラーコードが点灯します。
- MAIN POWER スイッチをONにした直後、約1秒間「88」が表示されますが、故障ではありません。これは、CPUを初期状態に戻すために必要なリセットを行っているためです。

# 打ち込み角に対する投射距離一覧表



単位: mm ( [F] Xhole値と [G] Yhole値のみ)

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
[B] / [E]	0.2718	0.2493	0.2309	0.2126	0.1944	0.1763	0.1584	0.1405	0.1228	0.1051	0.0875	0.0699	0.0524	0.0349	0.0174	0.0000	-0.0175	-0.0349
[A] Angle	0.0°	1.0°	1.8°	2.7°	3.5°	4.3°	5.2°	6.0°	6.8°	7.6°	8.6°	9.6°	10.6°	11.6°	12.6°	13.6°	14.6°	15.6°
[F] Xhole	220	225	228	232	235	239	242	246	249	262	256	260	264	267	271	274	278	281
[G] Yhole	257	253	250	246	243	239	236	232	229	225	221	216	212	207	203	198	193	188

## 60インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
[E] Xlens	1668	1673	1678	1683	1687	1691	1694	1697	1700	1702	1704	1708	1719	1728	1737	1747	1753	1757
[B] Ylens	450	417	387	358	328	298	268	239	209	179	149	119	90	60	30	0	-31	-61
[D] TD	1727	1724	1722	1720	1718	1717	1715	1714	1713	1712	1711	1712	1721	1729	1737	1747	1754	1758
[C] dVoff	0	6	11	16	21	26	30	36	41	45	46	46	46	46	47	47	47	47

## 70インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
[E] Xlens	1921	1927	1933	1938	1943	1947	1951	1955	1958	1961	1963	1967	1980	1991	2001	2012	2019	2024
[B] Ylens	519	481	446	412	378	343	309	275	240	206	172	138	104	70	35	0	-35	-71
[D] TD	1990	1986	1984	1982	1979	1977	1976	1974	1973	1971	1971	1972	1983	1992	2001	2012	2020	2025
[C] dVoff	0	7	13	19	24	30	36	42	47	53	54	54	54	54	54	54	54	55

その他

## 打ち込み角に対する投射距離一覧表

### 80インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	2177	2185	2191	2197	2203	2207	2212	2216	2219	2222	2225	2230	2244	2257	2268	2281	2289	2294
<b>B</b> Ylens	590	545	506	467	428	389	350	311	273	234	195	156	118	79	40	0	-40	-80
<b>D</b> TD	2256	2252	2249	2246	2244	2242	2240	2238	2236	2235	2234	2235	2248	2258	2268	2281	2289	2295
<b>C</b> dVoff	0	8	15	21	28	34	41	48	54	61	61	61	61	62	62	62	62	62

### 90インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	2434	2442	2450	2456	2462	2468	942	2477	2481	2484	2488	2492	2509	2522	2535	2549	2559	2564
<b>B</b> Ylens	660	609	566	522	479	435	2319	348	305	261	218	174	131	88	44	0	-45	-90
<b>D</b> TD	2522	2517	2514	2511	2508	2506	2503	2501	2500	2498	2497	2498	2512	2524	2536	2549	2559	2566
<b>C</b> dVoff	0	9	17	24	31	39	46	53	61	68	69	69	69	69	70	70	70	70

### 100インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	2689	2699	2707	2714	2721	2727	2733	2737	2742	2745	2749	2754	2773	2788	2802	2817	2828	2834
<b>B</b> Ylens	730	673	625	577	529	481	433	385	337	289	241	193	145	97	49	0	-49	-99
<b>D</b> TD	2787	2782	2778	2775	2772	2769	2767	2764	2762	2761	2760	2761	2776	2789	2802	2817	2828	2835
<b>C</b> dVoff	0	10	19	26	35	43	51	59	67	76	77	77	77	77	78	78	78	78

### 110インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	2945	2956	2964	2972	2979	2986	2992	2997	3002	3006	3010	3016	3036	3052	3068	3085	3096	3102
<b>B</b> Ylens	800	737	684	632	579	526	474	421	369	316	263	211	159	107	54	0	-54	-108
<b>D</b> TD	3051	3046	3042	3038	3035	3032	3029	3027	3024	3022	3021	3023	3040	3054	3068	3085	3096	3104
<b>C</b> dVoff	0	11	20	29	38	47	56	65	74	83	84	84	84	85	85	85	86	86

### 120インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	3200	3212	3221	3230	3237	3245	3251	3257	3262	3266	3271	3277	3299	3317	3333	3352	3364	3371
<b>B</b> Ylens	870	801	744	686	629	572	515	458	401	343	286	229	173	116	58	0	-59	-118
<b>D</b> TD	3316	3310	3306	3302	3298	3295	3292	3289	3286	3284	3283	3285	3303	3319	3334	3352	3365	3373
<b>C</b> dVoff	0	12	22	32	42	52	61	71	81	91	92	92	92	92	93	93	93	94

### 130インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	3457	3470	3480	3490	3498	3506	3513	3519	3525	3529	3534	3541	3564	3583	3602	3622	3635	3642
<b>B</b> Ylens	940	865	803	742	680	618	556	495	433	371	309	248	187	125	63	0	-63	-127
<b>D</b> TD	3583	3577	3572	3568	3563	3560	3557	3554	3551	3549	3548	3549	3569	3586	3602	3622	3635	3645
<b>C</b> dVoff	0	13	24	34	45	56	66	77	88	98	99	99	100	100	101	101	101	101

### 140インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	3715	3729	3740	3750	3759	3767	3774	3781	3787	3792	3797	3804	3830	3850	3870	3891	3906	3914
<b>B</b> Ylens	1010	930	863	797	731	664	598	531	465	399	332	266	201	134	68	0	-68	-137
<b>D</b> TD	3850	3843	3838	3833	3829	3825	3822	3818	3815	3813	3812	3814	3835	3853	3871	3891	3906	3916
<b>C</b> dVoff	0	14	26	37	48	60	71	83	94	106	107	107	107	108	108	108	109	109

### 150インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	3972	3987	3999	4009	4019	4028	4036	4043	4050	4055	4060	4068	4095	4117	4138	4161	4176	4185
<b>B</b> Ylens	1081	994	923	852	781	710	639	568	497	426	355	284	215	144	72	0	-73	-146
<b>D</b> TD	4117	4109	4104	4099	4094	4090	4086	4083	4080	4077	4076	4078	4101	4120	4139	4161	4177	4188
<b>C</b> dVoff	0	15	28	40	52	64	76	89	101	113	115	115	115	115	116	116	117	117

### 160インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	4229	4245	4258	4269	4279	4289	4297	4305	4312	4317	4323	4331	4360	4384	4406	4431	4447	4456
<b>B</b> Ylens	1151	1059	983	907	832	756	681	605	529	454	378	303	229	153	77	0	-78	-156
<b>D</b> TD	4383	4375	4370	4364	4359	4355	4351	4347	4344	4341	4340	4342	4366	4386	4407	4431	4447	4459
<b>C</b> dVoff	0	16	30	42	55	69	81	95	108	121	122	122	123	123	124	124	124	125

### 170インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	4486	4504	4516	4528	4539	4549	4559	4567	4574	4580	4586	4595	4625	4650	4674	4700	4717	4727
<b>B</b> Ylens	1221	1123	1043	963	882	802	722	642	562	481	401	321	242	162	82	0	-82	-165
<b>D</b> TD	4650	4641	4635	4630	4624	4620	4615	4611	4608	4605	4604	4606	4631	4653	4675	4700	4718	4730
<b>C</b> dVoff	0	17	32	45	59	73	86	101	114	129	130	130	130	131	131	132	132	132

### 180インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	4743	4762	4775	4788	4800	4810	4820	4828	4836	4842	4849	4858	4890	4917	4942	4969	4987	4997
<b>B</b> Ylens	1292	1187	1102	1018	933	848	763	679	594	509	424	340	256	172	86	0	-87	-175
<b>D</b> TD	4916	4907	4901	4895	4889	4884	4880	4876	4872	4869	4867	4870	4897	4920	4942	4969	4988	5001
<b>C</b> dVoff	0	18	33	47	62	77	91	107	121	136	137	137	138	138	139	139	140	140

### 190インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	4999	5018	5033	5046	5058	5069	5079	5088	5096	5103	5110	5120	5153	5181	5208	5237	5256	5267
<b>B</b> Ylens	1362	1251	1162	1073	983	894	805	715	626	536	447	358	270	181	91	0	-92	-184
<b>D</b> TD	5181	5172	5165	5159	5153	5147	5143	5138	5135	5131	5130	5132	5161	5185	5209	5237	5257	5270
<b>C</b> dVoff	0	19	35	50	66	82	96	113	128	144	145	145	146	146	147	147	148	148

その他

## 打ち込み角に対する投射距離一覧表

### 200インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	5254	5275	5290	5304	5317	5328	5339	5348	5357	5364	5371	5381	5417	5446	5474	5504	5524	5536
<b>B</b> Ylens	1432	1315	1221	1127	1033	940	846	752	658	564	470	376	284	190	96	0	-96	-193
<b>D</b> TD	5446	5436	5429	5422	5416	5411	5406	5401	5397	5394	5392	5394	5424	5450	5475	5504	5525	5539
<b>C</b> dVoff	0	21	37	53	69	86	101	119	135	152	153	153	154	154	155	155	156	156

### 210インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	5511	5533	5549	5563	5577	5589	5600	5610	5619	5626	5634	5644	5682	5713	5742	5774	5794	5807
<b>B</b> Ylens	1502	1380	1281	1183	1084	986	887	788	690	591	493	395	298	199	100	0	-101	-203
<b>D</b> TD	5713	5702	5695	5688	5681	5675	5670	5665	5661	5657	5655	5658	5690	5716	5743	5774	5795	5810
<b>C</b> dVoff	0	22	39	55	73	90	107	125	142	159	161	160	161	162	163	163	163	164

### 220インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	5768	5791	5807	5823	5837	5850	5861	5872	5881	5889	5897	5908	5947	5979	6009	6043	6065	6077
<b>B</b> Ylens	1573	1444	1341	1238	1135	1031	928	825	722	619	516	413	312	209	105	0	-106	-212
<b>D</b> TD	5979	5968	5960	5953	5946	5940	5934	5929	5925	5921	5919	5922	5955	5983	6010	6043	6066	6081
<b>C</b> dVoff	0	23	41	58	76	94	112	131	148	167	168	168	169	169	170	170	171	171

### 230インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	6025	6049	6066	6082	6097	6110	6122	6133	6143	6151	6159	6171	6212	6245	6277	6312	6335	6348
<b>B</b> Ylens	1643	1508	1401	1293	1185	1077	970	862	754	647	539	432	326	218	110	0	-111	-222
<b>D</b> TD	6245	6234	6226	6218	6211	6205	6199	6193	6189	6185	6183	6186	6220	6249	6278	6312	6336	6352
<b>C</b> dVoff	0	24	43	61	80	99	117	136	155	174	176	176	176	177	178	178	179	179

### 240インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	6282	6307	6325	6342	6357	6371	6384	6395	6405	6413	6422	6434	6477	6512	6545	6581	6605	6619
<b>B</b> Ylens	1713	1573	1460	1348	1236	1123	1011	899	786	674	562	450	339	227	114	0	-115	-231
<b>D</b> TD	6512	6500	6491	6483	6476	6469	6463	6458	6453	6449	6446	6450	6485	6516	6546	6581	6606	6623
<b>C</b> dVoff	0	25	45	63	83	103	122	142	162	182	184	183	184	185	186	186	187	187

### 250インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	6539	6565	6584	6601	6617	6631	6645	6656	6667	6676	6685	6697	6741	6778	6812	6850	6875	6889
<b>B</b> Ylens	1783	1637	1520	1403	1286	1169	1052	936	819	702	585	468	353	237	119	0	-120	-241
<b>D</b> TD	6778	6766	6757	6749	6741	6734	6728	6722	6717	6713	6710	6714	6751	6782	6814	6850	6876	6894
<b>C</b> dVoff	0	26	46	66	86	107	127	148	169	189	191	191	192	192	194	194	194	195

### 260インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	6798	6824	6844	6862	6878	6893	6907	6919	6930	6939	6949	6962	7008	7046	7082	7121	7147	7162
<b>B</b> Ylens	1854	1702	1580	1459	1337	1216	1094	972	851	729	608	487	367	246	124	0	-125	-250
<b>D</b> TD	7046	7033	7024	7015	7007	7000	6993	6987	6982	6978	6975	6979	7017	7050	7083	7121	7148	7166
<b>C</b> dVoff	0	27	48	68	90	112	132	154	175	197	199	198	199	200	201	201	202	202

### 270インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	7056	7083	7104	7123	7140	7155	7170	7182	7193	7203	7213	7226	7274	7313	7351	7392	7418	7434
<b>B</b> Ylens	1924	1766	1640	1514	1388	1262	1136	1009	883	757	631	505	381	255	128	0	-129	-260
<b>D</b> TD	7314	7300	7291	7282	7273	7266	7259	7253	7247	7243	7240	7244	7284	7318	7352	7392	7419	7438
<b>C</b> dVoff	0	28	50	71	93	116	137	160	182	204	206	206	207	207	209	209	210	210

### 280インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	7314	7343	7364	7383	7401	7417	7432	7445	7457	7467	7477	7491	7540	7581	7620	7662	7690	7706
<b>B</b> Ylens	1995	1831	1700	1569	1439	1308	1177	1046	916	785	654	524	395	265	133	0	-134	-269
<b>D</b> TD	7581	7568	7557	7548	7540	7532	7525	7518	7513	7508	7505	7509	7551	7586	7621	7662	7691	7711
<b>C</b> dVoff	0	29	52	74	97	120	142	166	188	212	214	213	214	215	216	216	217	218

### 290インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	7573	7602	7624	7644	7662	7679	7695	7708	7720	7731	7741	7755	7807	7849	7889	7933	7961	7978
<b>B</b> Ylens	2065	1895	1760	1625	1489	1354	1219	1083	948	813	677	542	409	274	138	0	-139	-279
<b>D</b> TD	7849	7835	7824	7815	7806	7798	7791	7784	7778	7773	7770	7774	7817	7854	7890	7933	7963	7983
<b>C</b> dVoff	0	30	54	76	100	124	147	172	195	219	221	221	222	223	224	224	225	225

### 300インチスクリーン使用時

単位: mm

a TA (deg)	15.2°	14°	13°	12°	11°	10°	9°	8°	7°	6°	5°	4°	3°	2°	1°	0°	-1°	-2°
<b>E</b> Xlens	7831	7861	7884	7905	7924	7941	7957	7971	7983	7994	8005	8020	8073	8117	8158	8203	8233	8250
<b>B</b> Ylens	2135	1960	1820	1680	1540	1400	1260	1120	980	840	700	561	423	283	142	0	-144	-288
<b>D</b> TD	8117	8102	8091	8081	8072	8064	8056	8049	8043	8038	8035	8040	8084	8122	8159	8203	8234	8255
<b>C</b> dVoff	0	31	55	79	103	128	152	177	202	226	229	228	229	230	232	232	232	233

その他

# 索引

## 五十音順

### あ行

あおり角調整	70、74、75
アジャスター	11
「色温度設定」	53
色温度の設定	107
「インデックス」	58
ウォーミングアップ画面	42
ウォーミングアップ時間の変更	115
打ち込み角	
打ち込み角に対する投射距離一覧表	117
打ち込み角とは	18
打ち込み角の可変範囲(リア投影時)	19
「映像ミュート」	56
エラーコード	116
「オート画シフト」	61
オプションメニュー	63

### か行

各部の名称と働き	
コネクター部	28
リモートコマンダーのキー	46
画質調整メニュー	51
画質の調整	114
カバー	
カバーをあけたときの寸法	12
コネクターカバー	24
上部カバーのあけかた	22
前部、後部カバーの取り外しかた	23
「画面表示」	56
「カラー方式」	52
「カラーユニフォーミティ」	62
乾電池についてのご注意	45
キーストーン (KEY) 調整	85、93、98
キーストーンバランス	
(KEY BALANCE) 調整	87、95、98
極性	
極性コネクター	24
極性スイッチ	24
極性と画面の映りかた	25
極性の変更	24
「クランプ」	53
クランプ位置の設定	53
黒レベルの調整(バイアス調整)	107
ゲイン調整	108
工具(付属)	22
コネクター部の名称と働き	28
「コンポーネントフォーマット」	54
「5BNCモード」	58

### さ行

サイズ (SIZE) 調整	81、89、98
サービス設定メニュー	60
「サブコントラスト」	63
シグナルインターフェーススイッチャー	
PC-1271J	33
シグナルインターフェースボード	
IFB-40	28、33
シグナルインターフェースユニット	
IFU-1271J	32
白の部分の調整(ゲイン調整)	108
初期設定メニュー	56
「周波数感度」	59
信号設定メニュー	53
「スイッチャー」	50
スキュー (SKEW) 調整	83、91、98
スクリーン	
スクリーンサイズ	20
スクリーンの種類	21
横縦比3:4以外のスクリーン使用時	20
「スクリーン選択」	57
接続	
シグナルインターフェース	
スイッチャーを使用する	33
直接、映像機器を接続する	32
複数のプロジェクターを接続する	37
リモコンをプロジェクターに接続する	45
「セットアップ」	52
設置	
スクリーンサイズによる設置寸法の	
求めかた	15
手順	9
天井つり、フロント投影	16
床置き、フロント投影	14
床置き、リア投影	18
設置基準穴	11、12
「節電モード」	57
セット情報メニュー	61
「全白モード」	61
セントラリング (CENT) 調整	
青のセントラリング調整	98
赤のセントラリング調整	89
緑のセントラリング調整	80
ゾーン (ZONE) 調整	97

### た行

ダイナミックピクチャー	114
「ダイレクトパワーオン」	60
調整	
あおり角	70、74、75
AQP/DQP	72、74、75

画質	114
画面サイズ	102、105
画面の輝度(クランプ位置の設定)	53
キーストーン (KEY)	85、93、98
キーストーンバランス	
(KEY BALANCE)	87、95、98
サイズ (SIZE)	81、89、98
CRTコンバー角	26
スキュー (SKEW)	83、91、98
全白のユニフォーミティ	76
セントラリング (CENT)	80、89、98
ゾーン (ZONE)	97
手順	42
入力信号ごとの微調整	100
バイアス	107
ピンクッション (PIN)	85、93、98
ピンクッションバランス	
(PIN BALANCE)	87、95、98
フォーカス	67
ブランキング	103、106
ボウ (BOW)	83、91、98
ホワイトバランス	107
マグネフォーカス	72、74、75
マグネフォーカス、AQP/DQPの	
微調整	100、104
リニアリティ (LIN)	81、89、98
レジストレーション	77
レジストレーションの微調整	101、104
レンズフォーカス	68、74、75
通風口	10
データ	
記憶構造	109
記憶データの種類	110
データのリセット	111
データを保護する	113
標準レジストレーションデータ	99
プリセットデータ	110
テストパターン	
テストパターンの種類	64
各調整モードで使うテストパターン	66
電池の入れかた	44
電源コードの接続	29
「同期選択」	54
「同期付G」	59
「同期判別モード」	54

### な行

「内部IDTV」	63
「内部発振パターン」	60
「内部発振モード」	60
ターミネートコネクター	30

「入力A」	50、56
入力切替メニュー	50
入力情報メニュー	58
「入力信号形態」	59
入力信号ごとの微調整	
ビデオ信号	100
RGB信号	104
「入力B」	50、56
入カメモリーオプションメニュー	59
「入カメモリーNo.」	59

## は行

「パターン」	57
「パワーオンディレイ」	61
ハンドルリリースレバー	10、13
ハンドルを使用する	13
「ビデオ」	50
ビデオ信号のサイズ調整	102
ビデオ信号のシフト調整	102
「ビデオメモリー」	51
「表示言語」	57
標準レジストレーションデータ	99
ピンクッション (PIN) 調整	85、93、98
ピンクッションバランス	
(PIN BALANCE) 調整	87、95、98
フォーカス調整	
赤と青のフォーカス調整	74
手順	67
マグネフォーカス調整	72、74、75
緑のフォーカス調整	68
レンズフォーカス調整	68、74、75
「ブライトネスユニフォーミティ」	63
「ブランキング」	55
ブランキング調整	103、106
プロジェクターサスペンション	
サポート	11、16、17
ボウ (BOW) 調整	83、91、98
ホワイトバランス調整	107

## ま行

マグネフォーカス調整	72、74、75
マグネフォーカス、AQP/DQPの	
微調整	100、104
メニュー	
オプション	63
画質調整	51
サービス設定	60
初期設定	56
信号設定	53
セット情報	61
入力切替	50

入力情報	58
入カメモリーオプション	59
ユニフォーミティ調整	62
ABLリンク調整	63
メニュー操作	49

## や行

ユーザーモード	113
ユニフォーミティ調整	76
ユニフォーミティ調整メニュー	62

## ら行

リニアリティ (LIN) 調整	81、89、98
リセット	
サービスデータリセット	111
設定値をリセットする	49
データのリセット	111
128データリセット	111
ファクトリーデータリセット	111
リモコン受光部	10
リモートコマンダー	
キーの名称と働き	46
サービスマン調整モードにする	43
電池の入れかた	44
プロジェクターに接続する	45
ユーザーモードに戻す	113
「累積操作時間」	61
レジストレーション調整	
青のレジストレーション調整	98
赤のレジストレーション調整	89
準備	78
手順	77
緑のレジストレーション調整	80
レンズフォーカス調整	68、74、75

## アルファベット順

### A、B

「ABGモード」	57
「ABLリンク」	40
ABLリンク調整メニュー	63
「ABLレベル調整」	63
AQP/DQP調整とは	72
BNCケーブル	34

### C、D、E、F、G、H

CRTコンバー角	26
「CRT使用時間」	61
「D.ピクチャー」	52

### I、J、K、L、M、N、O

IFB-40	28、33
IFU-1271J	32

### P、Q、R

PC-1271J	33
PSS-70	
取り付け穴	11
取り付けかた	16、17

### R

「RGBサイズ」	54
RGBサイズ調整	105
「RGBシフト」	55
RGBシフト調整	105
「RS-422A」	60

### S、T、U、V、W、X、Y、Z

SIC-Mケーブル	33
「SIRCS受光部」	57
「Vアパーチャー」	63
「Vシフト」	54

お問い合わせは  
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35  
ソニーマーケティング株式会社 情報システム営業本部 〒108-0074 東京都港区高輪4-10-18

---

Sony online <http://www.world.sony.com/>

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

この説明書は再生紙を使用しています。

Printed in Japan